

平成30年度郡山市 セーフコミュニティ地域診断 (2019〈H31〉.4.10版)



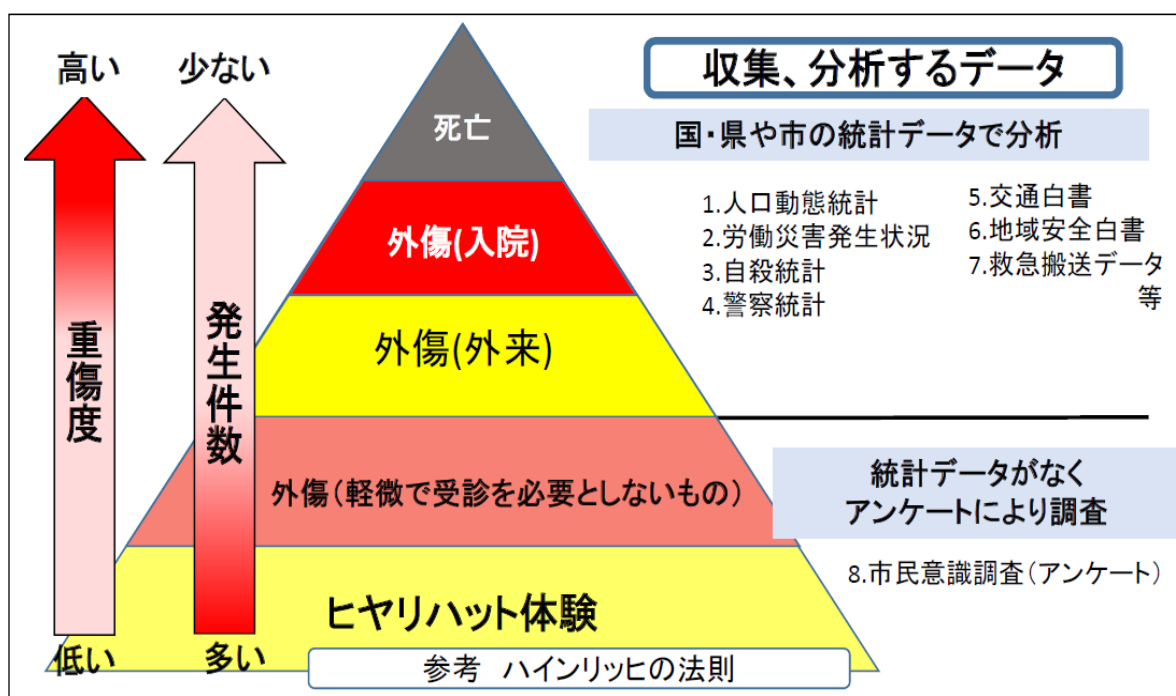
地域診断データ一覧

- 1 福島県警察本部・郡山警察署・郡山北警察署
「平成22～29年 交通白書」※平成30年分の値は各署より聞き取り
- 2 郡山警察署・郡山北警察署
「平成22～29年 地域安全白書」※平成30年の値は各署より聞き取り
- 3 郡山警察署・郡山北警察署
「平成23～30年 児童相談通告件数」
- 4 警察庁
「平成22～29年 警察白書」※平成30年分は集計中
- 5 郡山市保健所
「平成21～28年 人口動態統計(死因帳票)」
- 6 総務省消防庁
「平成22～30年版 消防白書」
※救急車両により搬送された人数を使用。平成30年データは未公開。
- 7 福島県消防保安課
「平成24～30年版 消防防災年報」
- 8 郡山地方広域消防組合
「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」、「平成26～30年救急搬送データ」
※「急病」、「医師搬送」、「転院搬送」、「資器材等」及び「その他」は除く。
- 9 郡山地方広域消防組合
「平成22～30年版 消防年報」
- 10 こども家庭相談センター
「平成21～29年度 相談等の取扱件数推移」
- 11 厚生労働省
「平成21～29年度 児童相談所における児童虐待相談対応件数」
- 12 内閣府男女共同参画局
「平成21～29年度配偶者暴力相談支援センターにおける配偶者からの
暴力が関係する相談件数などの結果について」
「平成22～29年度 センター別包括的支援事業の実施状況」
- 14 厚生労働省労働基準局・福島労働局・郡山労働基準監督署
「平成21～29年 労働災害発生状況」
※郡山労働基準監督署管内で田村市、田村郡、本宮市、大玉村を含む。鉱業は除く。
- 15 平成26年度セーフコミュニティ市民意識調査結果
「平成26年12月実施」
- 16 平成28年度セーフコミュニティ市民意識調査結果
「平成28年10月実施」
- 17 平成30年度セーフコミュニティ市民意識調査結果
「平成30年10月実施」

地域診断について

地域診断は、郡山市におけるけがや事故の状況を明らかにするため隔年で実施しています。第1回は、平成26年度、第2回は平成28年度に実施しました。3回目となる今回は、これまでに収集した統計データを引き続き更新し、新たに6分野の対策委員会(交通安全、こどもの安全、高齢者の安全、自殺予防、防犯、防災・環境安全)から提示された必要なデータのアンケート調査結果等を追加します。

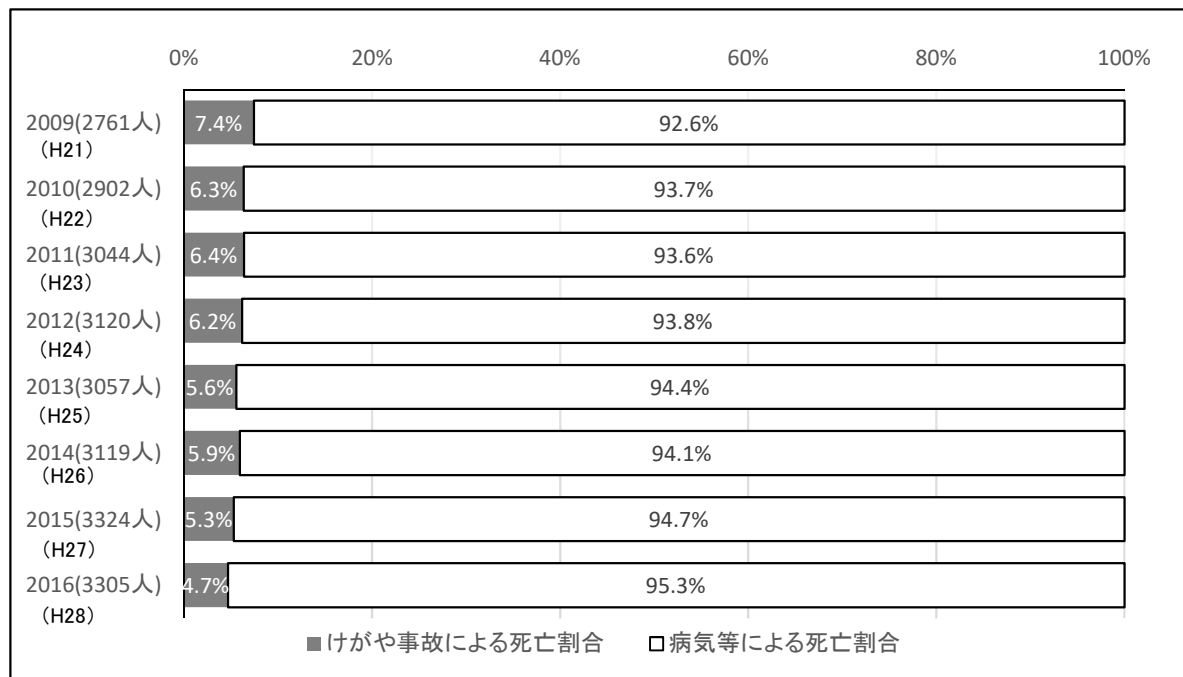
また、地区・地域ごとの更なるセーフコミュニティ活動の推進に役立つデータ集とするため、地区・地域ごとのデータも追加します。



郡山市のけがや事故が占める死亡割合

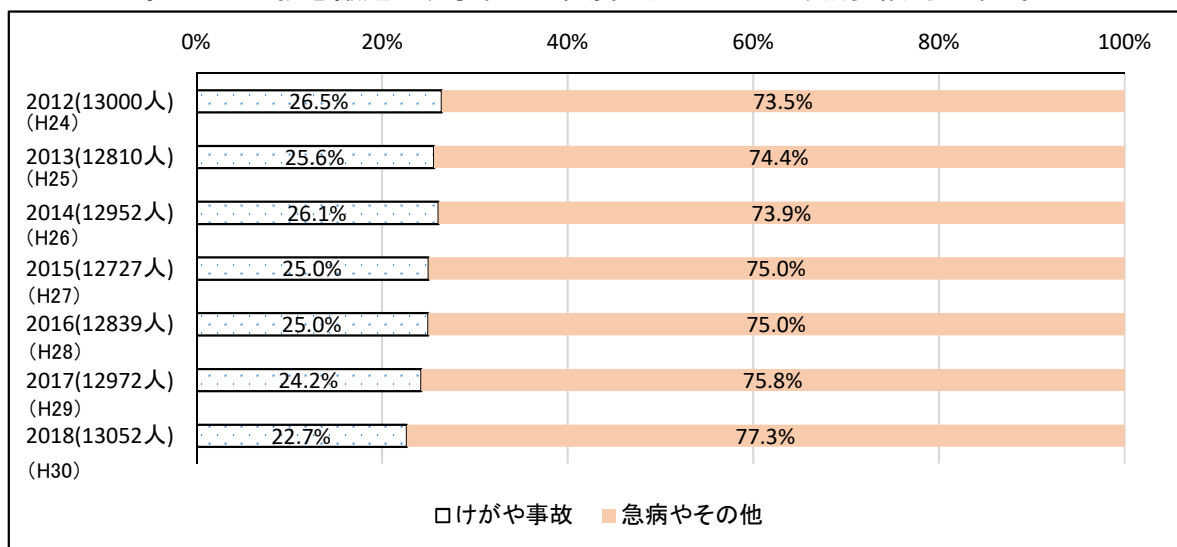
セーフコミュニティは、「事故やけが」を予防することを目的としている。

人口動態統計によると、9割以上が病気による死亡である。
けがや事故が要因で亡くなる方の割合は、微減傾向である。



郡山市保健所「平成21～28年 人口動態統計」より

救急搬送データの場合は、7割以上が急病やその他である。
けがや事故による救急搬送は、毎年25%程度となっているが、減少傾向にある。



郡山地方広域消防組合「平成22～28年 救急搬送データ（国表）」より

郡山市の人口

2016(平成28)年1月1日現在

年齢	男	女	合計	構成率	構成率10歳毎		構成率現役世代等			
0-4	6,907	6,460	13,367	4.1%	0-9	8.3%	未成年 0-19	18.1%	現役 世代 20-64	58.1%
5-9	7,097	6,752	13,849	4.2%	10-19	9.8%				
10-14	7,892	7,496	15,388	4.7%	20-29	10.8%				
15-19	8,460	8,189	16,649	5.1%	30-39	12.9%				
20-24	8,954	8,291	17,245	5.3%	40-49	14.0%				
25-29	9,458	8,738	18,196	5.6%	50-59	13.3%				
30-34	10,549	9,570	20,119	6.1%	60-69	14.3%	高齢① 65-74	12.3%	年金 受給 世代 65-∞	23.8%
35-39	11,380	10,785	22,165	6.8%	70-79	9.3%				
40-44	12,694	11,804	24,498	7.5%	80-89	5.9%				
45-49	10,827	10,583	21,410	6.5%	90-∞	1.3%				
50-54	10,800	10,662	21,462	6.6%	合計	100.0%	合計	100.0%		
55-59	11,060	10,978	22,038	6.7%						
60-64	11,367	11,623	22,990	7.0%						
65-69	11,683	12,153	23,836	7.3%						
70-74	7,847	8,665	16,512	5.0%						
75-79	6,035	7,954	13,989	4.3%						
80-84	4,491	7,270	11,761	3.6%						
85-89	2,503	5,175	7,678	2.3%						
90-94	813	2,446	3,259	1.0%						
95-99	149	628	777	0.2%						
100-104	20	95	115	0.0%						
105-109	0	4	4	0.0%						
110-114	0	0	0	0.0%						
合計	160,986	166,321	327,307	100.0%						

2018(平成30年)1月1日現在

年齢	男	女	合計	構成率	構成率10歳毎		構成率現役世代等			
0-4	6,856	6,478	13,334	4.1%	0-9	8.2%	未成年 0-19	17.8%	現役 世代 20-64	57.2%
5-9	6,966	6,526	13,492	4.1%	10-19	9.6%				
10-14	7,541	7,249	14,790	4.5%	20-29	10.5%				
15-19	8,410	8,000	16,410	5.0%	30-39	12.5%				
20-24	8,742	7,911	16,653	5.1%	40-49	14.4%				
25-29	9,082	8,342	17,424	5.3%	50-59	13.0%				
30-34	10,242	9,388	19,630	6.0%	60-69	14.4%	高齡① 65-74	13.0%	年金 受給 世代 65-∞	25.0%
35-39	10,828	10,286	21,114	6.5%	70-79	9.8%				
40-44	12,330	11,643	23,973	7.4%	80-89	6.2%				
45-49	11,680	11,225	22,905	7.0%	90-∞	1.5%				
50-54	10,479	10,376	20,855	6.4%	合計	100.0%	合計	100.0%		
55-59	10,811	10,811	21,622	6.6%						
60-64	10,928	11,045	21,973	6.7%						
65-69	12,084	12,794	24,878	7.6%						
70-74	8,337	9,094	17,431	5.4%						
75-79	6,338	8,030	14,368	4.4%						
80-84	4,610	7,283	11,893	3.7%						
85-89	2,746	5,446	8,192	2.5%						
90-94	933	2,783	3,716	1.1%						
95-99	161	744	905	0.3%						
100-104	16	102	118	0.0%						
105-109	1	6	7	0.0%						
110-114	0	1	1	0.0%						
合計	160,121	165,563	325,684	100.0%						

※住民基本台帳に基づく人口

郡山市の人口構成について

2016(平成28)年1月1日と2018(平成30)年1月1日の人口構成比を比較する。

- ・未成年(0-19歳)は、18.1%から17.8%と0.3ポイント減少。
- ・現役世代(20-64歳)は、58.1%から57.2%と0.9ポイント減少
- ・65歳以上は、23.8%から25.0%と1.2ポイント増加。

若い世代の人口が減少し、高齢者の人口が増加している。
高齢者の人口は、25.0%と人口の4分の1を占めている。

データを分析するにあたって

集計したデータを単純比較する以外に年齢構成割合等を見て分析。

(例) A地区の男女別交通事故による負傷者数について

負傷者数 100 人
内訳) 男性 60 人
女性 40 人

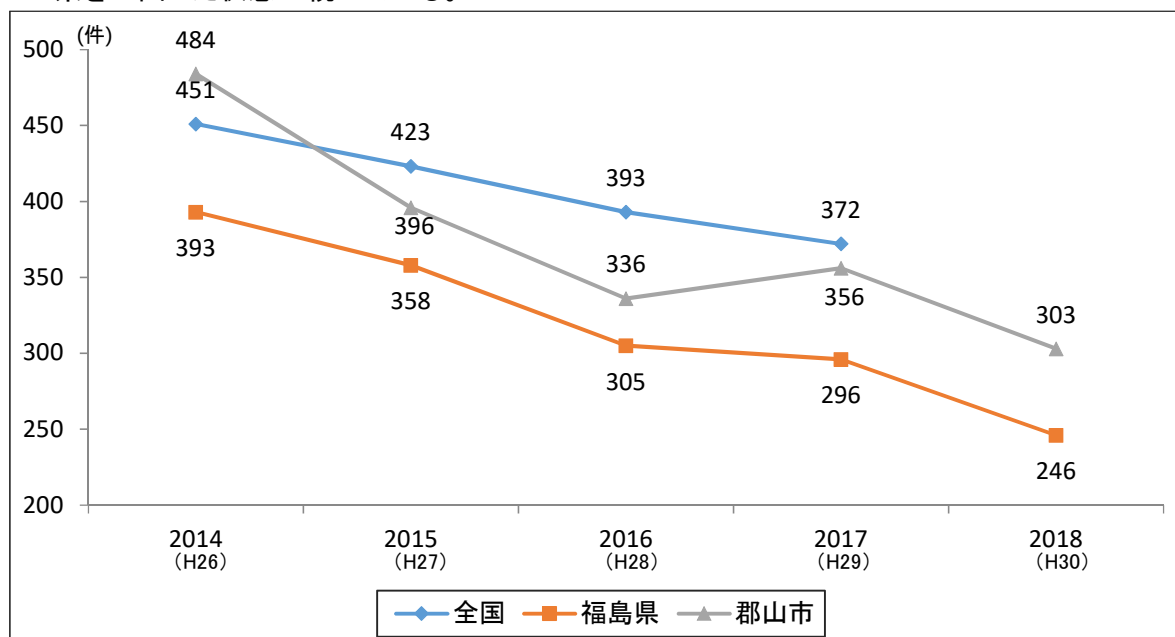
単純に比較した場合、交通事故による負傷者数は、男性が60%、女性が40%である。
男性は女性より交通事故にあいやすい。

しかし、その地区の男女数が男性 1,050人、女性 450人だった場合、人口比率では男性が70%、女性が30%となり、人口割合だけ見れば男性が多いため事故が多くなるとも言える。

分野1 交通安全

(1) 交通事故の発生推移状況(人口10万人あたり)

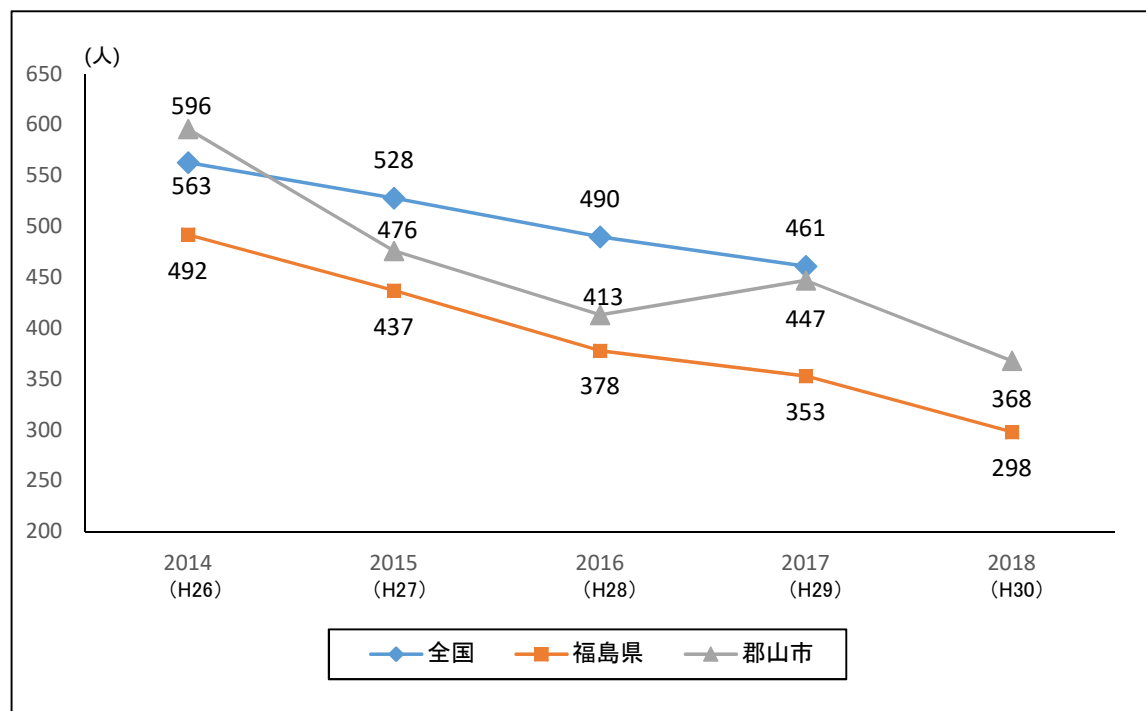
全体的に減少傾向が続いている。郡山市は、2015(平成27)年以降全国より下回っているが、県を上回った状態が続いている。



警察庁「平成26～29年 警察白書」、福島県警察本部・郡山警察署・郡山北警察署「平成26～30年 交通白書」より

(2) 交通事故による死傷者数推移状況(人口10万人あたり)

全体的に減少傾向が続いている。

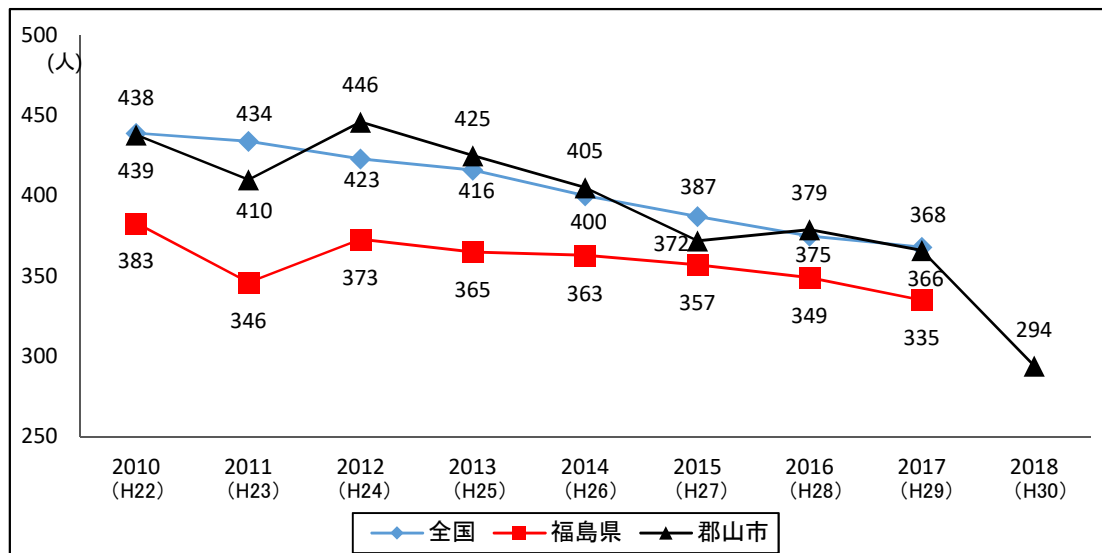


警察庁「平成26～29年 警察白書」、福島県警察本部・郡山警察署・郡山北警察署「平成26～30年 交通白書」より

分野1 交通安全

(3) 交通事故を要因とした救急搬送者数推移(人口10万人あたり)

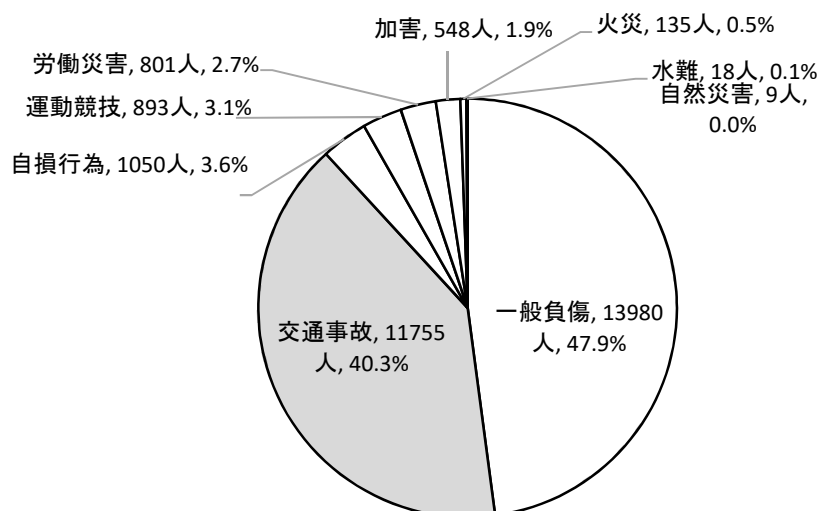
郡山市は2016(平成28)年に微増となったが減少傾向にある。
交通事故発生件数及び死傷者数の推移とほぼ同様の傾向である。



総務省消防庁「平成22～29年 消防白書」、福島県消防保安課「平成22～29年 消防防災年報」、
郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

(4) 交通事故を要因とした救急搬送が占める割合 (2010<平成22>年～2018<平成30>年累計救急搬送者 29,189人)

「交通事故」の40.3%は、「一般負傷」の47.9%に次ぐ割合を占めている。
この2つで、病気以外の救急搬送のおよそ9割を占めている。

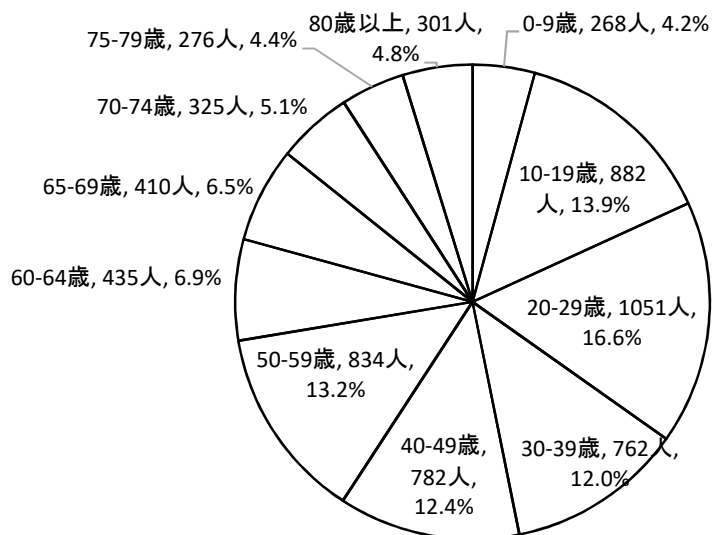


郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

分野1 交通安全

(5) 交通事故を要因とする救急搬送の年齢層別割合 (2014<平成26>年～2018<平成30>年累計救急搬送者 6,326人)

下記表を見ると、「10-19歳」、「20-29歳」が人口割合に比べ交通事故を要因とした救急搬送率が高い。



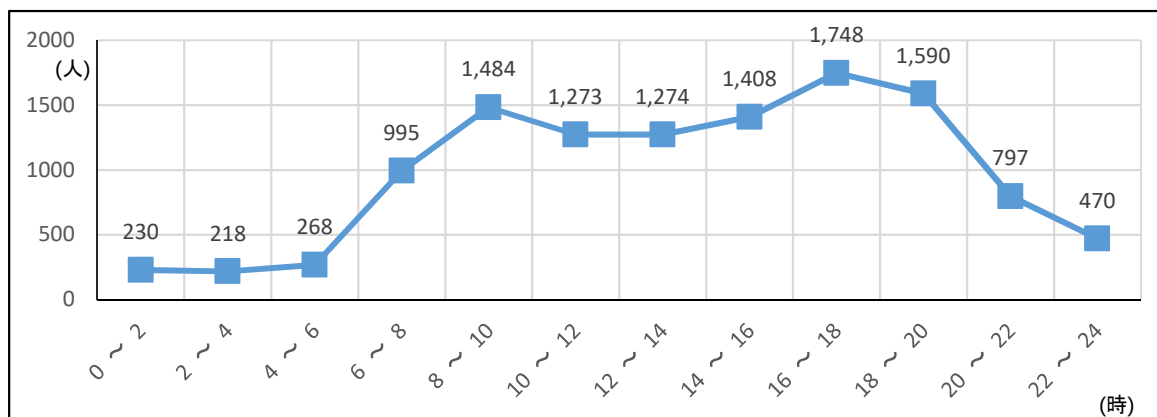
郡山地方広域消防組合「平成26～30年 救急搬送データ」より

年齢層	人口割合・・・①	事故発生率・・・②	①－②
0-9歳	8.2%	4.2%	4.0%
10-19歳	9.6%	13.9%	-4.3%
20-29歳	10.5%	16.6%	-6.1%
30-39歳	12.5%	12.0%	0.5%
40-49歳	14.4%	12.4%	2.0%
50-59歳	13.0%	13.2%	-0.2%
60-69歳	14.4%	13.4%	1.0%
70-79歳	9.8%	9.5%	0.3%
80歳以上	7.7%	4.8%	2.9%

(6) 交通事故の時間・曜日・月別救急搬送者数 (2010<平成22>年～2018<平成30>年累計救急搬送者)

ア 時間別

朝方(8～10時)と夕方(16～18時)の通勤時間帯が多い。



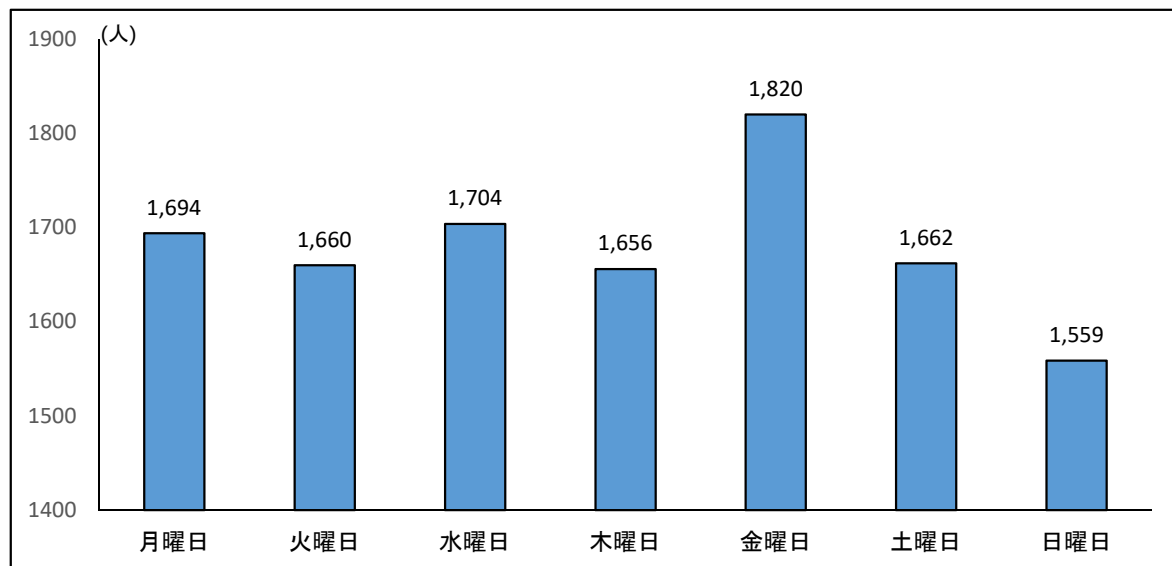
郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

分野1 交通安全

(6) 交通事故の時間・曜日・月別救急搬送者数 (2010〈平成22〉年～2018〈平成30〉年累計救急搬送者)

イ 曜日別

曜日別では、「金曜日」が一番多く、「日曜日」が一番少ない。

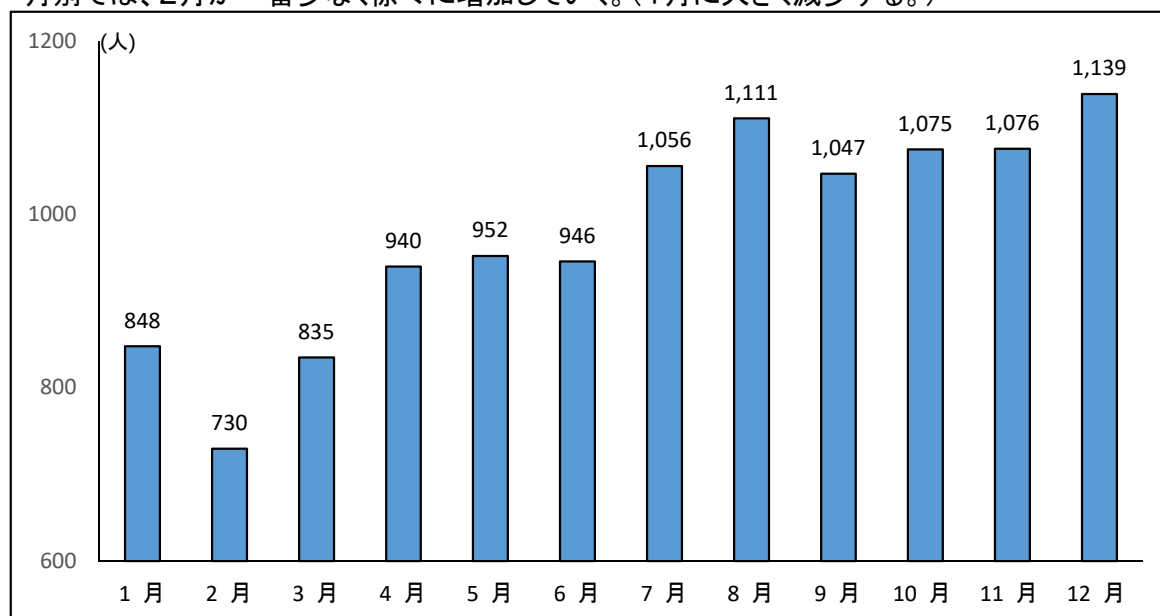


郡山地方広域消防組合「平成22～30年救急搬送データ（国表）」より

(6) 交通事故の時間・曜日・月別救急搬送者数 (2010〈平成22〉年～2018〈平成30〉年累計救急搬送者)

ウ 月別

月別では、2月が一番少なく徐々に増加していく。(1月に大きく減少する。)



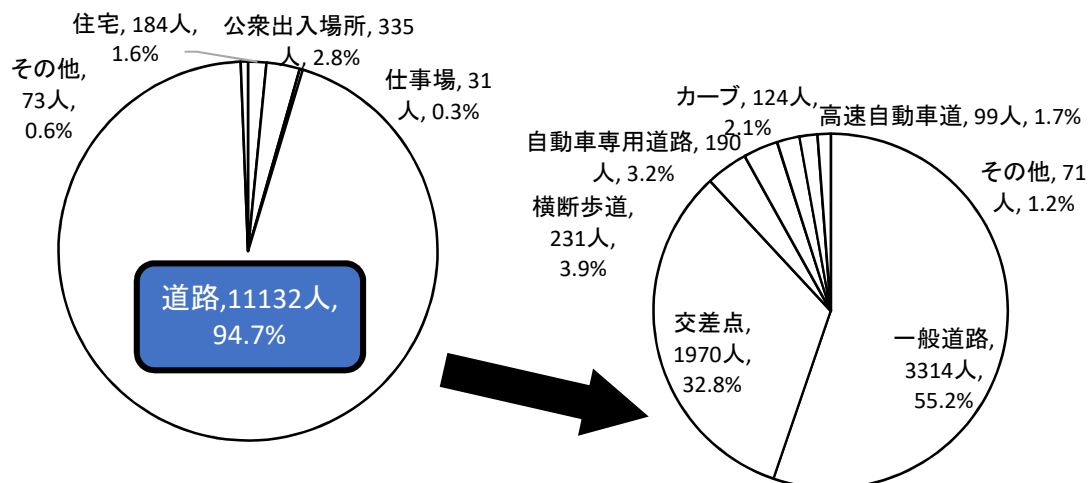
郡山地方広域消防組合「平成22～30年救急搬送データ（国表）」より

分野1 交通安全

(7) 交通事故による救急搬送発生場所

(2014<平成26>年～2018<平成30>年累計救急搬送者 11,755人)

救急搬送発生場所は、「道路」が94.7%である。「道路」の詳細を見ると「一般道路」が55.2%で一番多く、次いで「交差点」が32.8%、「横断歩道」が3.9%である。

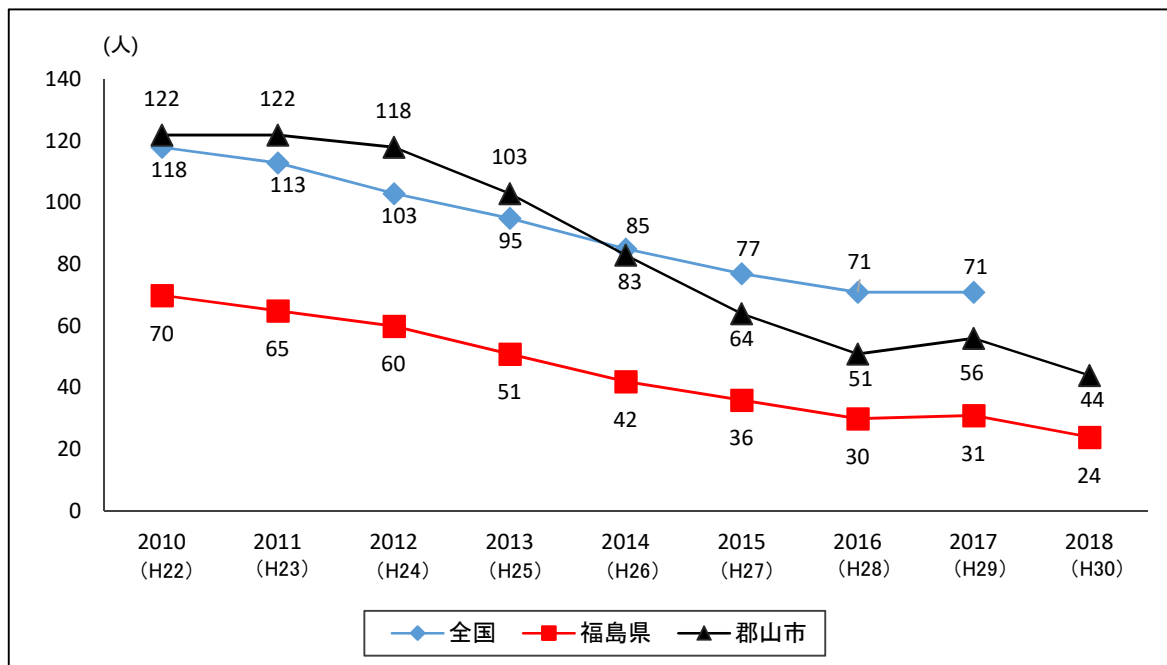


郡山地方広域消防組合「平成26～30年 救急搬送データ（国表）」より

分野1 交通安全

(8) 自転車乗車中の死傷者数(人口10万人あたり)

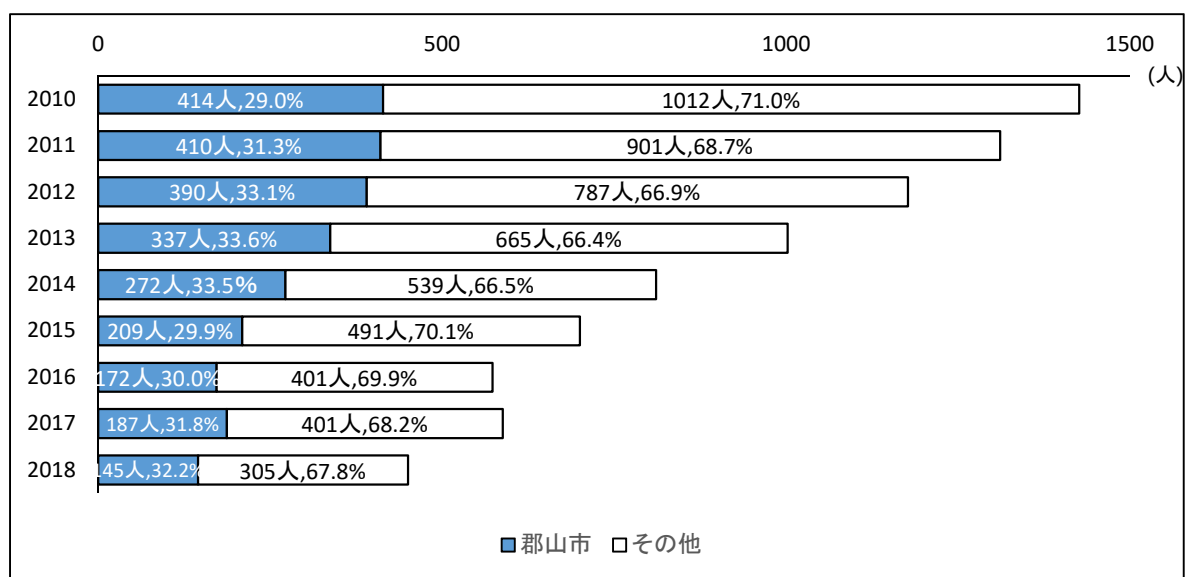
全体的に減少傾向が続いている。2014(平成26)年に全国を下回ったものの、県を上回った状態が続いている。



警察庁「平成22～29年 警察白書」、福島県警察本部・郡山警察署・郡山北警察署「平成22～30年 交通白書」より

(9) 県内の自転車乗車中事故の死傷者数で郡山市が占める割合

郡山市は、各年で全体の約30%を占めている。2018(平成30)年4月1日時点の県内における郡山市の人口割合は17.8%である。
2018(平成30)年は、人口割合に比べ郡山市は約1.8倍自転車乗車中事故の死傷者数が多い。

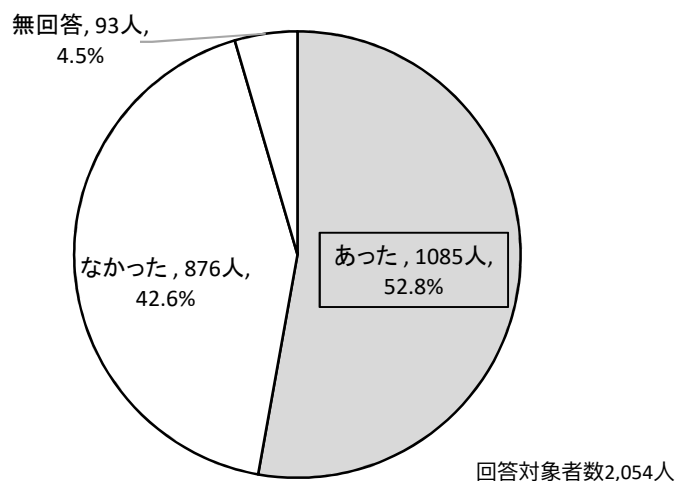


福島県警察本部・郡山警察署・郡山北警察署「平成22～30年 交通白書」より

分野1 交通安全

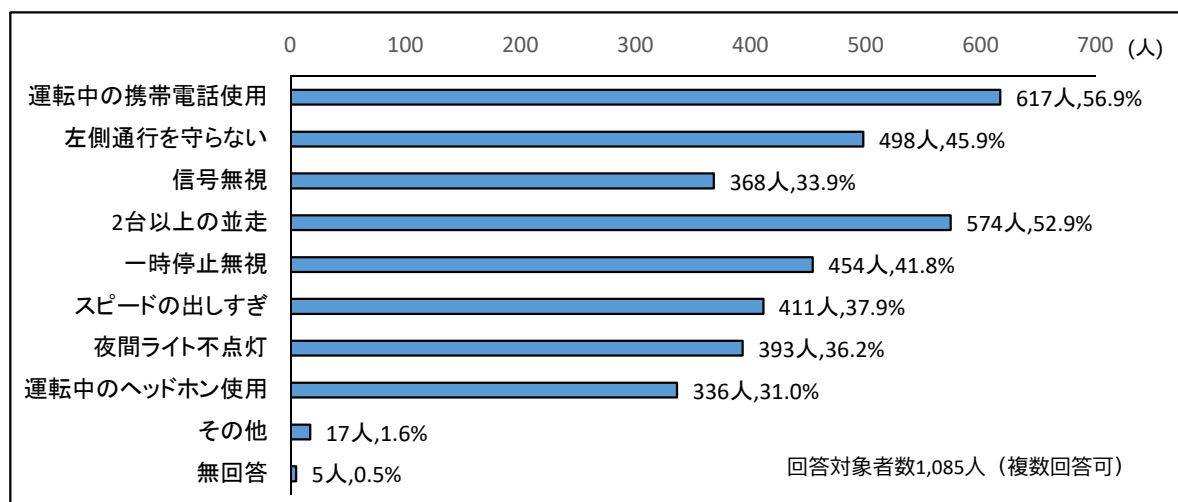
(10)この一年間に他の人が運転する自転車に危険を感じた(または事故にあった)ことについて

「あった」と回答した人が52.8%(H28年度は52.7%)おり、内容としては「運転中の携帯電話使用」が56.9%で一番多く、次いで「2台以上の並走」が52.9%、「左側通行を守らない」が45.9%だった。



「平成30年度セーフコミュニティ市民意識調査結果」より

「あった」と回答した方の内容



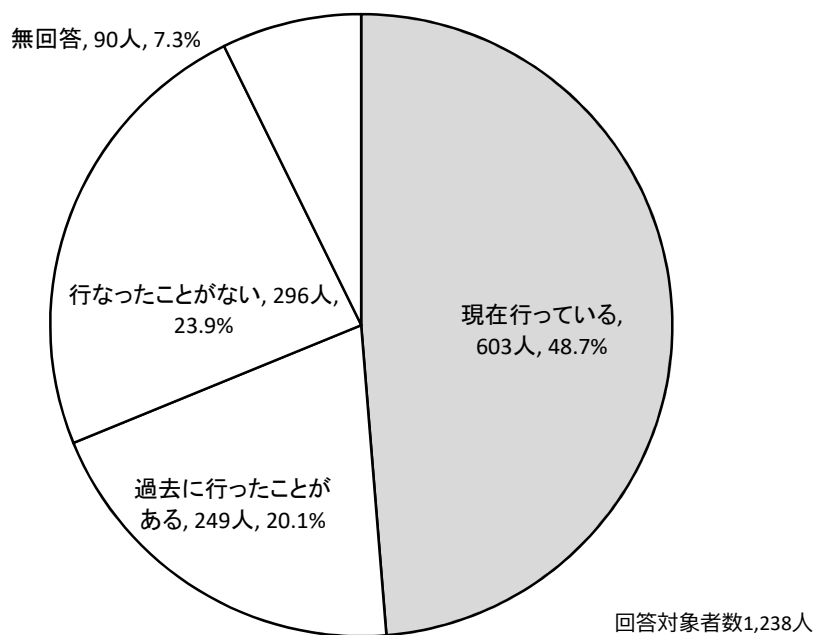
「平成30年度セーフコミュニティ市民意識調査結果」より

分野1 交通安全

(11)交通安全状況の取組状況

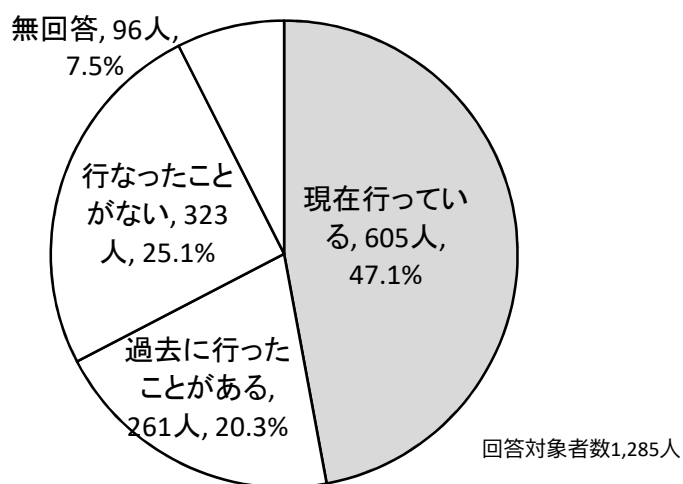
「現在行っている」を比べてみると、2016(平成28)年が47.1%、2018(平成30)年が48.7%と前回の2016(平成28)年に比べ1.6ポイント上昇した。

2018(平成30)年



「平成30年度セーフコミュニティ市民意識調査結果」より

2016(平成28)年

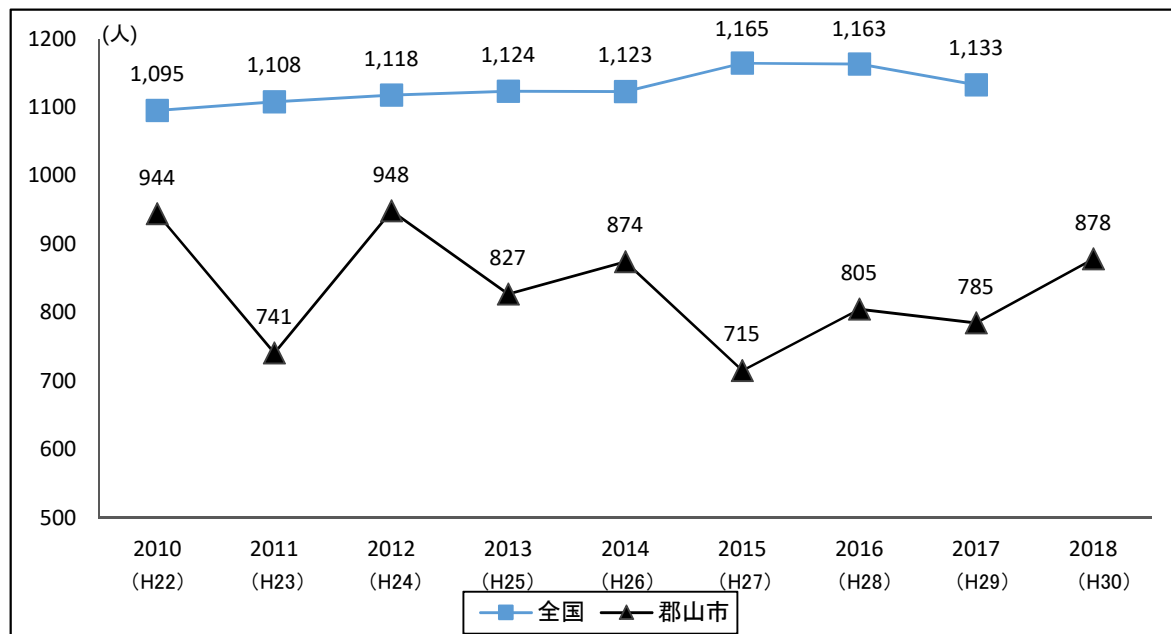


「平成28年度セーフコミュニティ市民意識調査結果」より

分野2 こどもの安全

- (1) 全国・市の交通事故及び一般負傷で救急搬送された新生児～乳幼児(0歳から6歳まで)の推移(人口10万人あたり)

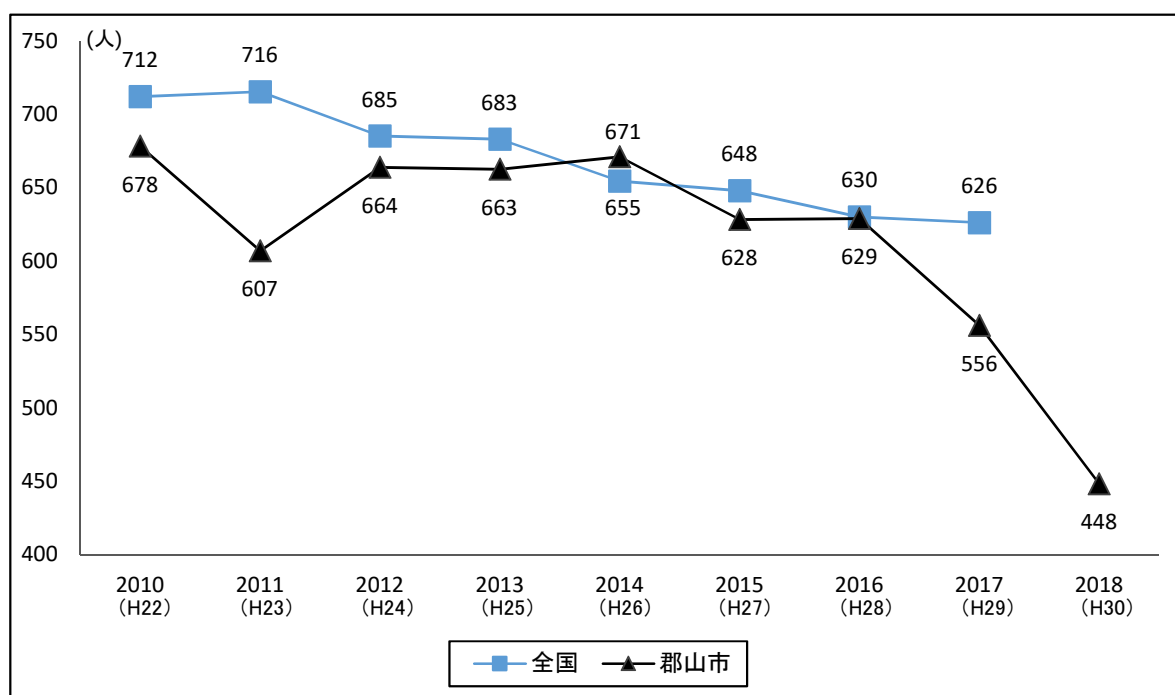
郡山市は増加や減少を繰り返す状況が続いているが、全国を下回っている。



総務省消防庁「平成22～30年版 消防白書」、郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

- (2) 全国・市の交通事故及び一般負傷で救急搬送された少年(7歳から17歳まで)の推移(人口10万人あたり)

郡山市は、2014(平成26)年に全国を上回ったが、その後下回っている。



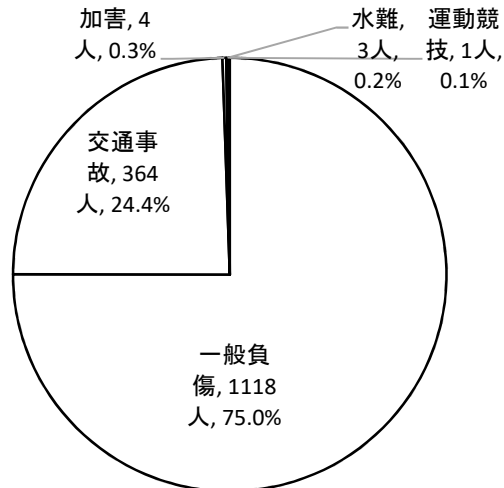
総務省消防庁「平成22～30年版 消防白書」、郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

分野2 こどもの安全

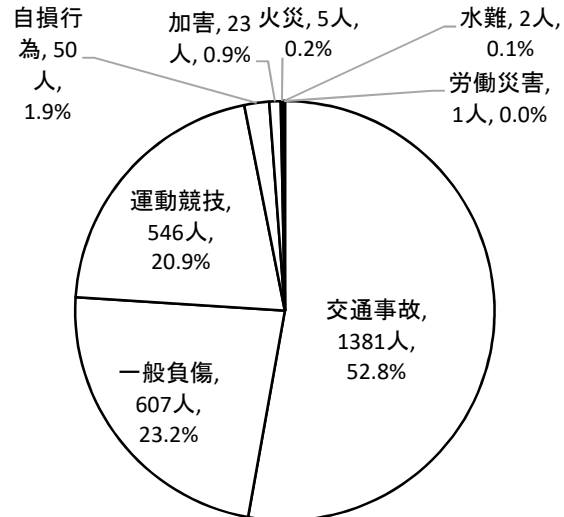
(3) 救急搬送されたこどものけがや事故の種別

新生児～乳幼児は、「一般負傷」が一番多く、7割以上を占める。少年は、「交通事故」が52.8%で一番多く、次いで「一般負傷」が23.2%、「運動競技」が20.9%となっている。

新生児～乳幼児(0歳から6歳まで) 1,490人



少年(7歳から17歳まで) 2,615人

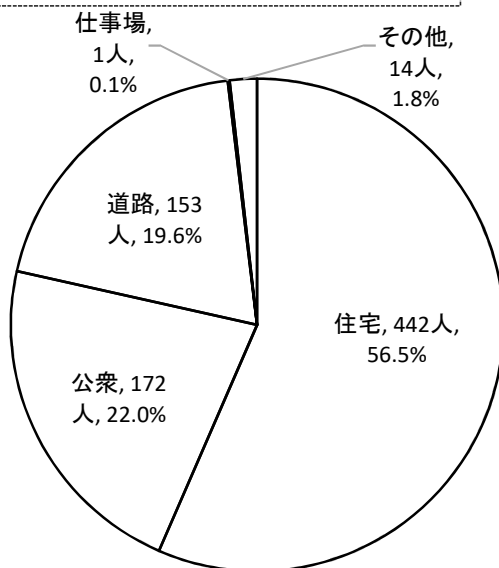


郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

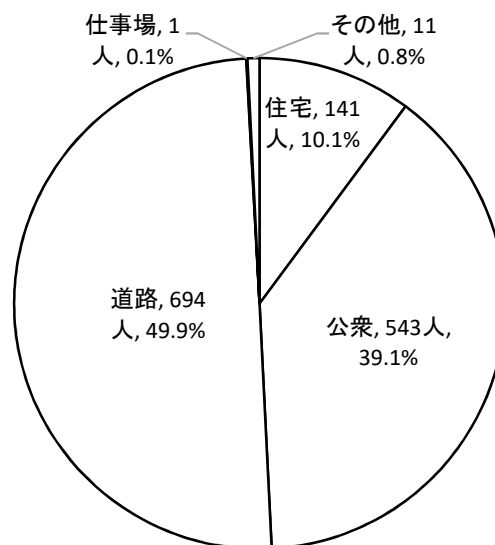
(4) こどもの救急搬送場所

新生児～乳幼児は、「住宅」が56.5%で一番多く、次いで「公衆」が22.0%、「道路」が19.6%である。少年は、「道路」が49.9%で一番多く、次いで「公衆」が39.1%、「住宅」が10.1%となっている。新生児～乳幼児は自宅で過ごす時間が長いため、「住宅」が多いと考えられる。小学生以降は学校で過ごす時間が多くなることや、活動範囲が広がる等により「道路」や「公衆」になると考えられる。

新生児～乳幼児(0歳から6歳まで) 782人



少年(7歳から17歳まで) 1,390人



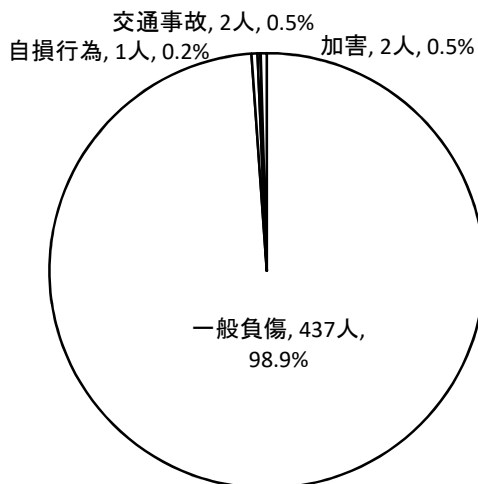
郡山地方広域消防組合「平成26～30年 救急搬送データ」より

分野2 こどもの安全

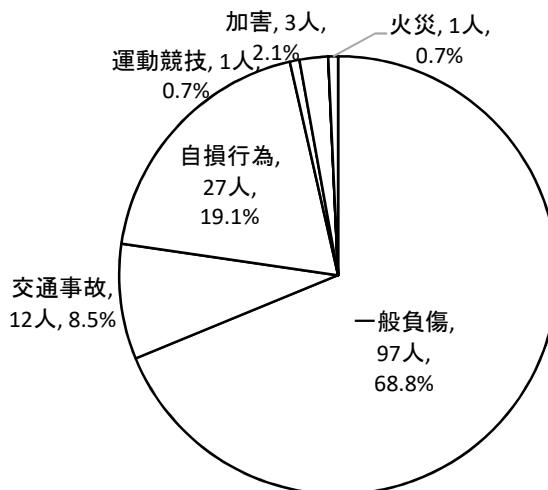
(5) 住宅から救急搬送されたこどものけがや事故種別

新生児～乳幼児は、「一般負傷」が98.9%で一番多い。少年も「一般負傷」が68.8%で一番多く、次いで「自損行為」が19.1%、「交通事故」が8.5%となっている。

新生児～乳幼児(0歳から6歳まで) 442人



少年(7歳から17歳まで) 141人

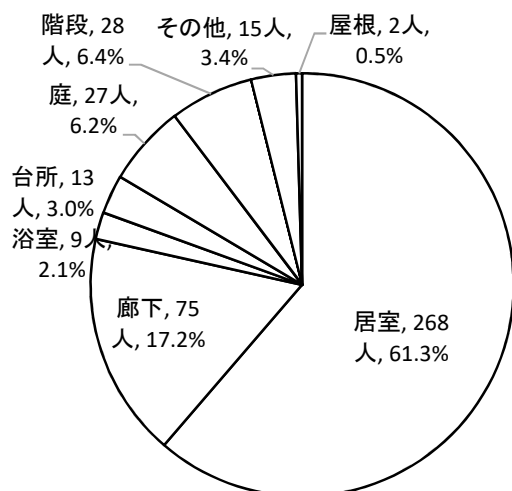


郡山地方広域消防組合「平成26～30年 救急搬送データ」より

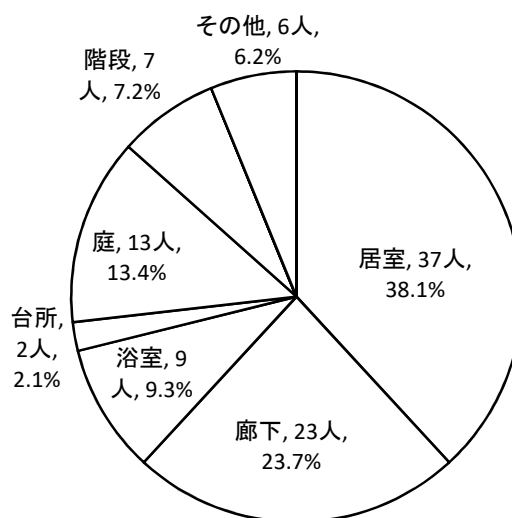
(6) 住宅から一般負傷を要因に救急搬送されたこどものけがや事故の小分類場所

新生児～乳幼児は、「居室」が「61.3%」で一番多く、次いで「廊下」が17.2%、「階段」が6.4%となっている。少年は、「居室」が38.1%で一番多く、次いで「廊下」が23.7%、「庭」が13.4%となっている。どちらの年代でも住宅で起きるけがや事故の場所にあまり変わらない。

新生児～乳幼児(0歳から6歳まで) 437人



少年(7歳から17歳まで) 97人

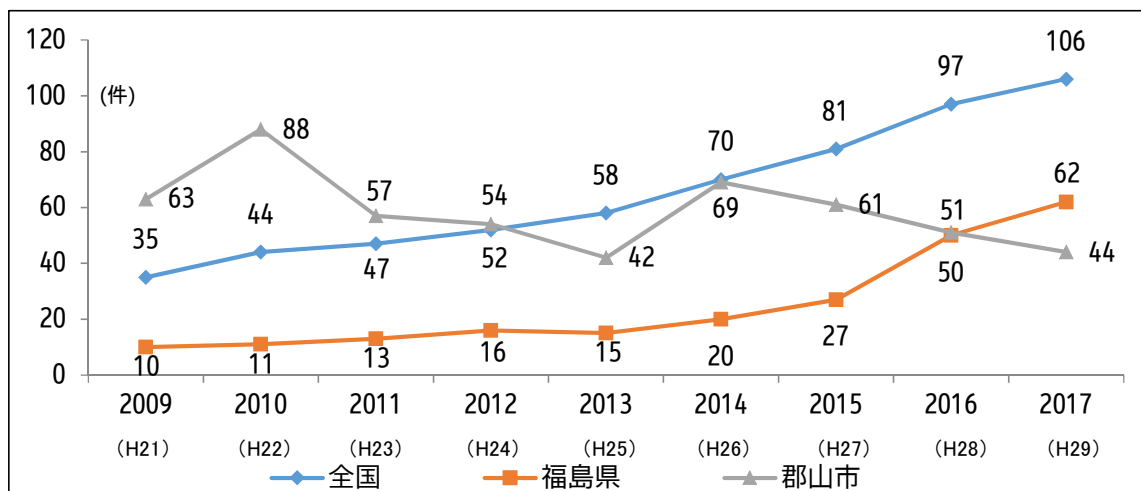


郡山地方広域消防組合「平成26～30年 救急搬送データ」より

分野2 こどもの安全

(7) 児童虐待の相談件数推移(人口10万人あたり)

全国、県ともに上昇傾向にあるが、郡山市は2014(平成26)年以降減少傾向にある。

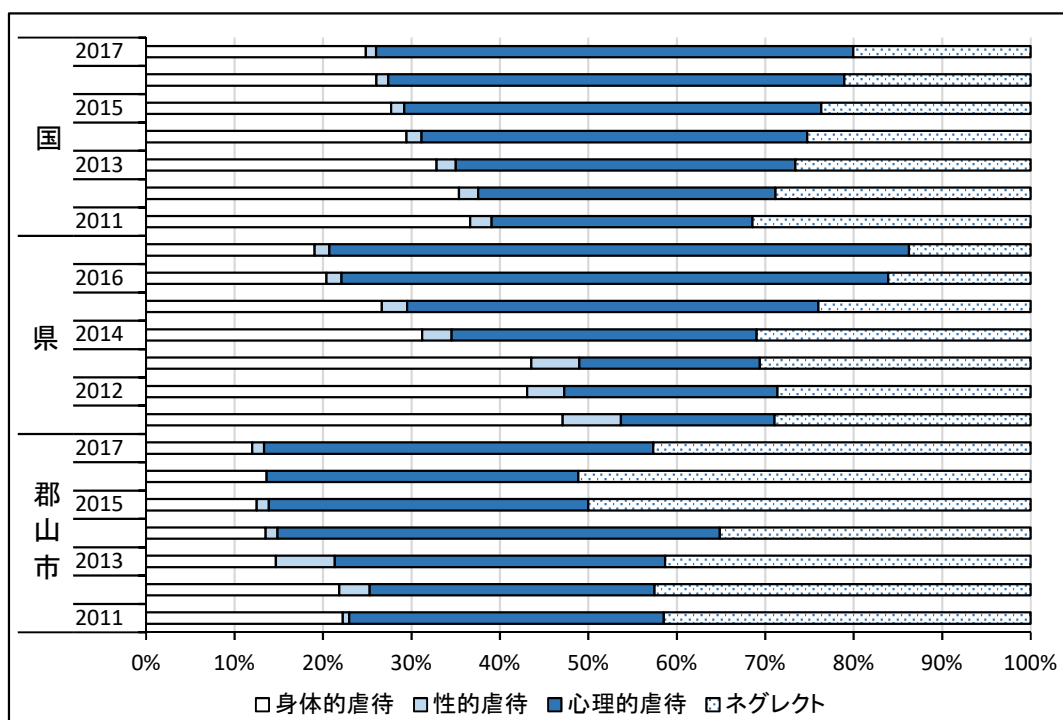


厚生労働省「平成21年～29年度 児童相談所における児童虐待相談対応件数」

参考 郡山市は、2017(平成29年)から、妊娠・出産・子育てを切れ目なくサポートする郡山市子育て世代包括支援センター事業「ニコニコサポート」に取り組んでおり、2017(平成29)年は延べ4,805件、2018(平成30)年は延べ6,179件の相談を受けている。

(8) 児童虐待種別の各年の割合

全国は、「心理的虐待」の割合が、年々大きくなっており、占める割合も一番大きい。
 県も同様に「心理的虐待」の割合が大きくなっており、占める割合も一番大きい。
 郡山市は、国、県と違い比較的「ネグレクト」の割合が大きくなっている。
 占める割合が一番大きい。



厚生労働省「平成23年～29年度 児童相談所における児童虐待相談対応件数」
 子ども家庭相談センター「平成23～29年度 相談等の取扱件数推移」より

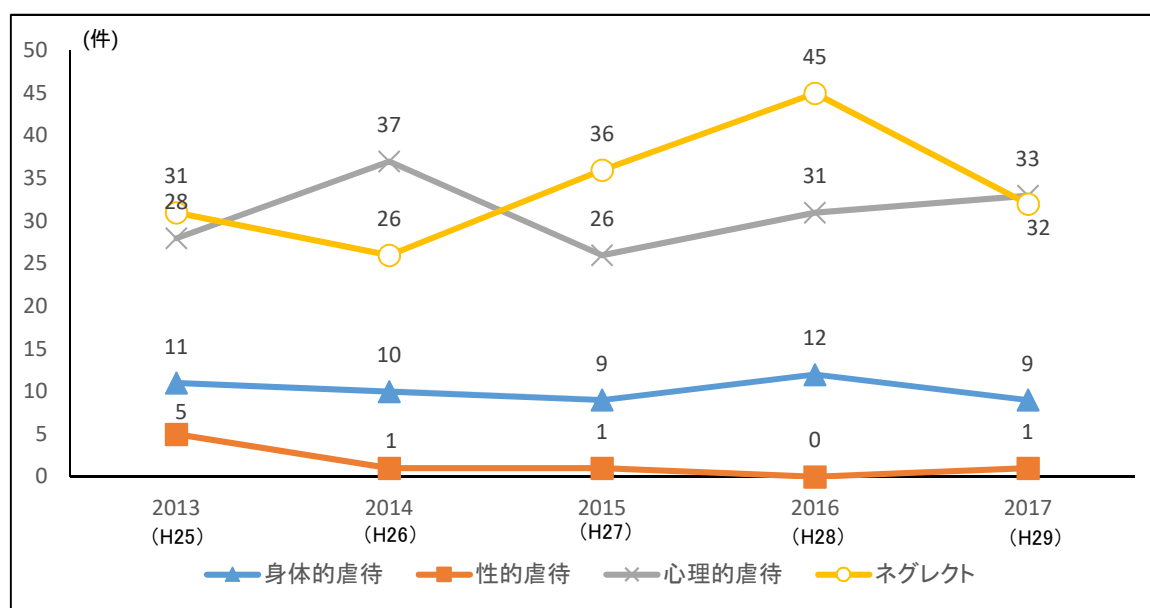
分野2 こどもの安全

(9) 児童虐待種別ごとの推移

「心理的虐待」と「ネグレクト」が常に多い状態で推移している。

※1

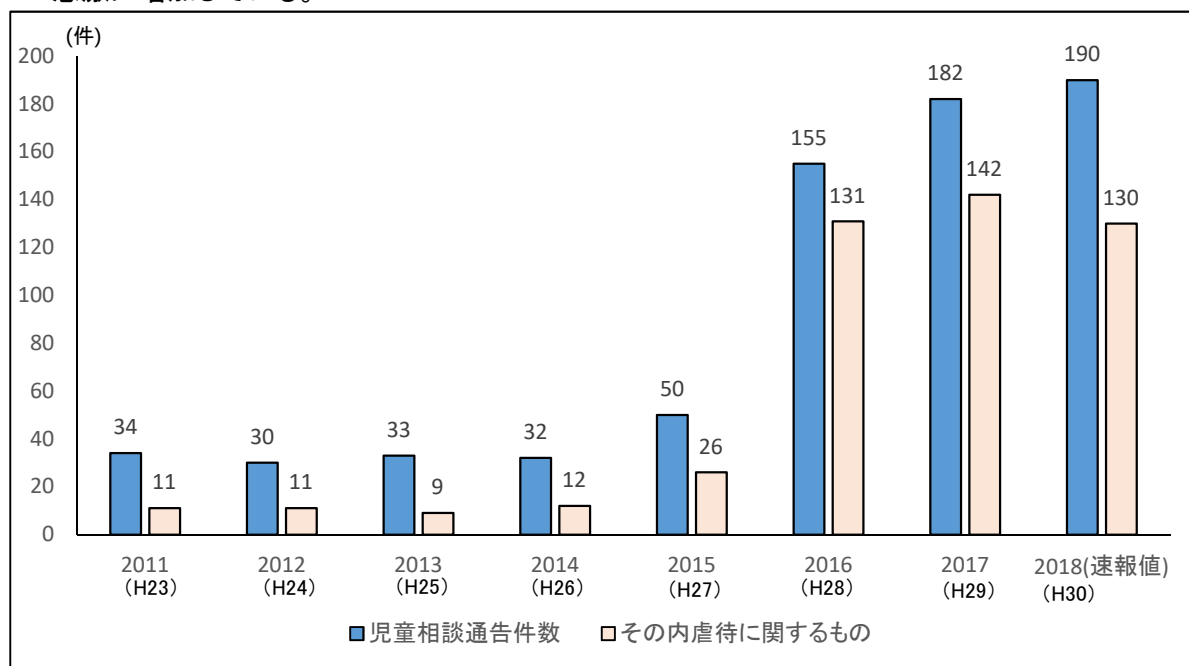
※2



子ども家庭相談センター「平成25～29年度 相談等の取扱件数推移」より

(10) 児童相談通告件数及びその内虐待に関する通告件数

児童相談通告件数は年々増加している。2016年から、面前DV(夫婦間などによるドメスティックバイオレンスを子どもの目の前で行うこと)が、警察から児童虐待通告の対象となったため、急激に増加している。



郡山警察署・郡山北警察署「平成23～30年 児童相談通告件数」より

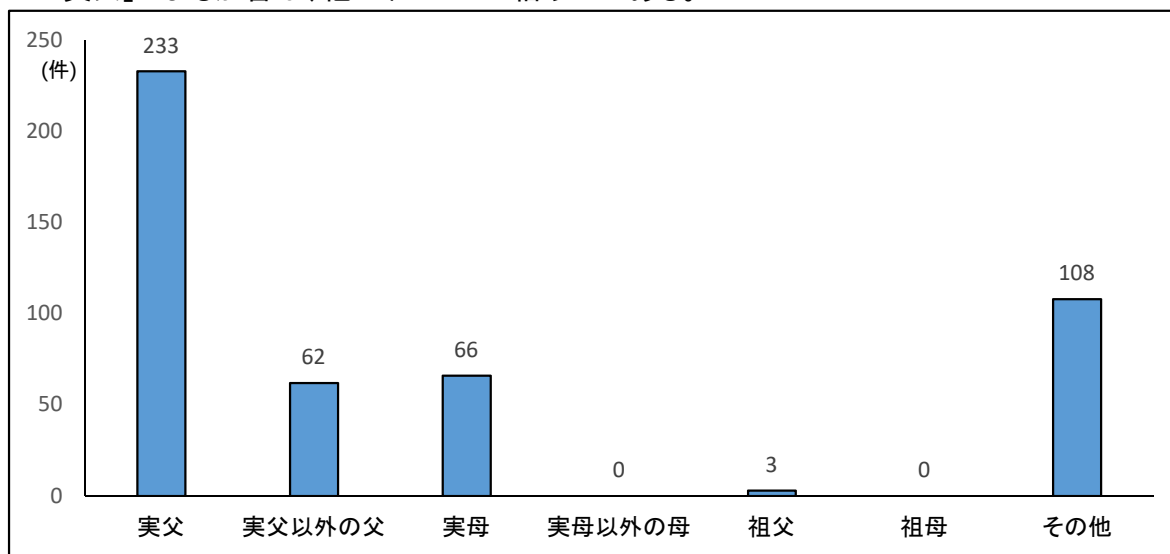
※1心理的虐待・・・大声や脅しなどで恐怖に陥れる、無視や拒否的な態度をとるなどの子供に心理的な傷を負わせる行為

※2ネグレクト・・・保護の怠慢、拒否、放置により、子どもの健康状態や安全を損なう行為。

分野2 こどもの安全

(11) 児童虐待に関する通告の加害者内訳(2011<平成23>年～2018<平成30>年累計 472人)

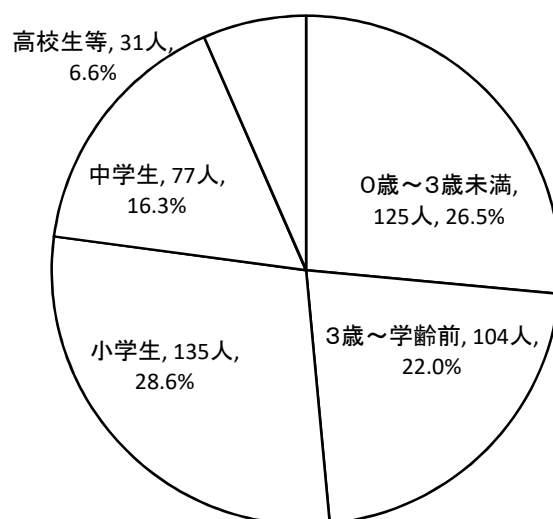
「実父」が加害者となるケースが多く、次いで、「実母」、「実父以外の父」の順となっている。
「実父」による加害は、他のケースの3倍以上である。



郡山警察署・郡山北警察署「平成23～30年 児童相談通告件数」より

(12) 虐待に関する通告の被害者内訳(2011<平成23>年～2018<平成30>年累計 472人)

就学前の被害者に対する通告が、約半数を占める。

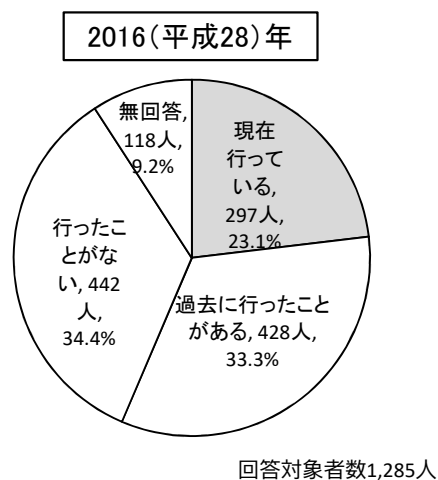
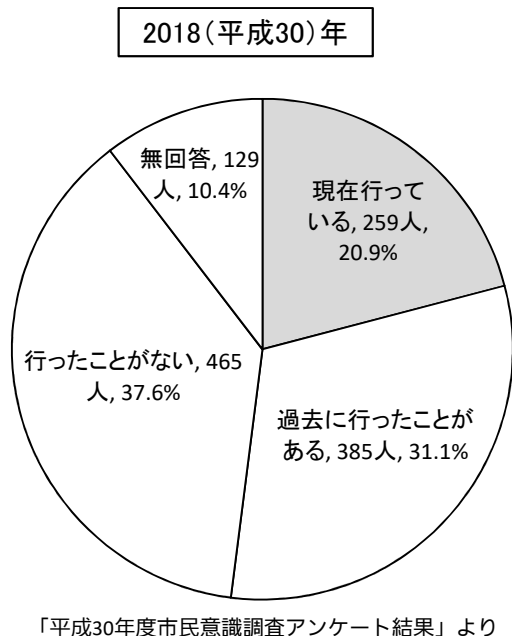


郡山警察署・郡山北警察署「平成23～30年 児童相談通告件数」より

分野2 こどもの安全

(13) こどもの安全活動の取組状況

「現在行っている」を比べてみると、2016(平成28)年が23.1%、2018(平成30)年が20.9%と前回の2016(平成28)年に比べ2.2ポイント減少した。

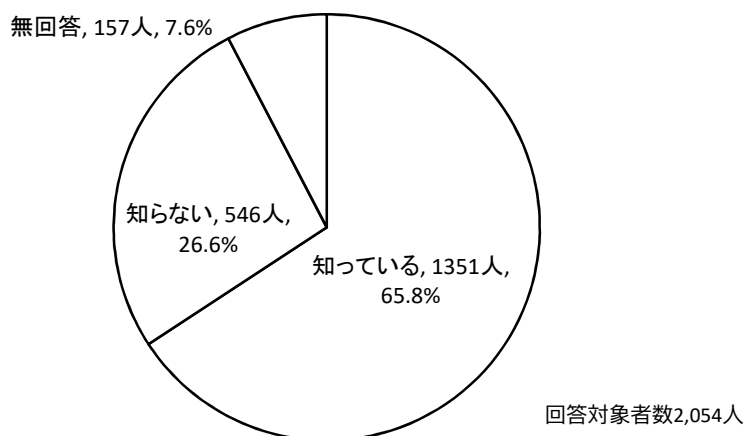


(14) 児童相談所への連絡(報告義務について)

「平成28年度市民意識調査アンケート結果」より

問 あなたは、こどもが虐待を受けているかもしれないと思った場合、児童相談所などに連絡(通告)義務あることを知っていますか？

「知っている」が65.8%で、過半数を超えた。



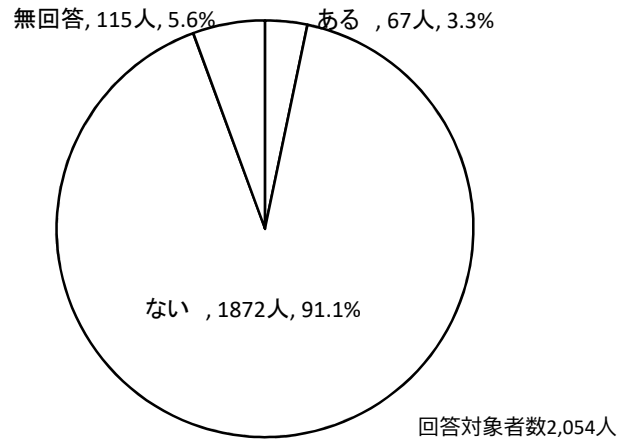
「平成30年度市民意識調査アンケート結果」より

分野2 こどもの安全

(15)こどもの虐待に関する講習会の参加の有無

問 これまでに、こどもへの虐待に関する講習会などに参加したことはありますか？

「ない」が91.1%で、ほとんど受講した方がいない。



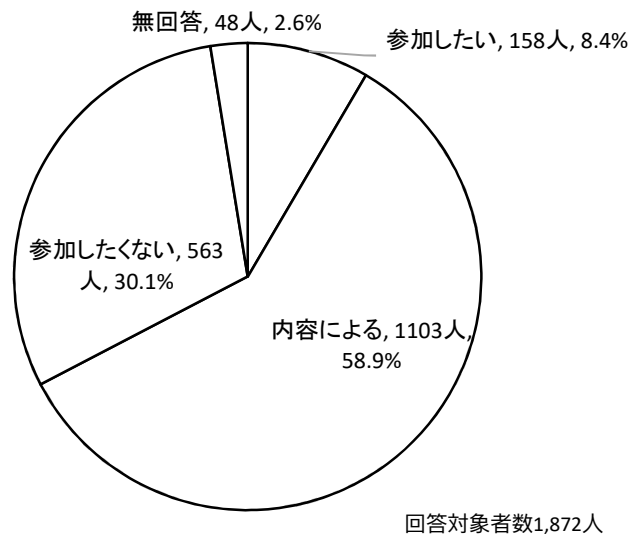
「平成30年度市民意識調査アンケート結果」より

(16)虐待に関する講習会への参加意欲

問 こどもへの虐待に関する講習会などに都合がつけば参加したいと思いますか？

※この一年間でこどもへの虐待に関する講習会などに参加したことがないと回答した方への追加質問

「内容による」が58.9%で、過半数を超えた。

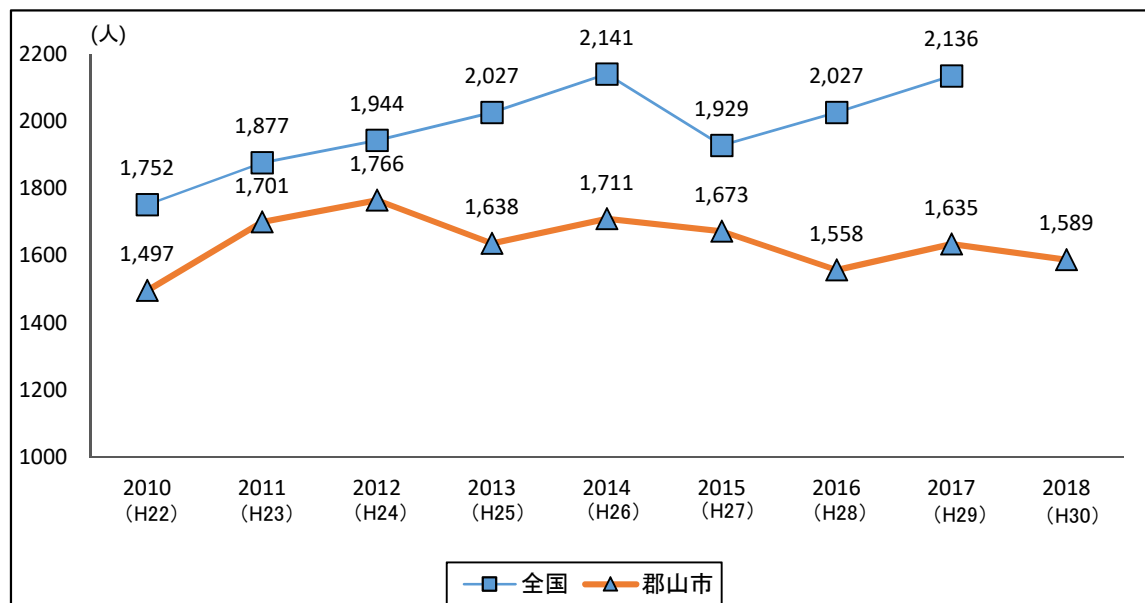


「平成30年度市民意識調査アンケート結果」より

分野3 高齢者の安全

(1)全国・市の交通事故及び一般負傷で救急搬送された高齢者(65歳以上)の推移(10万人当たり)

郡山市は、全国を下回り、ほぼ横ばいで推移している



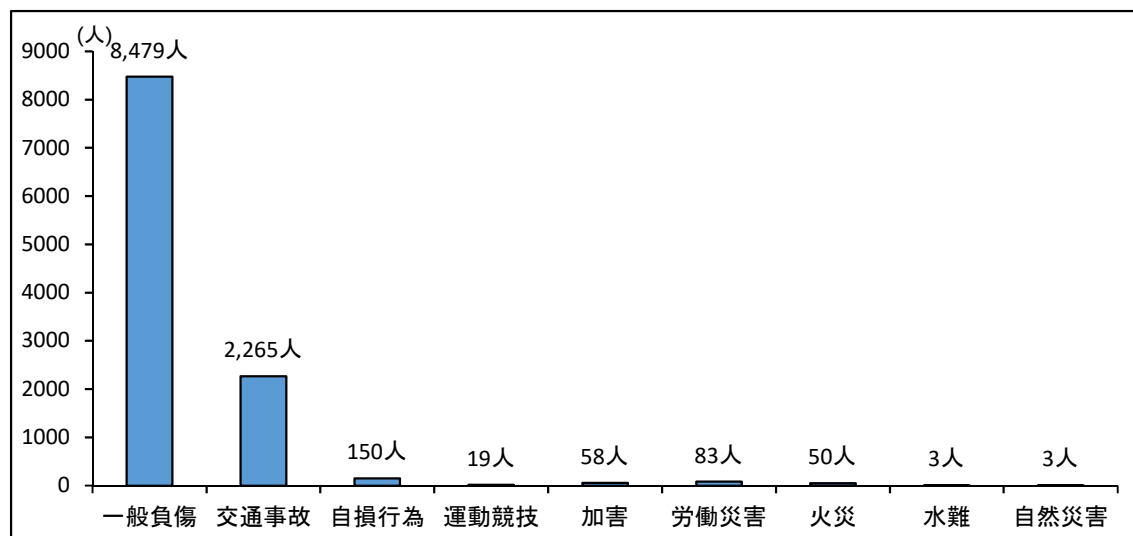
総務省消防庁「平成22～29年版 消防白書」、郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

- ※1 全国の2010～2014年の値は、平成22年実施した国勢調査の年齢別人口より計算した人口（65歳以上）を用いて10万人当たりの値を算出している。
- ※2 「消防白書」では、「高齢者」等の年齢区分の救急搬送の内訳が、「急病」「交通事故」「一般負傷」「その他」でのみ公開されている。そのため、「交通事故」と「一般負傷」のみの救急搬送者数の推移とした。

(2)救急搬送された高齢者のけがや事故の種別

(2010<平成22年>～2018<平成30年>累計)

「一般負傷」が一番多く約75%を占める。次いで「交通事故」が約20%である。

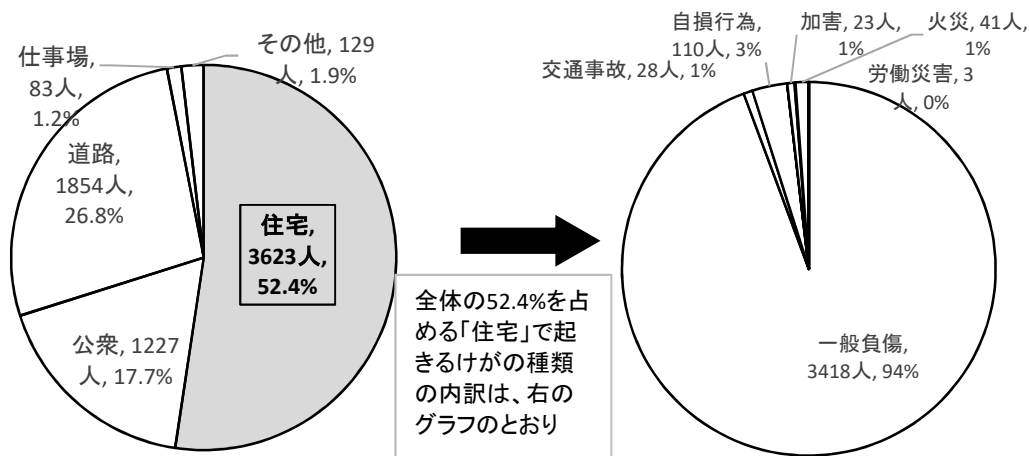


郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

分野3 高齢者の安全

(3) 高齢者のけがや事故による救急搬送発生場所(2014〈平成26〉年～2018〈平成30〉年累計 6,916人)

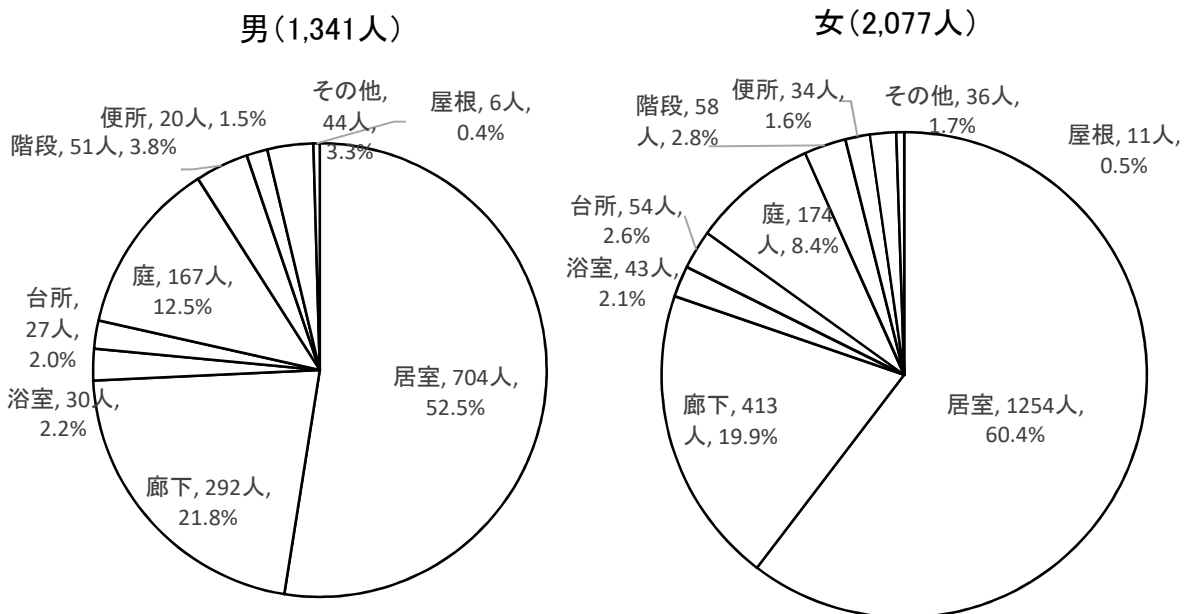
約5割は「住宅」である。「住宅」での事故種別は「一般負傷」が、9割以上を占める。



郡山地方広域消防組合「平成26～30年救急搬送データ」より

(4) 住宅から一般負傷で救急搬送された高齢者の男女別発生場所小分類
(2014〈平成26〉年～2018〈平成30〉年累計)

男女ともに「居室」が一番多く、男が「52.5%」、女が「60.4%」となっている。
次いで、「廊下」で男が21.8%、女が19.9%となっている。



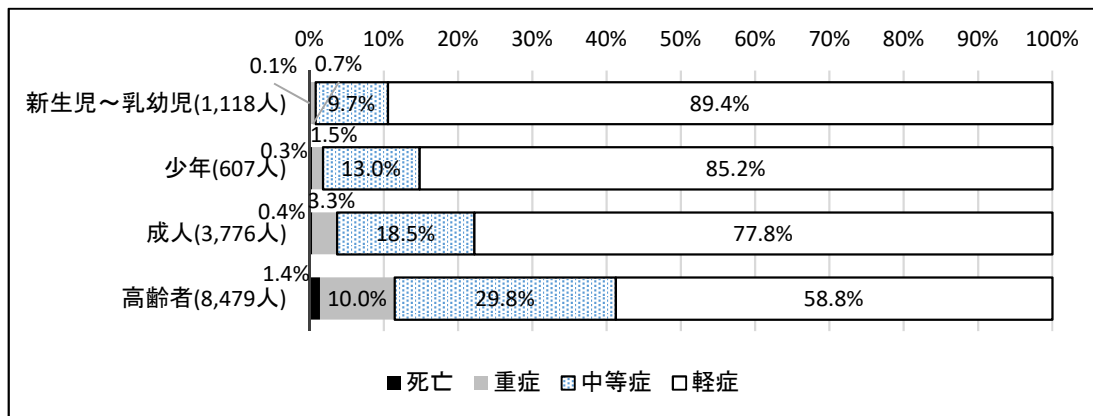
郡山地方広域消防組合「平成26～30年救急搬送データ」より

居室(居間、応接室、寝室など) 廊下(玄関などの通路を含む) 浴室(シャワー室、洗面所を含む)
台所(食堂を含む) 庭(テラス等を含む) 階段(踊場を含む)
便所 その他(物置、地下室、車庫等)
屋根(屋上、物干し台、ベランダ、バルコニー等を含む)

分野3 高齢者の安全

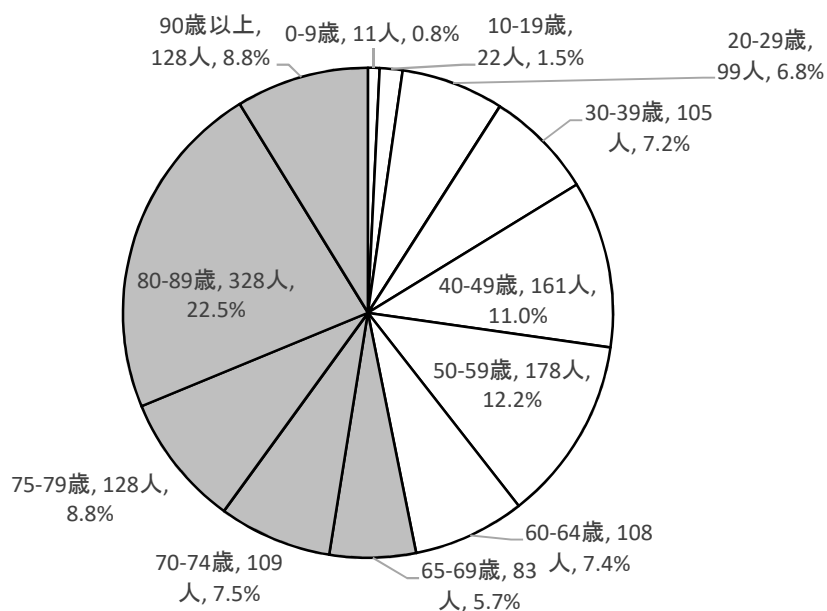
(5) 一般負傷による救急搬送の年齢別重症度率(2010<平成22>年～2018<平成30>年累計)

高齢者の重症度率は、「重症」と「死亡」を合わせると、11.4%であり、成人の3.7%と比べると3倍を超え、高齢者は成人などと比べると重症化しやすいことがわかる。



郡山地方広域消防組合「平成22～30年救急搬送データ(国表)」より

(6) 傷病及びその他の外因による年代別死亡者数 (2009<平成21>年～2016<平成28年>累計1,460人) 65歳以上が半数以上を占める。



郡山市保健所「平成21～28年人口動態統計」より

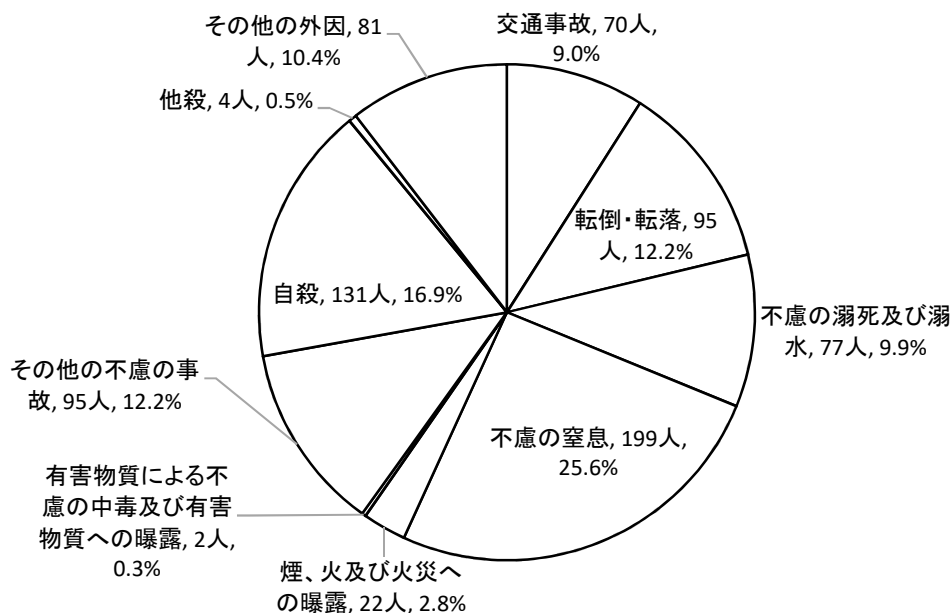
年齢層	人口割合・・・①	死亡割合・・・②	①-②
0-9歳	8.2%	0.8%	7.4%
10-19歳	9.6%	1.5%	8.1%
20-29歳	10.5%	6.8%	3.7%
30-39歳	12.5%	7.2%	5.3%
40-49歳	14.4%	11.0%	3.4%
50-59歳	13.0%	12.0%	1.0%
60-69歳	14.4%	13.1%	1.3%
70-79歳	9.8%	16.3%	-6.5%
80歳以上	7.7%	31.3%	-23.6%

分野3 高齢者の安全

(7) 65歳以上の傷病及びその他の外因による種別ごとの死亡者数

(2009〈平成21〉年～平成2016〈平成28〉年度累計 645人)

「不慮の窒息」が一番多く25.6%となっており、次いで「自殺」が16.9%、「転倒・転落」が12.2%となっている。

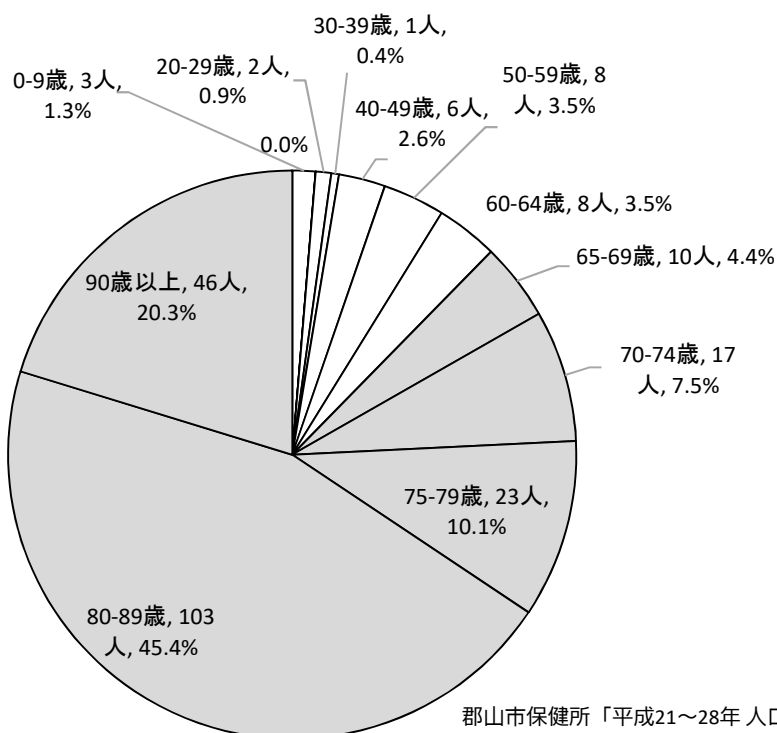


郡山市保健所「平成21～28年 人口動態統計」より

(8) 窒息による年代別死者数の割合

(2009〈平成21〉年～平成2016〈平成28〉年度累計 227人)

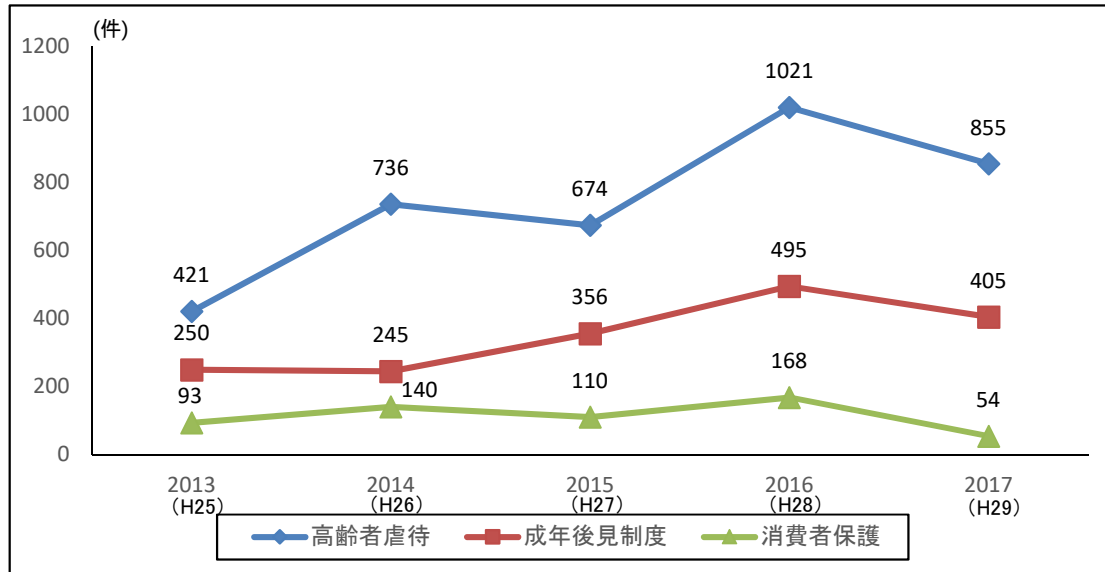
「80-89歳」が45.4%で一番多く、次いで「90歳以上」が20.3%となっている。高齢者(65歳以上)が、87.7%を占める。



郡山市保健所「平成21～28年 人口動態統計」より

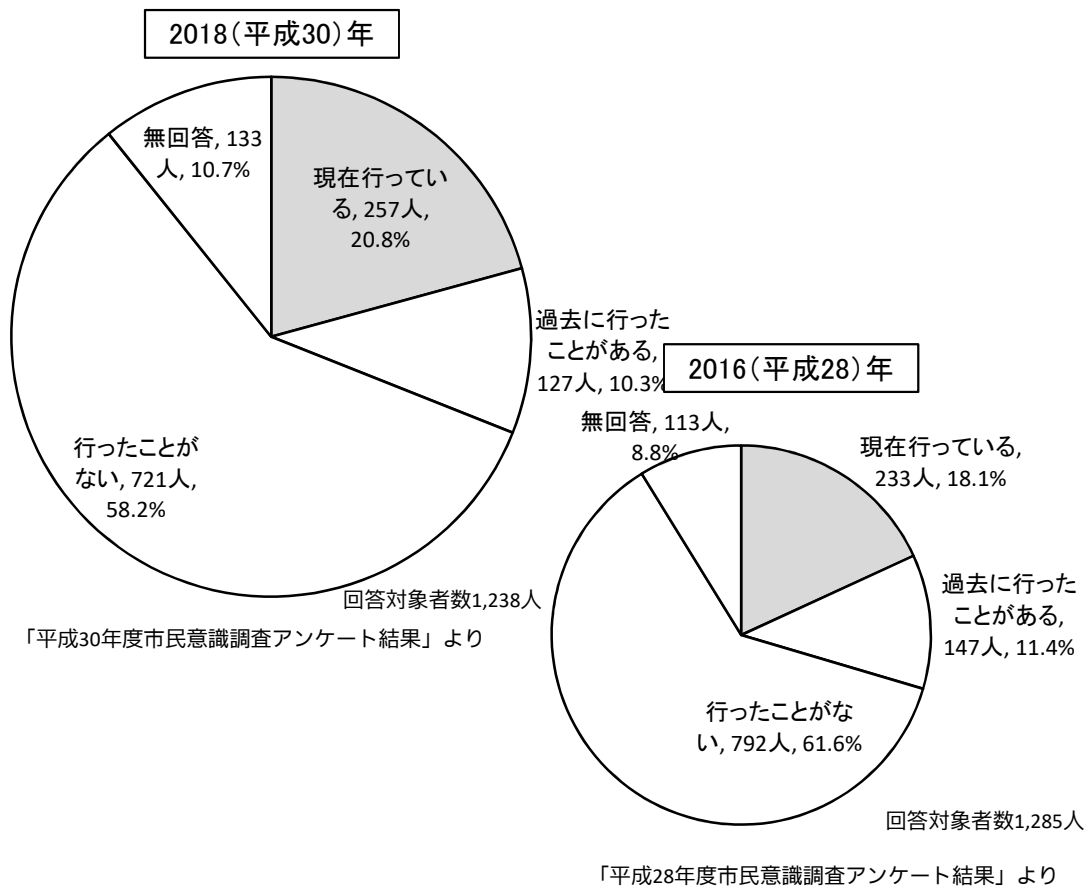
分野3 高齢者の安全

(9) 高齢者の権利擁護における相談件数推移 「高齢者虐待」は、増加傾向にある。



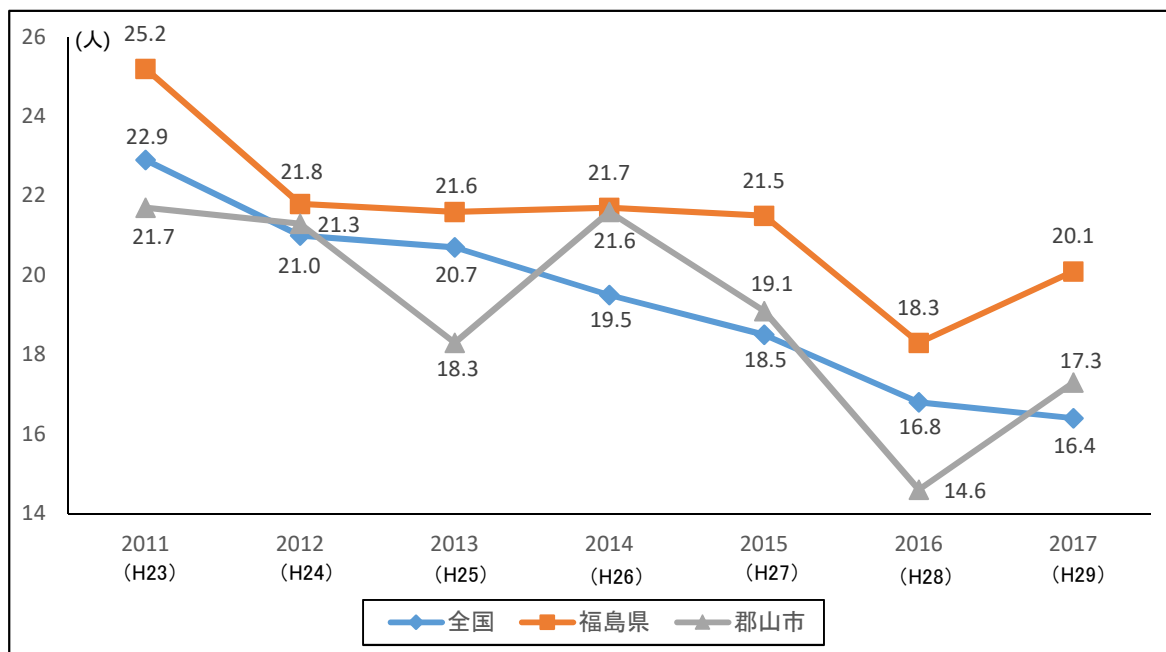
郡山市地域包括ケア推進課「平成25～29年度 センター別包括的支援事業の実施状況」より

(10) 高齢者の安全活動の取組状況 「現在行っている」を比べてみると、2016(平成28)年18.1%、2018(平成30)年20.8%と2016(平成28)年に比べ2.7ポイント上昇した。



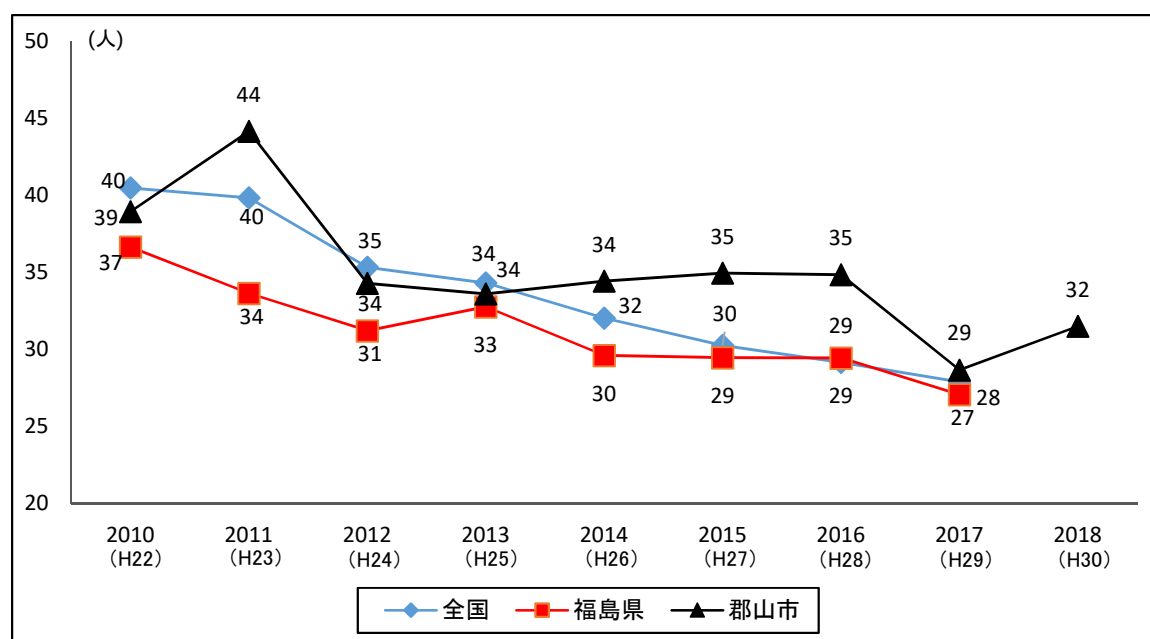
分野4 自殺予防

(1) 全国・福島県・郡山市の自殺者数推移(人口10万人あたり)
郡山市は、増減しながらも、減少傾向にある。



郡山市保健所「平成23～29年人口動態統計」より

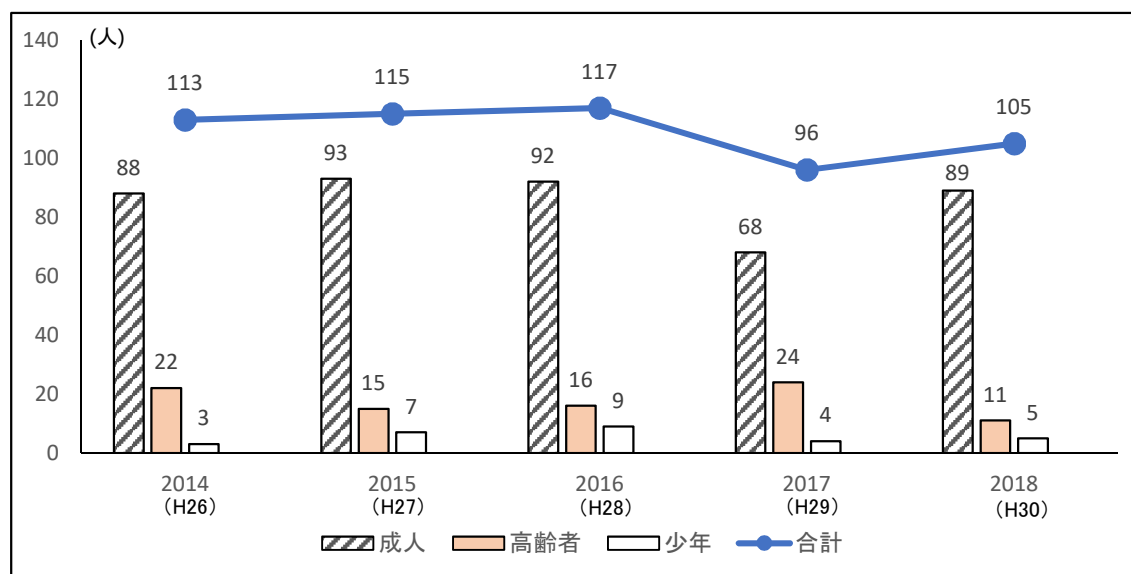
(2) 自損行為による救急搬送者数推移(人口10万人あたり)
郡山市は、2010年、2012年及び2013年は、全国を下回っていたが、2014年より国及び県を上回り、ほぼ横ばいで推移している。



総務省消防庁「平成22～29年 消防白書」、福島県消防保安課「平成22～29年 消防防災年報」、郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

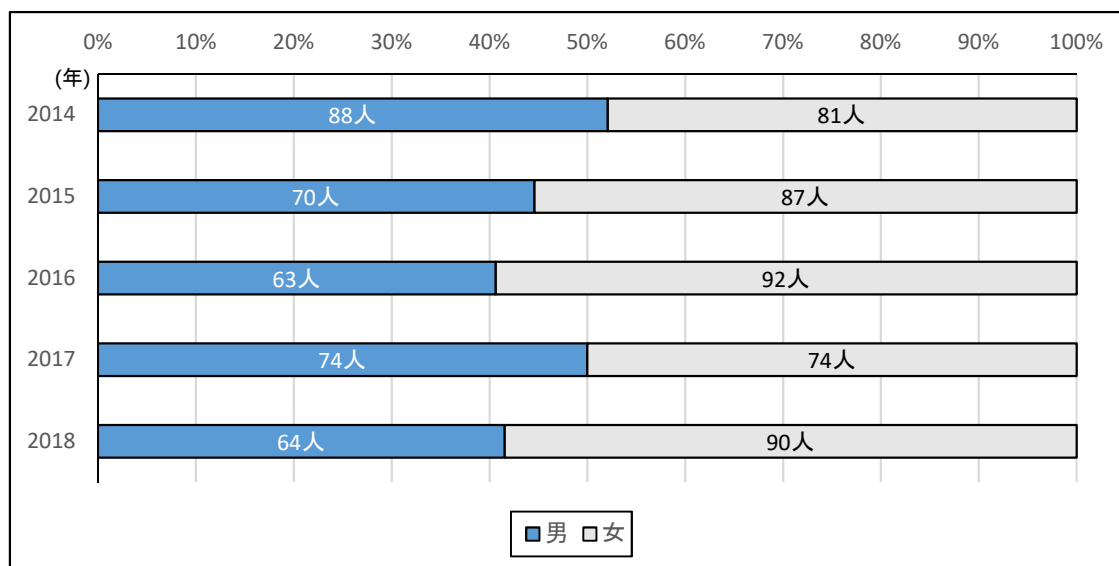
分野4 自殺予防

- (3) 郡山市の自損行為による救急搬送者推移
2017年以外の年で成人が約8割以上を占めている。



郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

- (4) 自損行為を要因に救急搬送された男女別の割合の推移
年々女性の自損行為者の割合が増えており、2016年、2018年では、約6割を占めている。



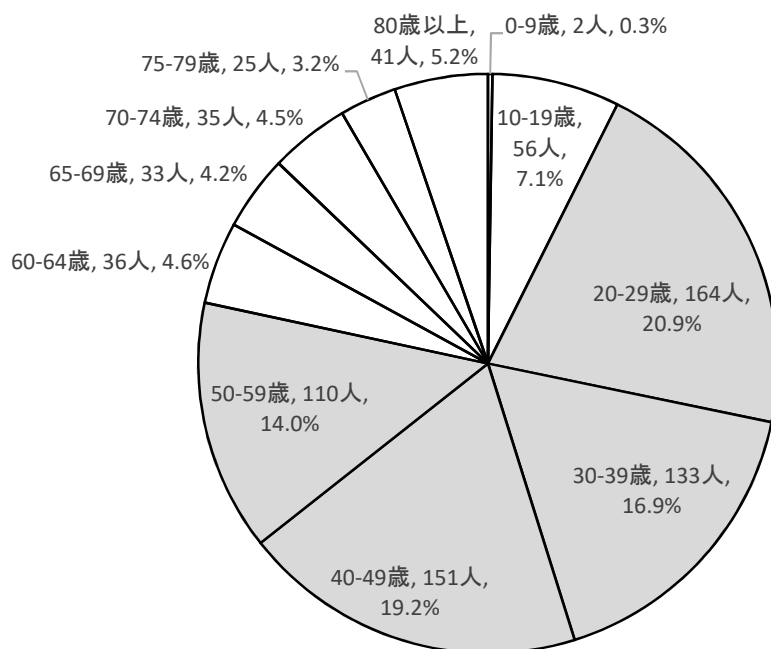
郡山地方広域消防組合「平成26～30年 救急搬送データ」より

分野4 自殺予防

(5) 自損行為を要因に救急搬送された年齢層別割合

(2014〈平成26〉年～2018〈平成30〉年累計 786人)

一番多い年代は「20-29歳」は、20.9%となっており、次いで、「40-49歳」が19.2%、「30-39歳」が16.9%となっている。20-59代で、7割以上を占める。

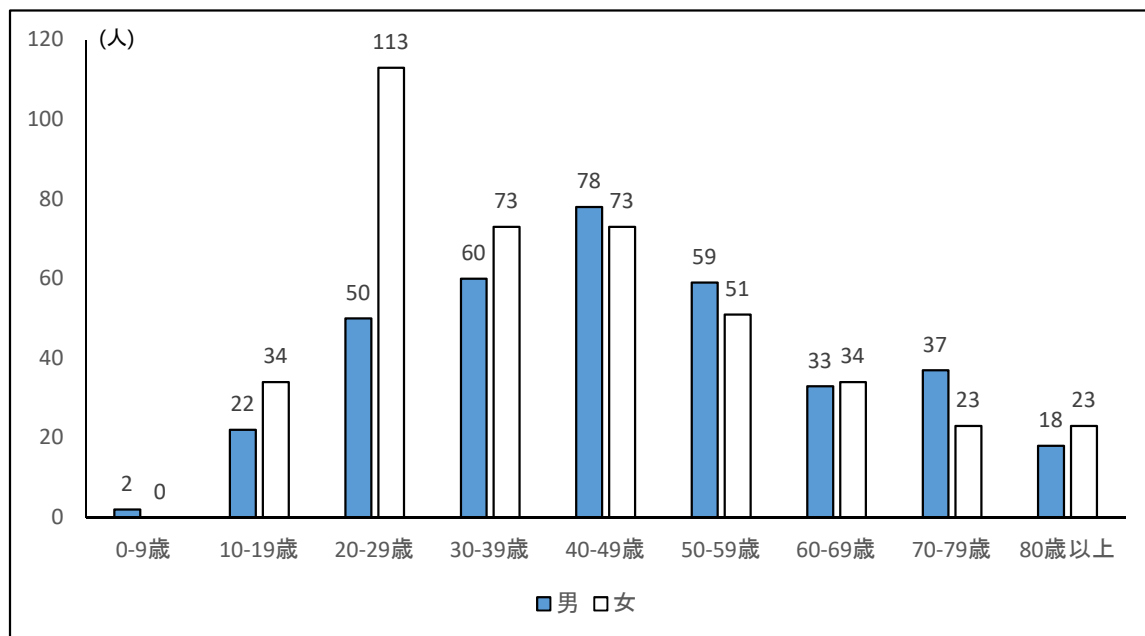


郡山地方広域消防組合「平成26～30年 救急搬送データ」より

分野4 自殺予防

(6) 自損行為を要因に救急搬送された年齢層別割合(2014〈平成26〉年～2018 〈平成30〉年累計)
性別年齢別では、女性は、「20-29歳」が113人で一番多く、次いで「30-39歳」、「40-49歳」が73人となっており、20代の女性の自損行為が多い。

また、男性は、「40-49歳」が78人で一番多く、次いで「30-39歳」が60人、「50-59歳」が59人となっており、働き世代の自損行為が多いことがわかる。

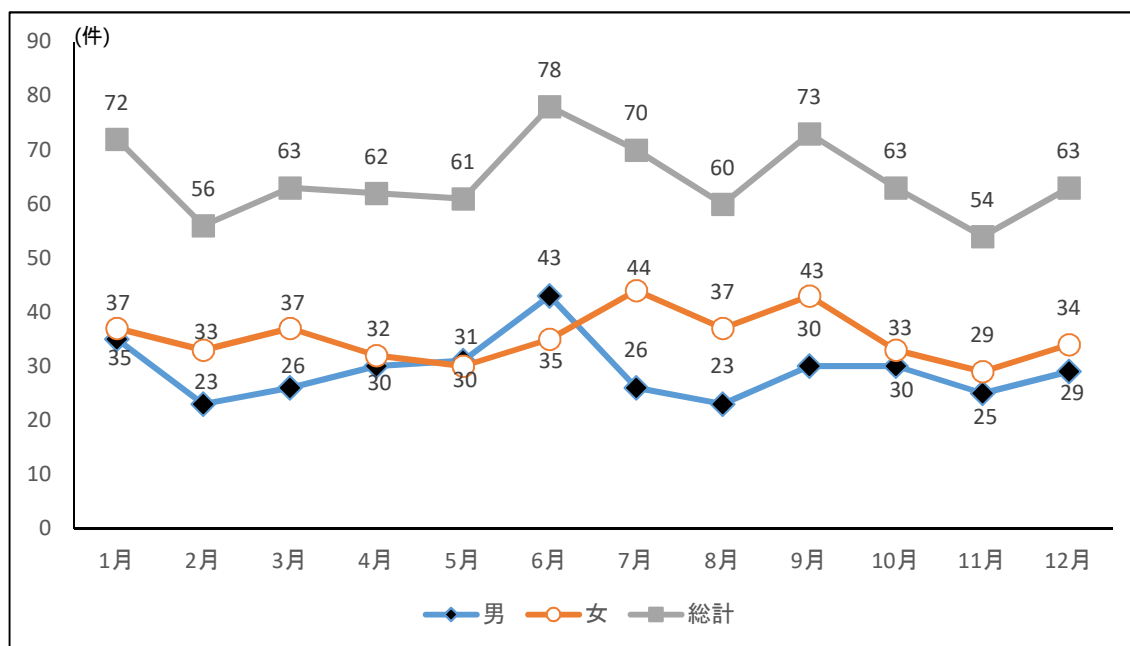


郡山地方広域消防組合「平成26～30年 救急搬送データ」より

(7) 自損行為を要因に救急搬送された性別年齢層別件数(平成26年～30年累計)

男性は、「6月」が43人で一番多く、次いで「1月」が35人となっている。

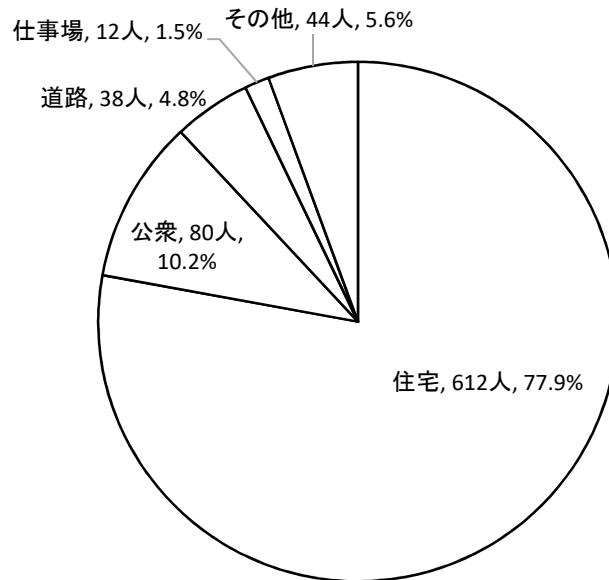
女性は、「7月」が44人で一番多く、次いで「9月」が43人となっている。



郡山地方広域消防組合「平成26～30年 救急搬送データ」より

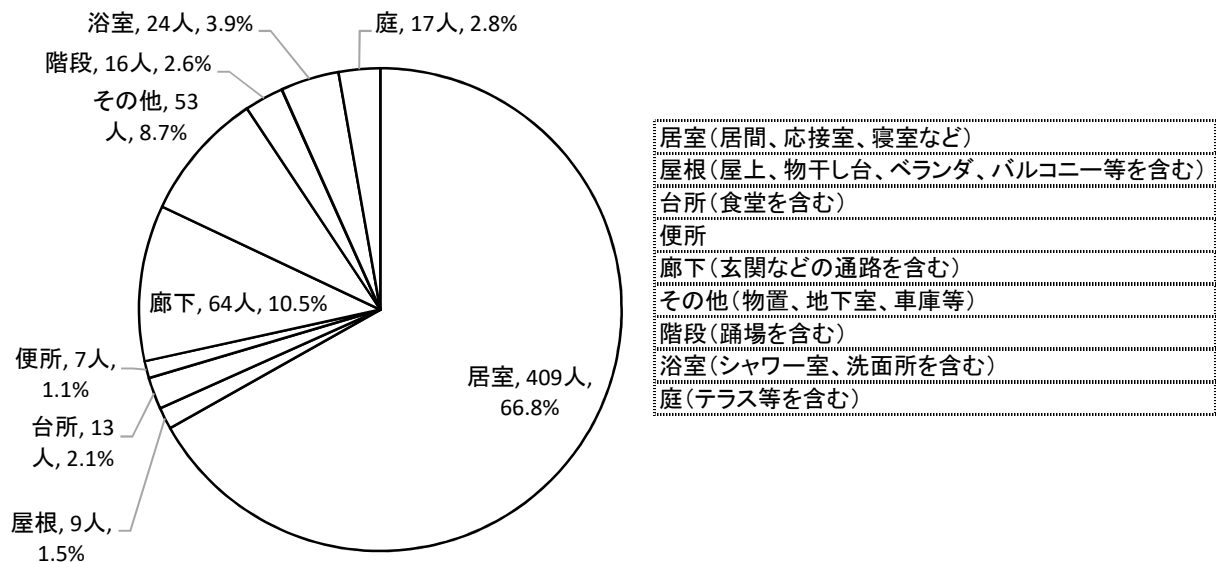
分野4 自殺予防

(8) 自損行為の救急搬送発生場所 (2014〈平成26〉年～2018〈平成30〉年累計 786人)
「住宅」が一番多く77.9%となっている。次いで「公衆」が10.2%、「その他」が5.6%となっている。



郡山地方広域消防組合「平成26～30年 救急搬送データ」より

(9) 自損行為の住宅内での救急搬送発生場所
(2014〈平成26年〉～2018〈平成30〉年累計 612人)
「居室」が66.8%で一番多く、次いで「廊下」が10.5%、「その他」が8.7%となっている。



居室(居間、応接室、寝室など)
屋根(屋上、物干し台、ベランダ、バルコニー等を含む)
台所(食堂を含む)
便所
廊下(玄関などの通路を含む)
その他(物置、地下室、車庫等)
階段(踊場を含む)
浴室(シャワー室、洗面所を含む)
庭(テラス等を含む)

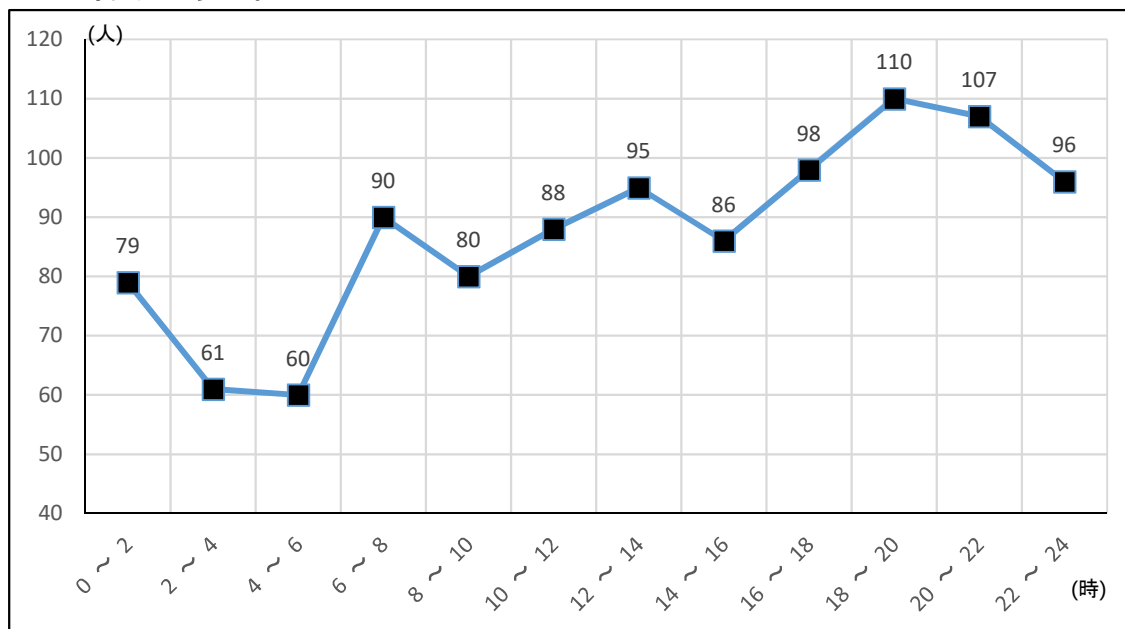
郡山地方広域消防組合「平成26～30年 救急搬送データ」より

分野4 自殺予防

(10) 自損行為による時間・曜日・月別救急搬送者数(2010〈平成22〉年～2018〈平成30〉年累計)

ア 時間別

「18時～20時台」が110人で一番多く、次いで、「20～22時台」が107人、「16～18時台」が98人と20時付近に多い。

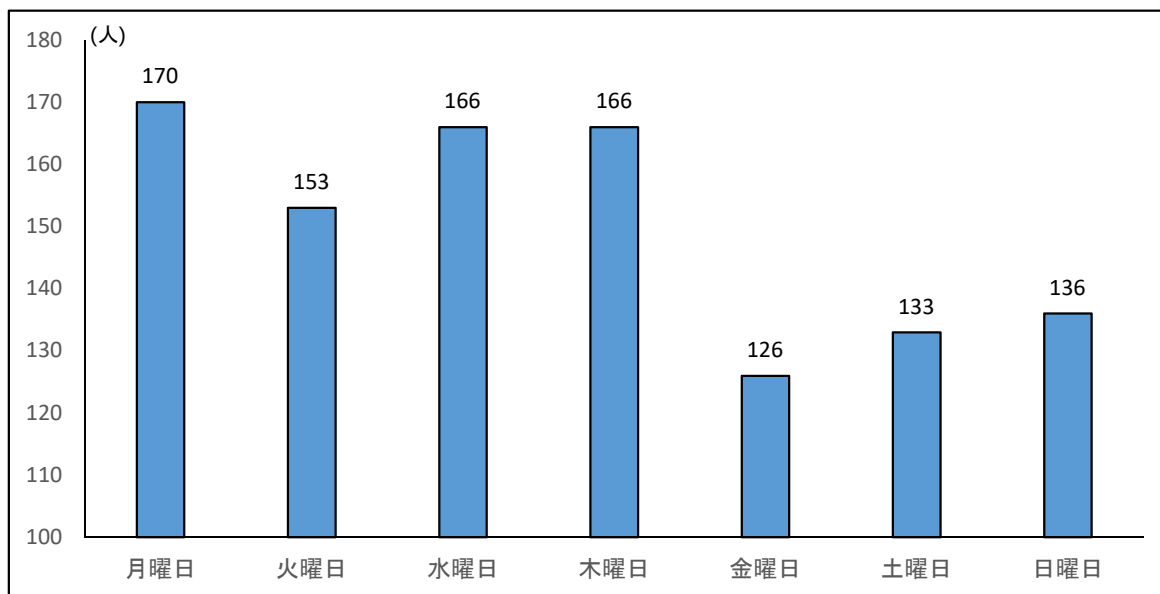


郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

(10) 自損行為による時間・曜日・月別救急搬送者数(2010〈平成22〉年～2018〈平成30〉年累計)

イ 曜日別

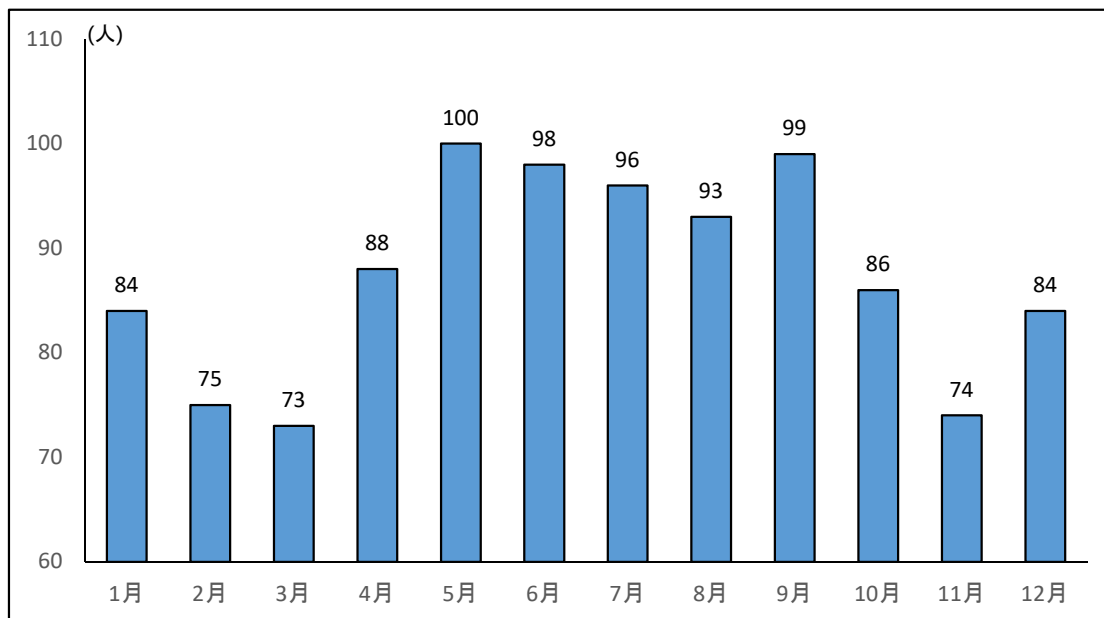
「月曜日」が170人で一番多く、次いで「水曜日」「木曜日」が166人となっている。
金曜日を除く平日に多い。



郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

分野4 自殺予防

- (10) 自損行為による時間・曜日・月別救急搬送者数(2010〈平成22〉年～2018〈平成30〉年累計)
ウ 月別
「5月」が100人で一番多く、次いで、「9月」が99人、「6月」が98人となっており、
5月から9月にかけて自損行為を行うものが多い。

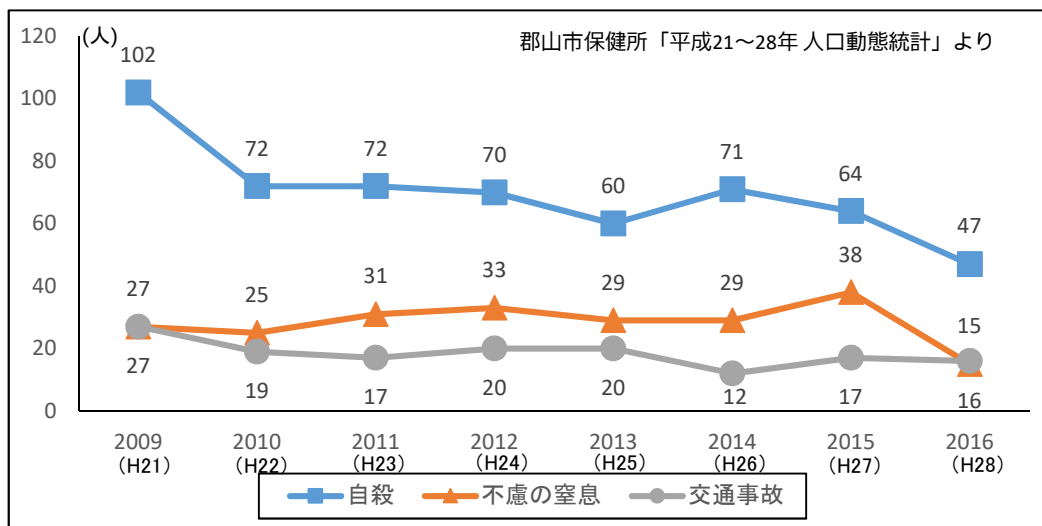


郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

分野4 自殺予防

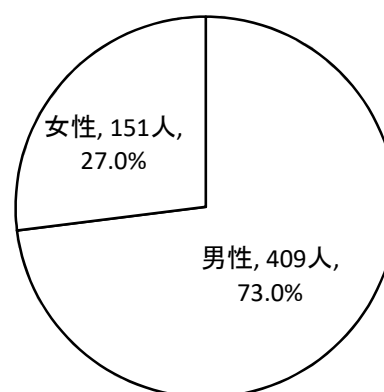
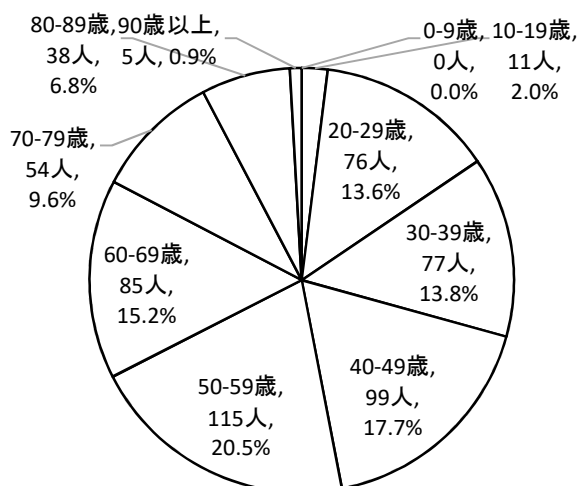
(11) 郡山市の傷病及びその他外因ごとの死亡者数推移(死亡者数が多い3項目での比較)

病気を除く死因では、「自殺」が常に一番多く、次いで「不慮の窒息」、「交通事故」となっている。「自殺」はほぼ横ばいで推移している。

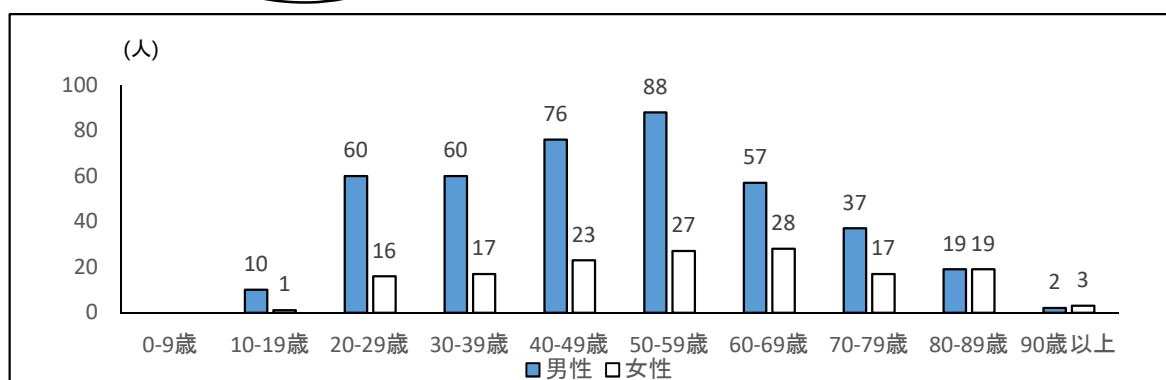


(12) 年齢層別・男女別自殺者数(2009<平成21>年～2016<平成28>年度累計 560人)

年齢層では、「50-59歳」が、20.5%で一番多く、次いで、「40-49歳」が17.7%、「60-69歳」が15.2%となっている。男女別では、男性のほうが女性より3倍近く多い。救急搬送では、女性の割合が多かったが、死因でみた場合、男性の割合が多くなる。また、年齢別男女別でみると20-50代の男性の自殺が多い。



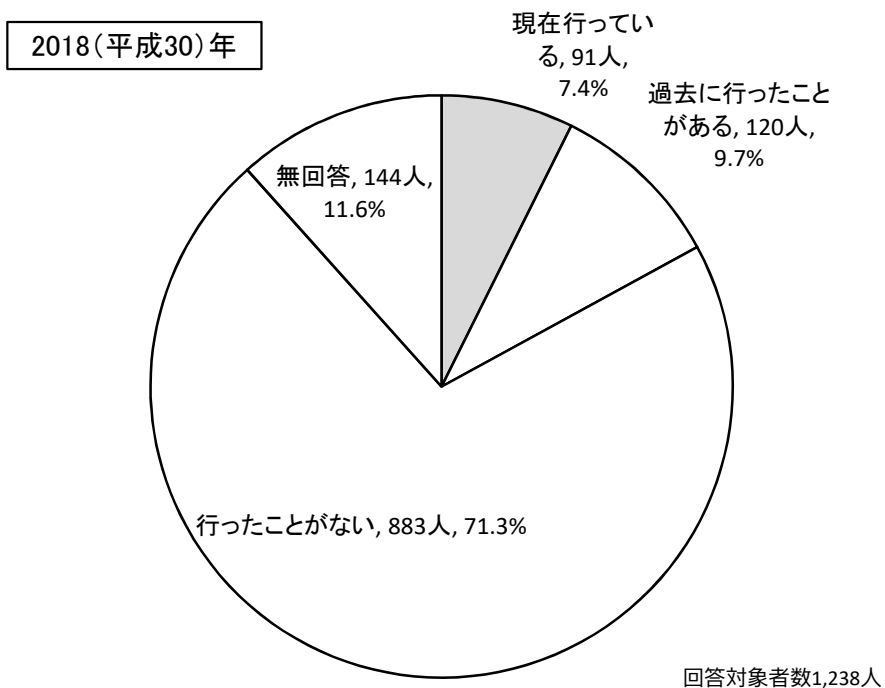
郡山市保健所「平成21～28年人口動態統計」より



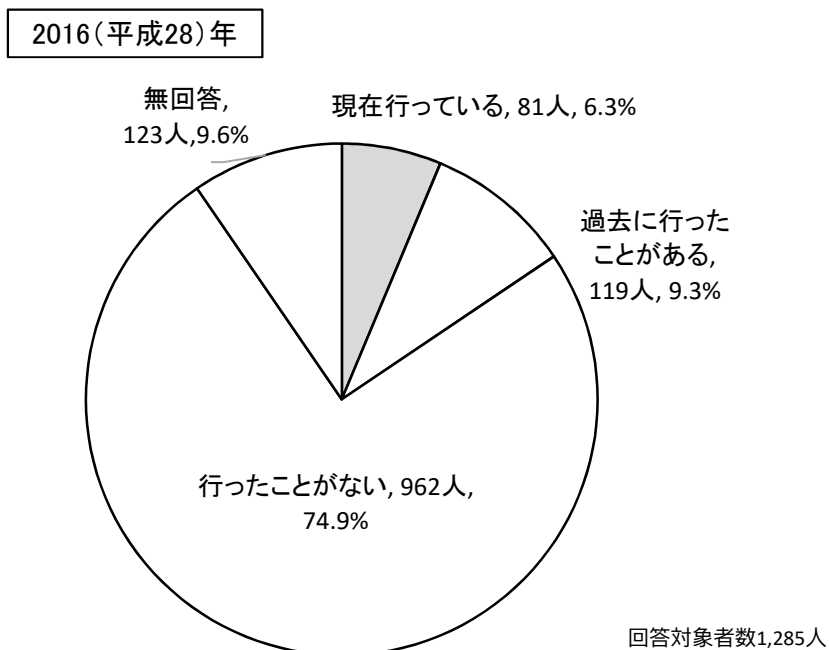
分野4 自殺予防

(13) 自殺・暴力・虐待の予防活動の取組状況

「現在行っている」を比べてみると、2016(平成28)年が6.3%、2018(平成30)年が7.4%と2016(平成28)年に比べ1.1ポイント上昇した。



「平成30年度市民意識調査アンケート結果」より

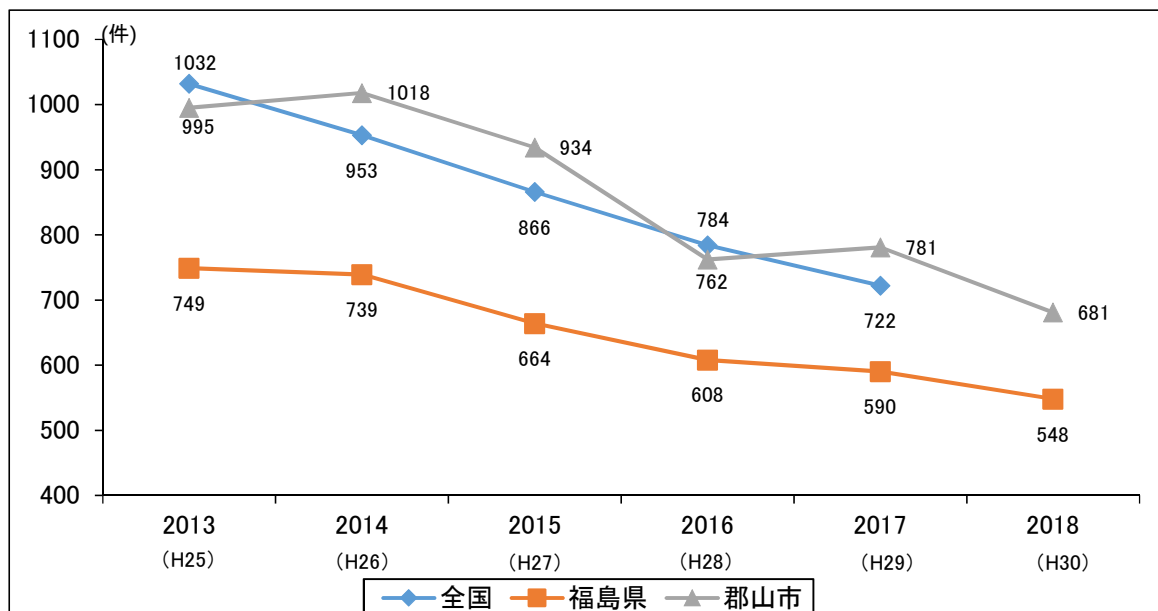


「平成28年度市民意識調査アンケート結果」より

分野5 防犯

(1) 刑法犯認知件数の推移(人口10万人あたり認知件数での比較)

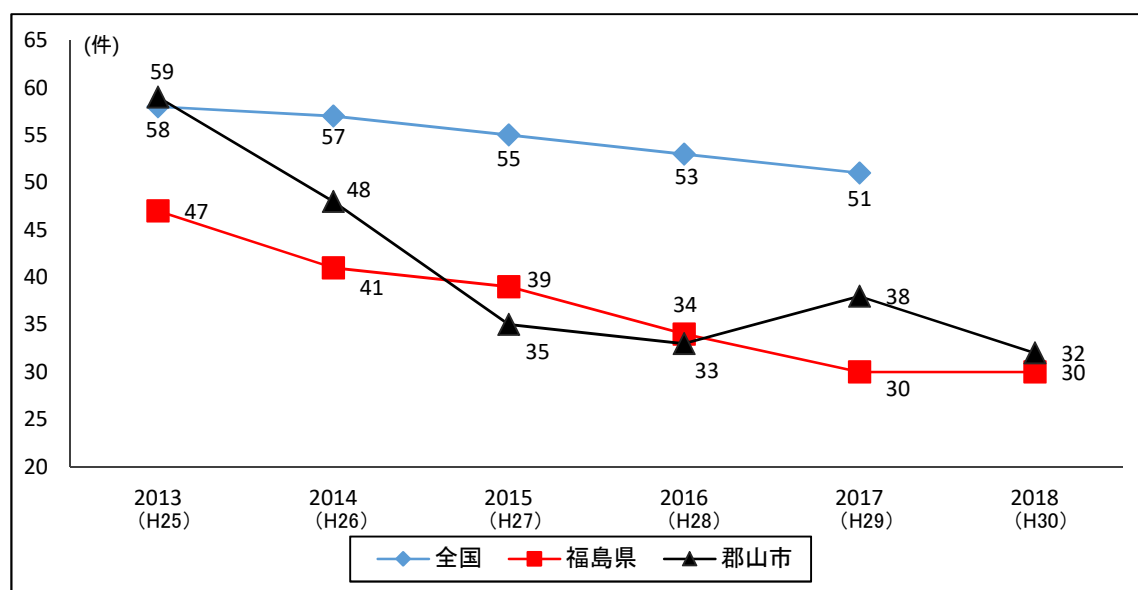
減少傾向が続いている。



警察庁「平成25～平成30年 警察白書」、郡山警察署・郡山北警察署「平成25～30年 地域安全白書」より

(2) 凶悪及び粗暴犯認知件数合計の推移(人口10万人あたり認知件数での比較)

2014(平成26)年に全国を下回り、2015(平成27)年には、県を下回ったが、2017(平成29)年以降は再び県を上回っている。

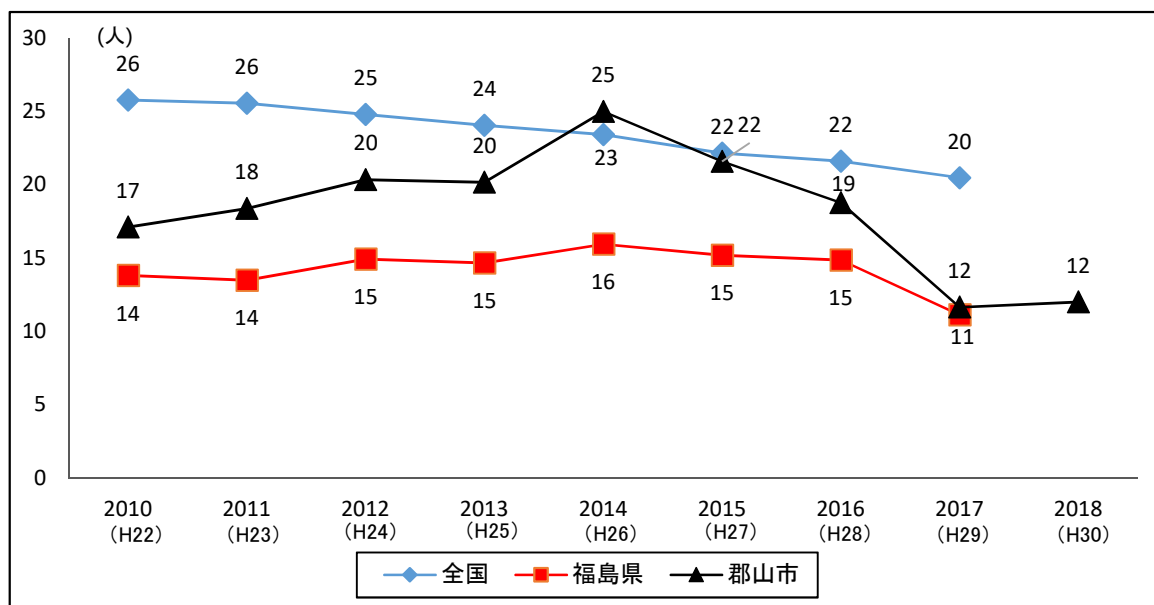


警察庁「平成25～平成30年 警察白書」、郡山警察署・郡山北警察署「平成25～30年 地域安全白書」より

分野5 防犯

(3) 加害を要因とした救急搬送推移(人口10万人あたり)

2014年から減少傾向が続いている。2016年に全国を下回り、2017年に大きく減少した。

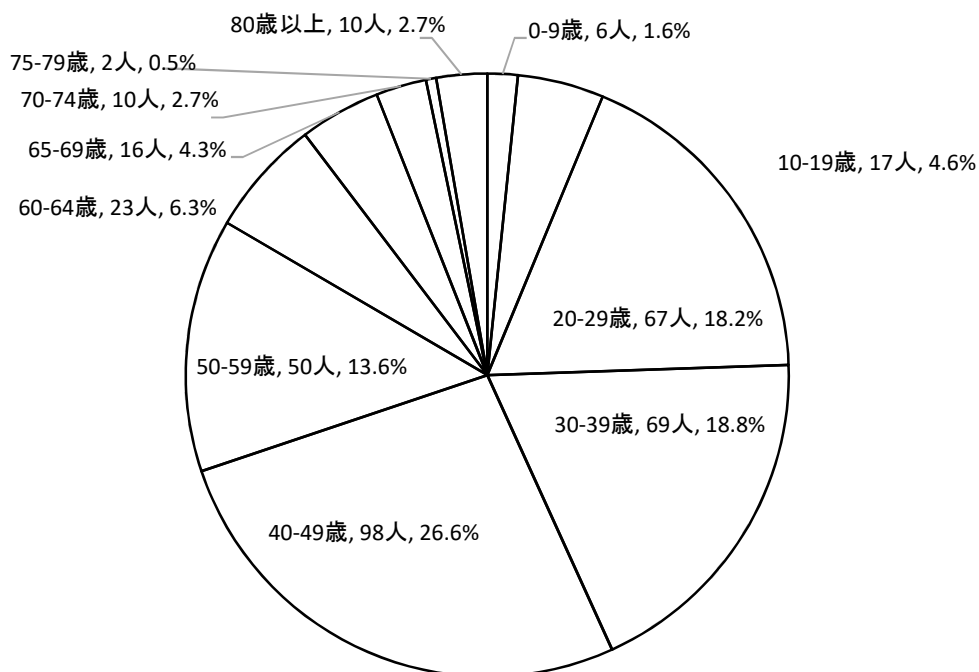


総務省消防庁「平成22～29年 消防白書」、福島県消防保安課「平成22～29年 消防防災年報」、
郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

(4) 加害を要因とした救急搬送の年齢階層別構成

(2014<平成26>年～2018<平成30>年累計 368人)

「40-49歳」が26.6%で一番多く、次いで「30-39歳」が18.8%、「20-29歳」が18.2%となっている。

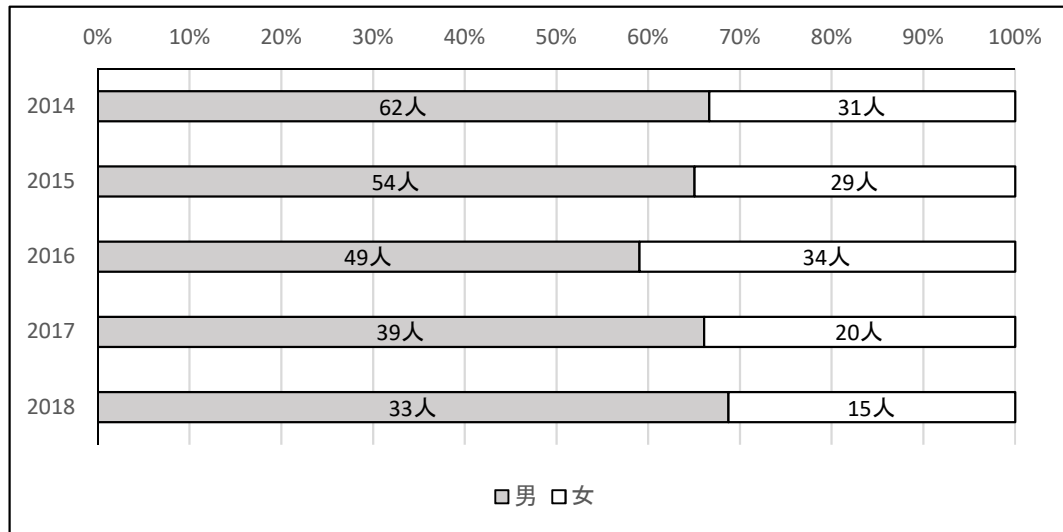


郡山地方広域消防組合「平成26～30年 救急搬送データ」より

分野5 防犯

(5) 加害を要因とした救急搬送の男女別構成(2014<平成26>年～2018<平成30>年累計)

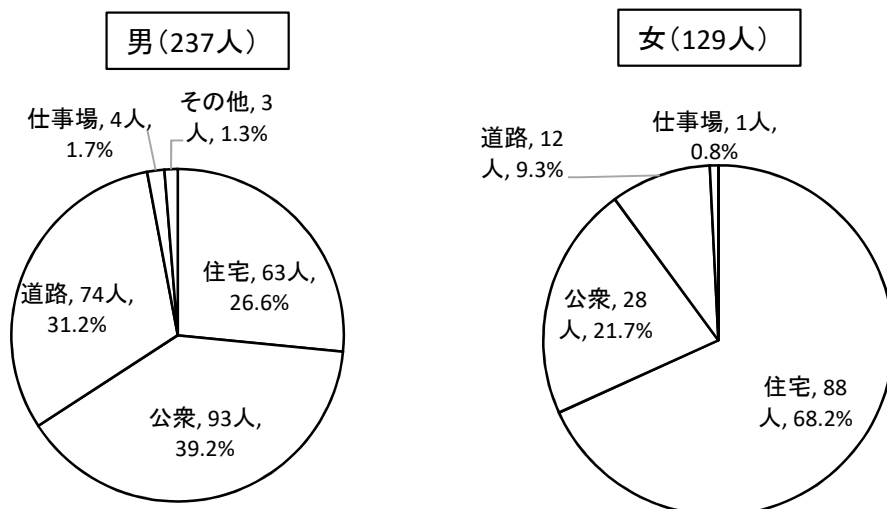
各年で男性が6割近くを占めている。



郡山地方広域消防組合「平成26～30年 救急搬送データ」より

(6) 加害を要因とした救急搬送の男女別の救急搬送場所

男性は、39.2%と「公衆」が一番多く、次いで「道路」が31.2%、「住宅」が26.6%となっている。
 女性は、68.2%と「住宅」が一番多く、次いで「公衆」が21.7%、「道路」が9.3%となっている。
 男性は、外(公衆や道路)での加害被害が多いことから喧嘩等が考えられる。
 女性は住宅での加害被害が多い(約7割)ことから家庭内暴力等が考えられる。



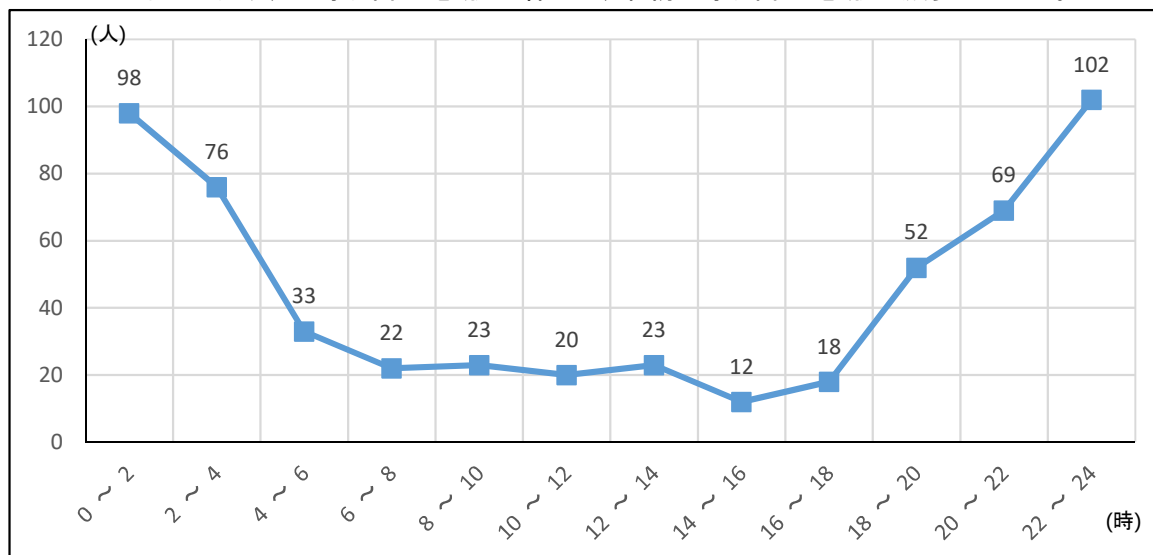
郡山地方広域消防組合「平成26～30年 救急搬送データ」より

分野5 防犯

(7) 加害を要因とした救急搬送の時間・曜日・月別救急搬送者数 (2010〈平成22〉年～2018〈平成30〉年累計)

ア 時間別

「22～24時台」が102人で一番多く、次いで、「0～2時台」が98人、「2～4時台」が76人となっており、18時以降に急激に増加し、早朝4時以降は急激に減少していく。

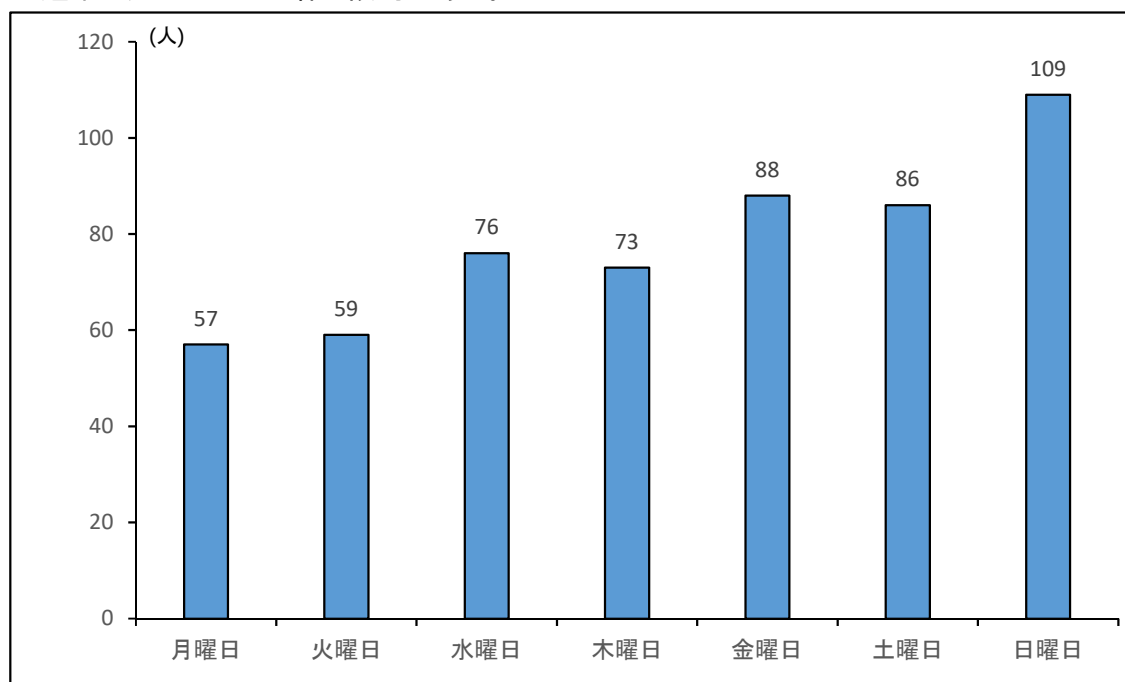


郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

(7) 加害を要因とした救急搬送の時間・曜日・月別救急搬送者数 (2010〈平成22〉年～2018〈平成30〉年累計)

イ 曜日別

「日曜日」が109人で一番多く、次いで「金曜日」が88人、「土曜日」が86人となっており、週末に近づくにつれ増加傾向にある。



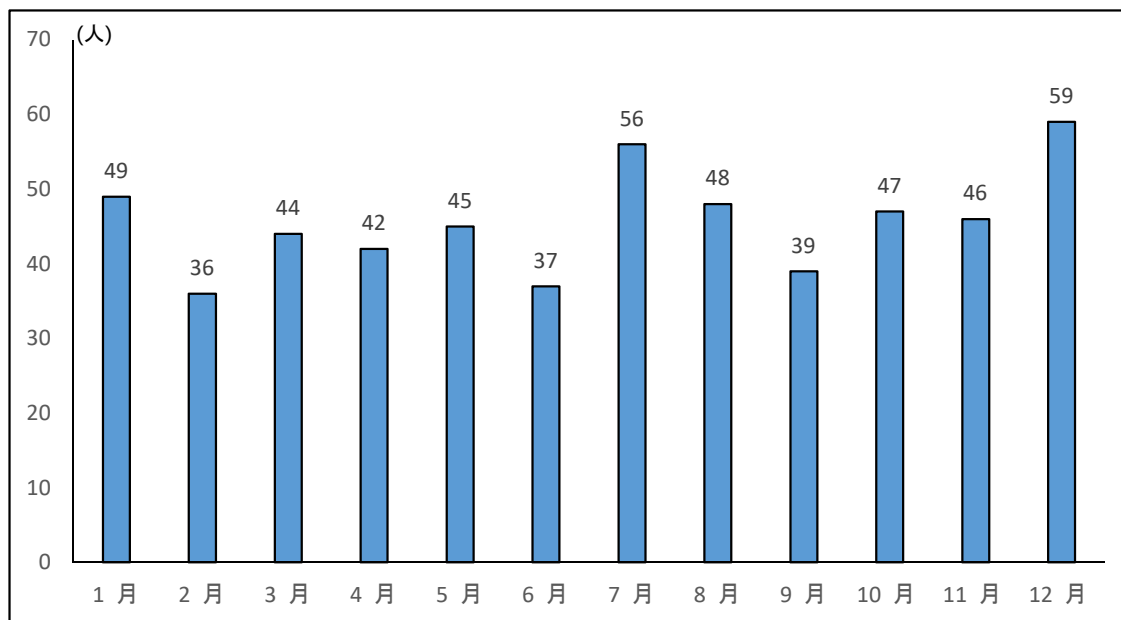
郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

分野5 防犯

(7) 加害を要因とした救急搬送の時間・曜日・月別救急搬送者数 (2010〈平成22〉年～2018〈平成30〉年累計)

ウ 月別

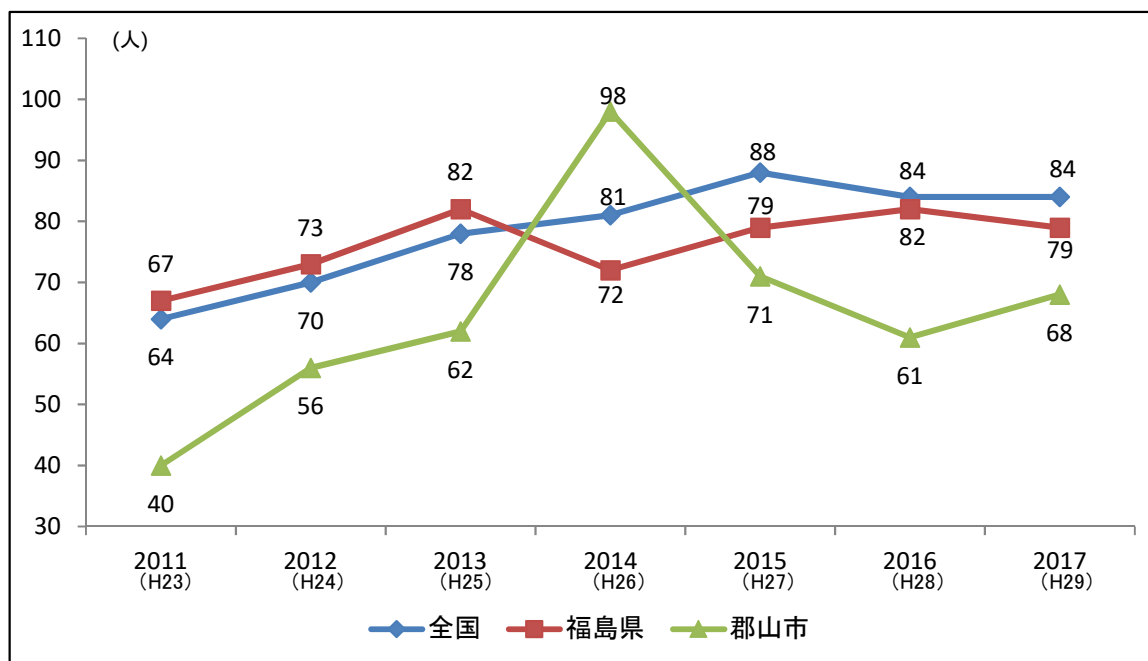
「12月」が59人で一番多く、次いで「7月」が56人、「1月」が49人となっている。
暑気払いや忘年会、新年会等の宴会の時期に多くなる傾向がある。



郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

(8) 10万人当たりの配偶者によるDV(ドメスティック バイオレンス)相談

郡山市は、2014(平成26)年度まで上昇傾向が続いていたが、2015(平成27)年度には大幅に減少した。
2014(平成26)年度に全国及び県を上回ったが、それ以外の年は下回っている。



内閣府男女共同参画局

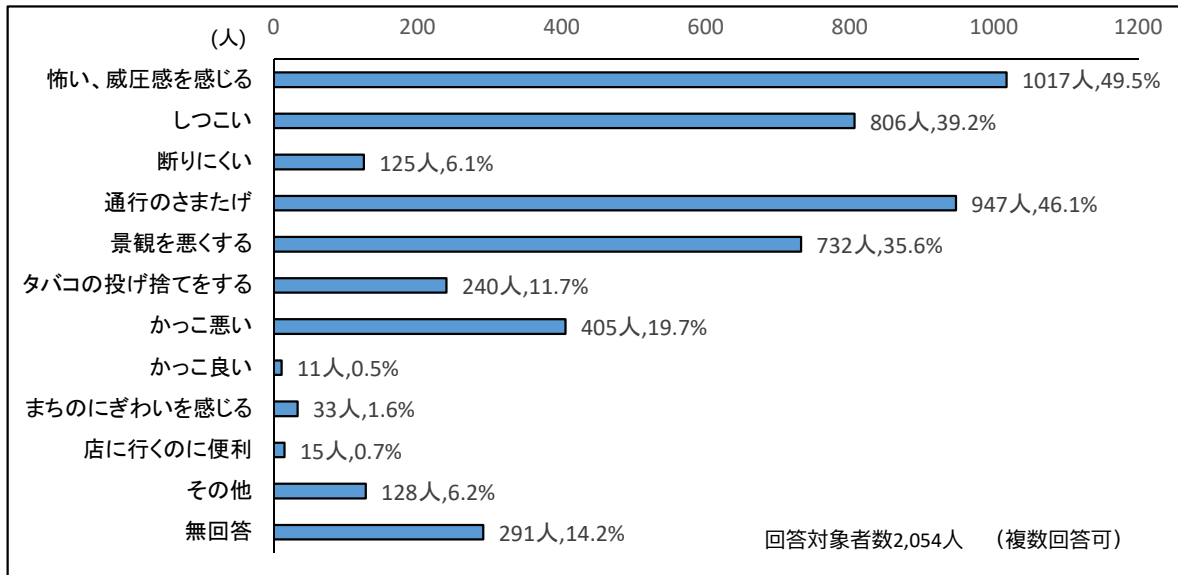
「平成23～29年度配偶者暴力相談支援センターにおける配偶者からの暴力が関係する相談件数などの結果について」
子ども家庭相談センター「平成23～29年度相談等の取扱件数」より

分野5 防犯

(9) 郡山駅前の違法客引き等への印象

問 郡山駅前の違法客引きや違法スカウト行為(通称「カラス族」)にどのような印象を持っていますか？(いくつでも選択) ※飲食店、カラオケ店の呼び込みは、違法客引きではありません。

「怖い、威圧感を感じる」が49.5%で一番多く、次いで「通行のさまたげ」が46.1%、「しつこい」が39.2%となっている。

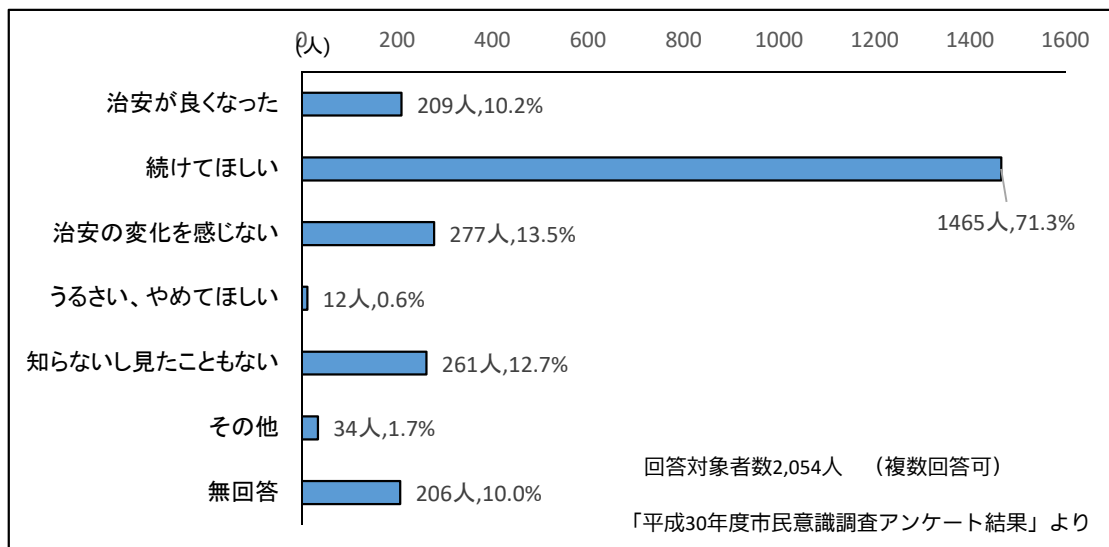


「平成30年度市民意識調査アンケート結果」より

(10) 違法客引き対策パトロールについて

問 現在、郡山駅前の違法客引き対策として、地域住民、防犯協会、警察、市等が協働して定期的にパトロールを行っています、どのようにお考えですか？(いくつでも選択)

「続けてほしい」が71.3%で一番多く、次いで「治安の変化を感じない」が13.5%、「知らないし、見たこともない」が12.7%となっている。



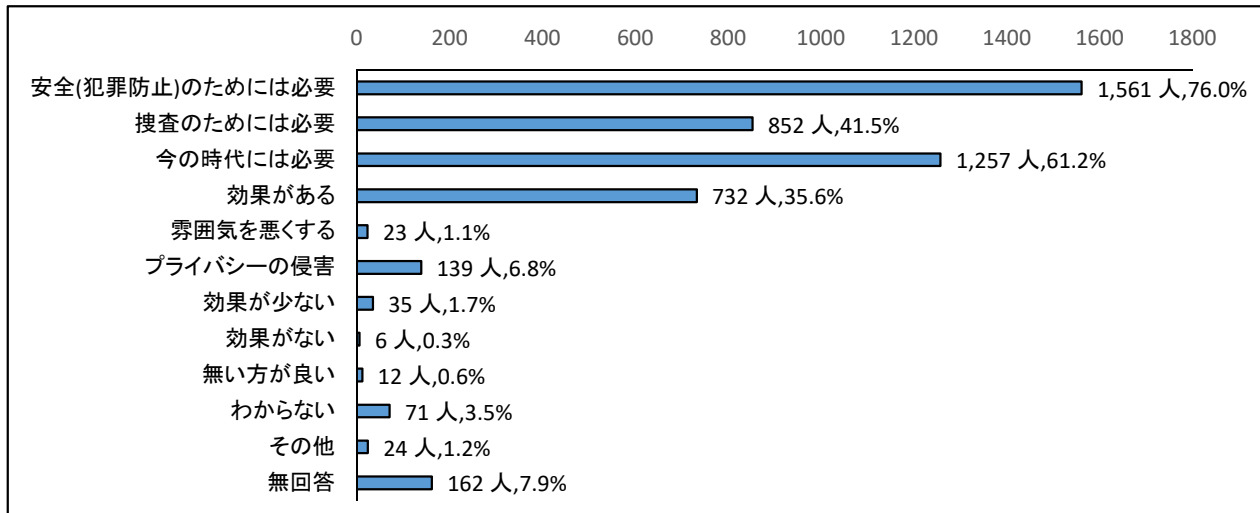
「平成30年度市民意識調査アンケート結果」より

分野5 防犯

(11) 住宅街への防犯カメラ設置に対する印象

問 現在、駅前商店街などに防犯カメラが設置されていますが、住宅街に防犯カメラを設置することには、どのような印象を持っていますか？

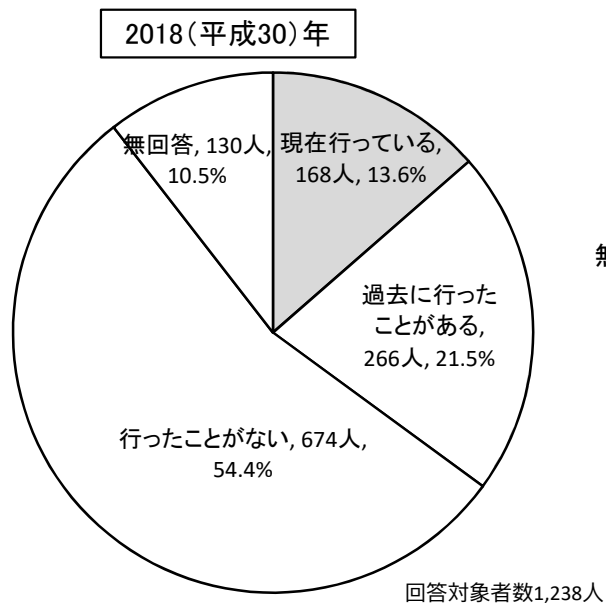
「安全(犯罪防止)のためには必要」が76.0%で一番多く、次いで「今の時代には必要」が61.2%、「捜査のためには必要」が41.5%となっている。



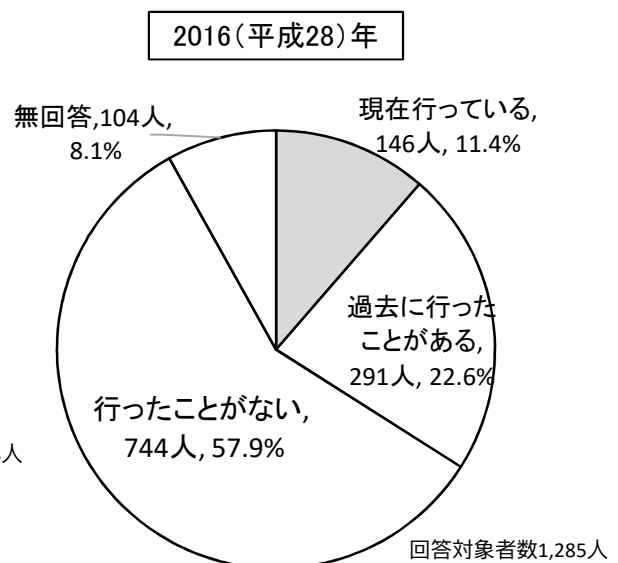
「平成30年度市民意識調査アンケート結果」より

(12) 防犯活動の取組状況

「現在行っている」を比べてみると、2016(平成28)年度11.4%、2018(平成30)年度13.6%と2016(平成28)年に比べ2.2ポイント上昇した。



「平成30年度市民意識調査アンケート結果」より

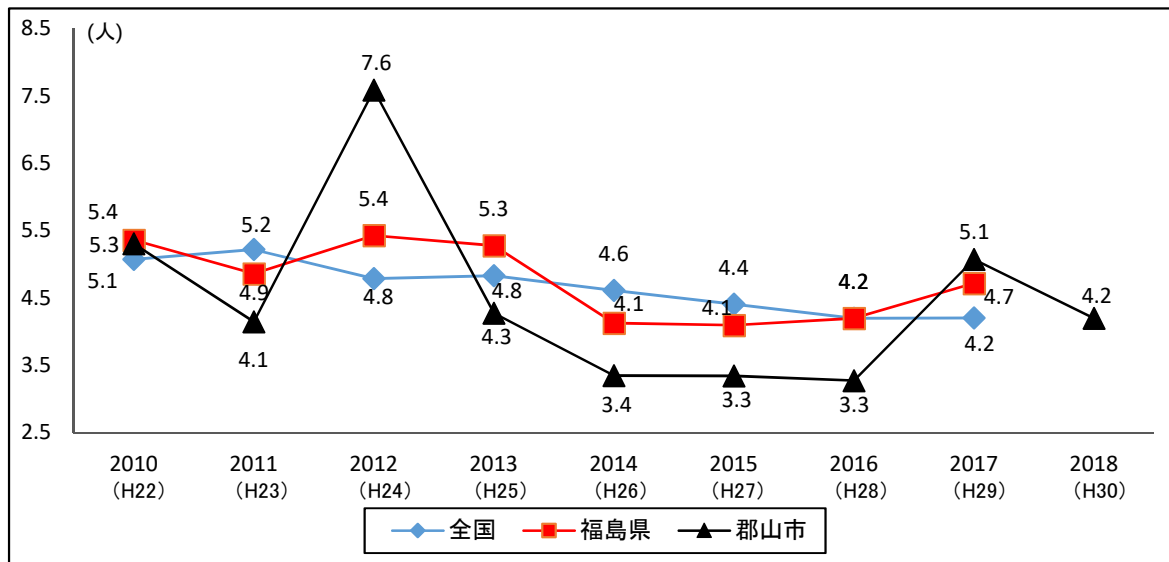


「平成28年度市民意識調査アンケート結果」より

分野6 防災・環境安全

(1) 火災を要因とした救急搬送推移(人口10万人あたり)

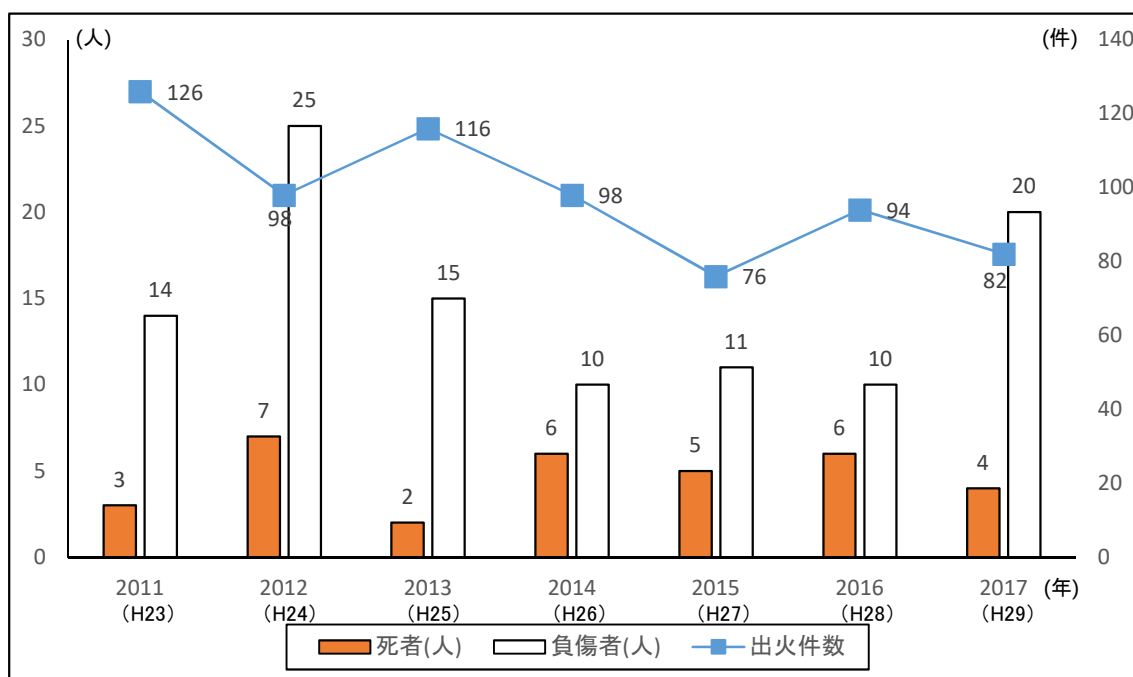
郡山市は、2012(平成24)年に全国及び県を上回ったが、それ以外の年では下回っており、それ以降横ばいに推移していたが、2017(平成29)年に再び増加に転じた。



総務省消防庁「平成22～29年版 消防白書」、福島県消防保安課「平成22～29年 消防防災年報」、郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

(2) 郡山市の出火件数と死傷者数の推移

出火件数は、減少傾向にあるが、死亡者数と負傷者数は、出火件数に比例していない。

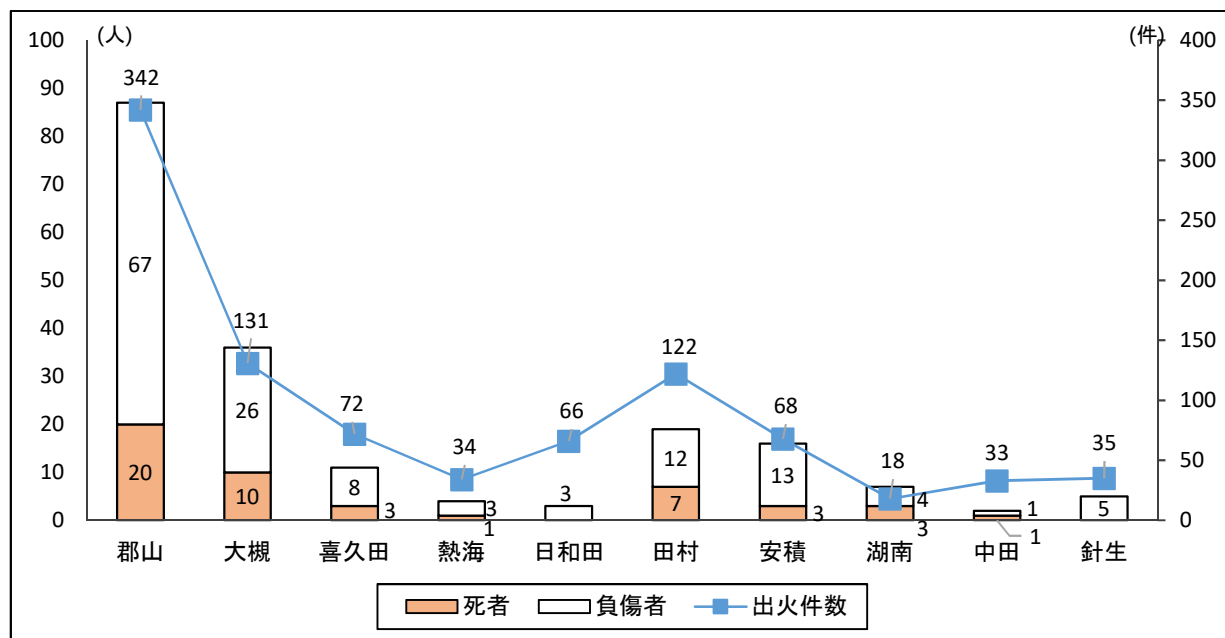


郡山地方広域消防組合「平成23～29年版 消防年報」より

分野6 防災・環境安全

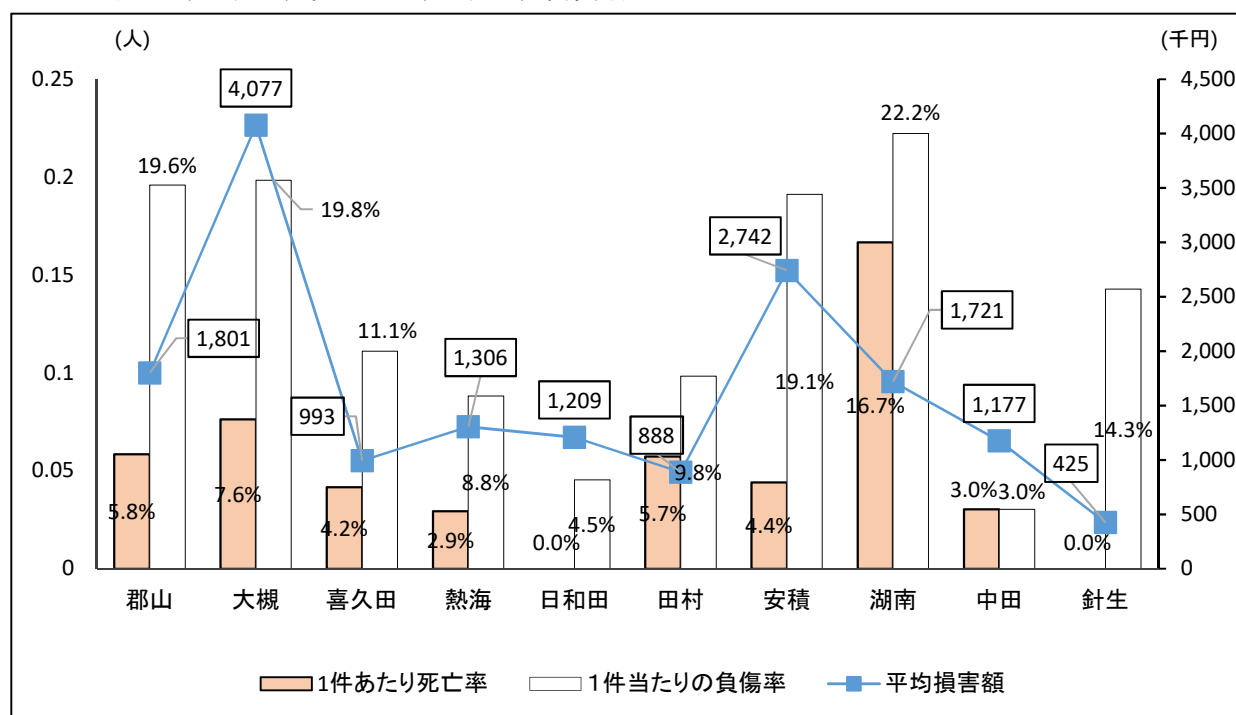
(3) 郡山市地域ごとの出火件数と死傷者数(2011〈平成23〉年～2017〈平成29〉年累計)

出火件数では、「郡山」が、342件で一番多く、次いで「大槻」が131件、「田村」が122件となっている。
死傷者数では、「郡山」が87人で一番多く、次いで「大槻」が36人、「田村」が19人となっている。



郡山地方広域消防組合「平成23～29年版 消防年報」より

(参考) 郡山市地域ごとの出火件数あたりにおける死傷者率と平均損害額 (2011〈平成23〉年～2017〈平成29〉年累計)

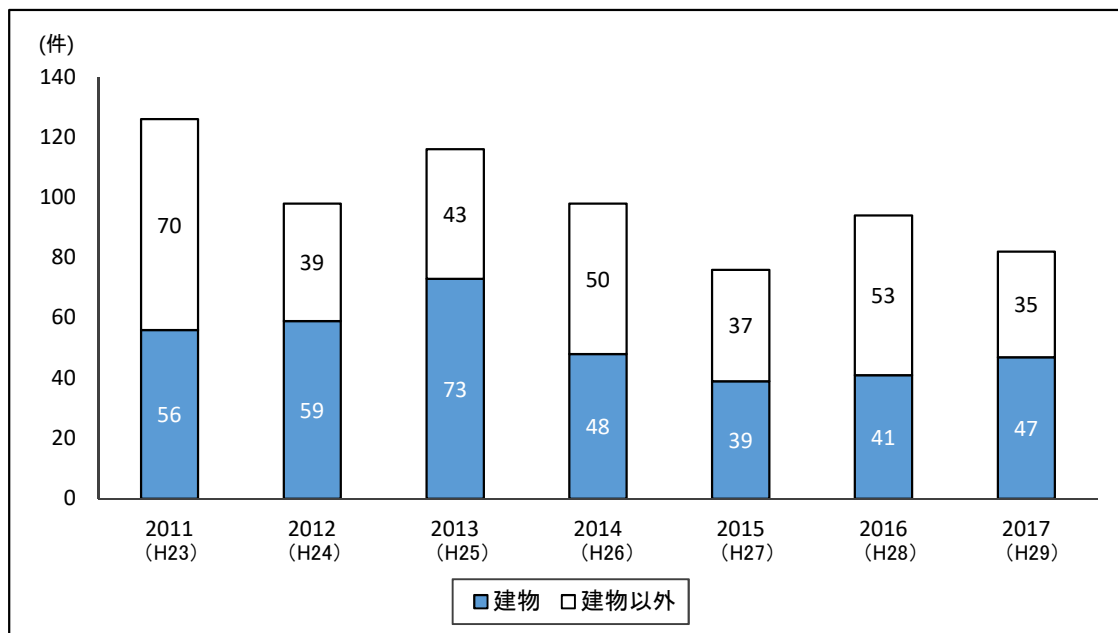


郡山地方広域消防組合「平成23～29年版 消防年報」より

分野6 防災・環境安全

(4) 郡山市の出火発生場所について

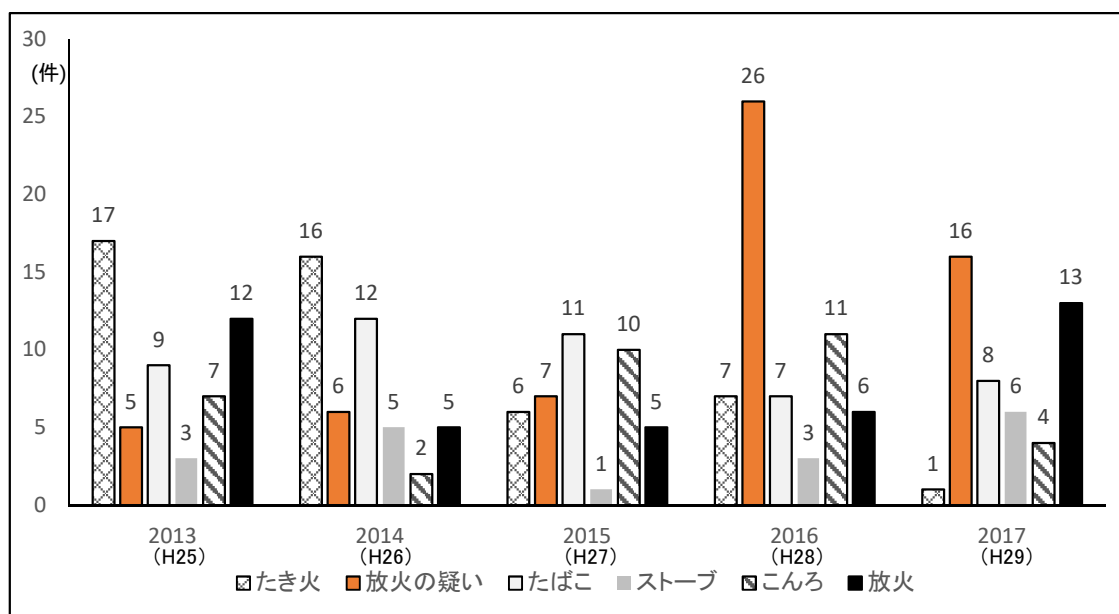
「建物」、「建物以外」の割合は、年ごとに異なり、2016(平成28)年は「建物以外」、2017(平成29)年は「建物」の割合が多い。



郡山地方広域消防組合「平成23～29年版 消防年報」より

(5) 郡山市の火災発生原因について(その他及び不明を除く火災原因で多い5項目での比較)

「放火の疑い」は2016(平成28)年に急激に増加した。
2017(平成29)年では、「放火の疑い」が16件で一番多く、次いで「放火」が13件、「たばこ」が8件となっている。

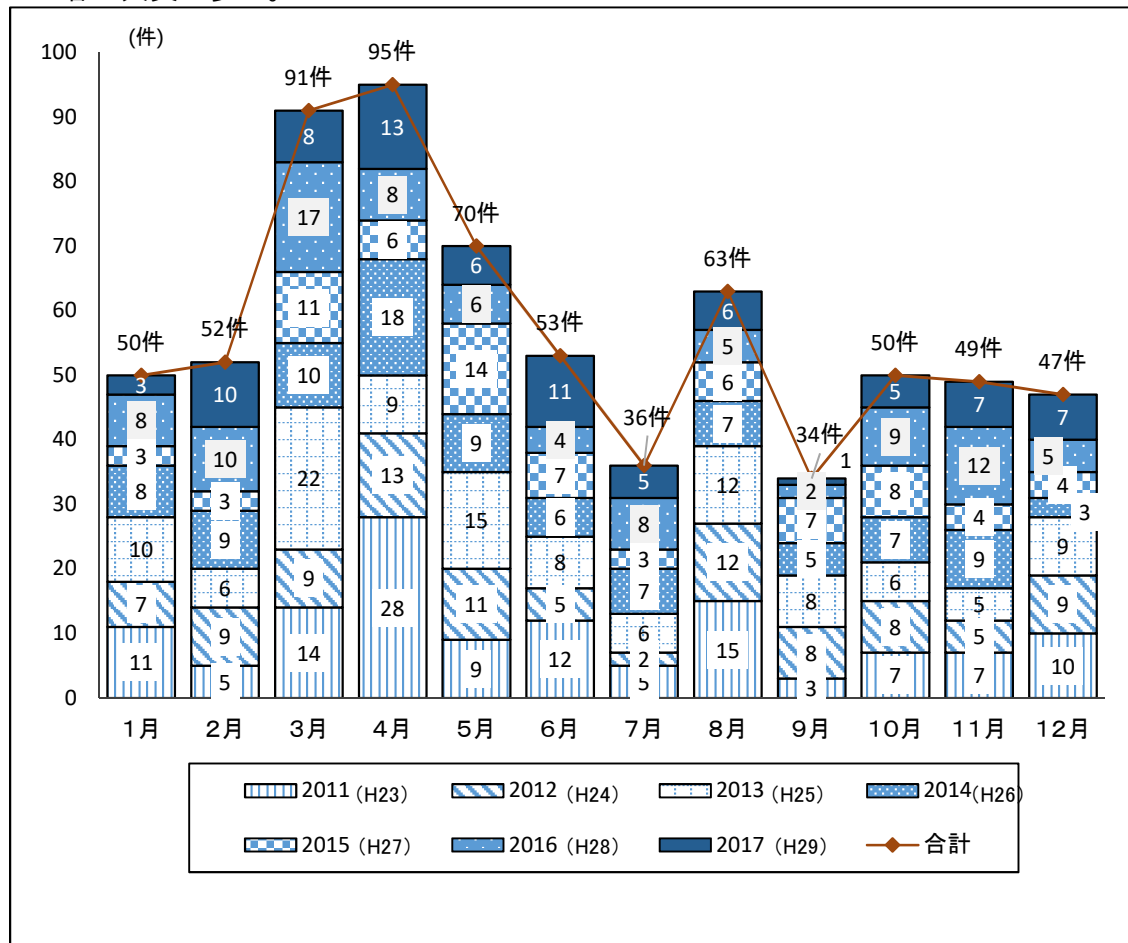


郡山地方広域消防組合「平成25～29年版 消防年報」より

分野6 防災・環境安全

(6) 郡山市の月別火災発生(2011<平成23>年～2017<平成29>年累計)

月別では、「4月」が95件で一番多く、次いで「3月」が91件、「5月」が70件と、春に火災が多い。

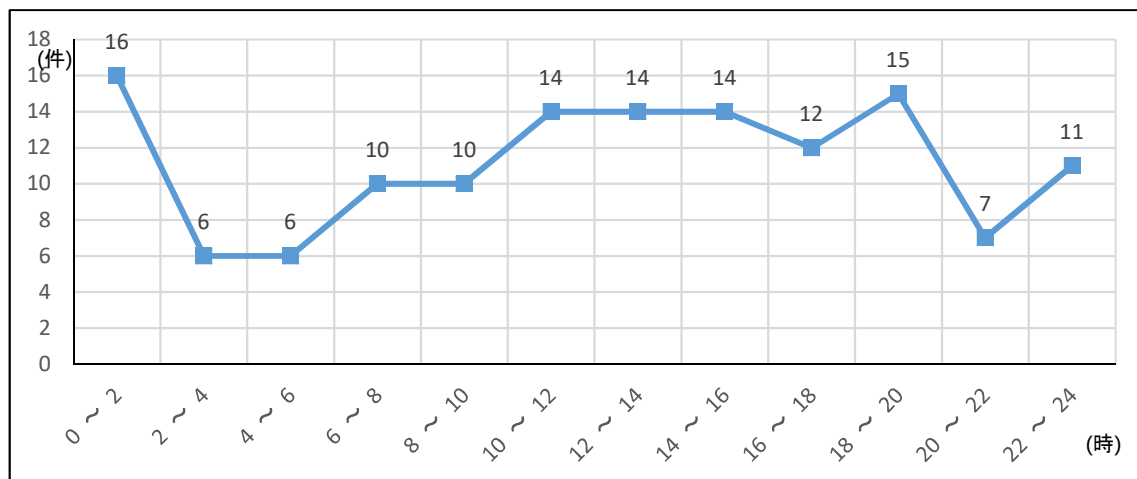


郡山地方広域消防組合「平成23～29年版 消防年報」より

(7) 火災による時間・曜日・月別救急搬送者数(2010<平成22>年～2018<平成30>年累計)

ア 時間別

時間別では、「0～2時台」が16件で一番多く、次いで「18～20時台」が15件となっている。



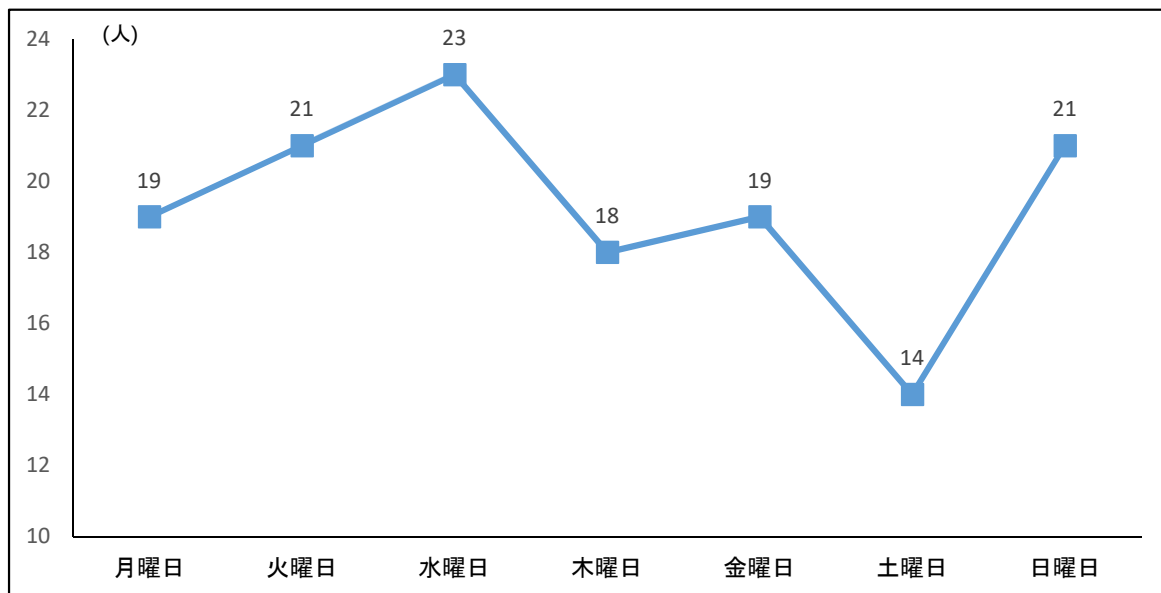
郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

分野6 防災・環境安全

(7) 火災による時間・曜日・月別救急搬送者数(2010〈平成22〉年～2018〈平成30〉年累計)

イ 曜日別

曜日別では、「水曜日」が23件で一番多く、次いで「火曜日」、「日曜日」が21件となっている。
比較的土曜日の火災は少ない。

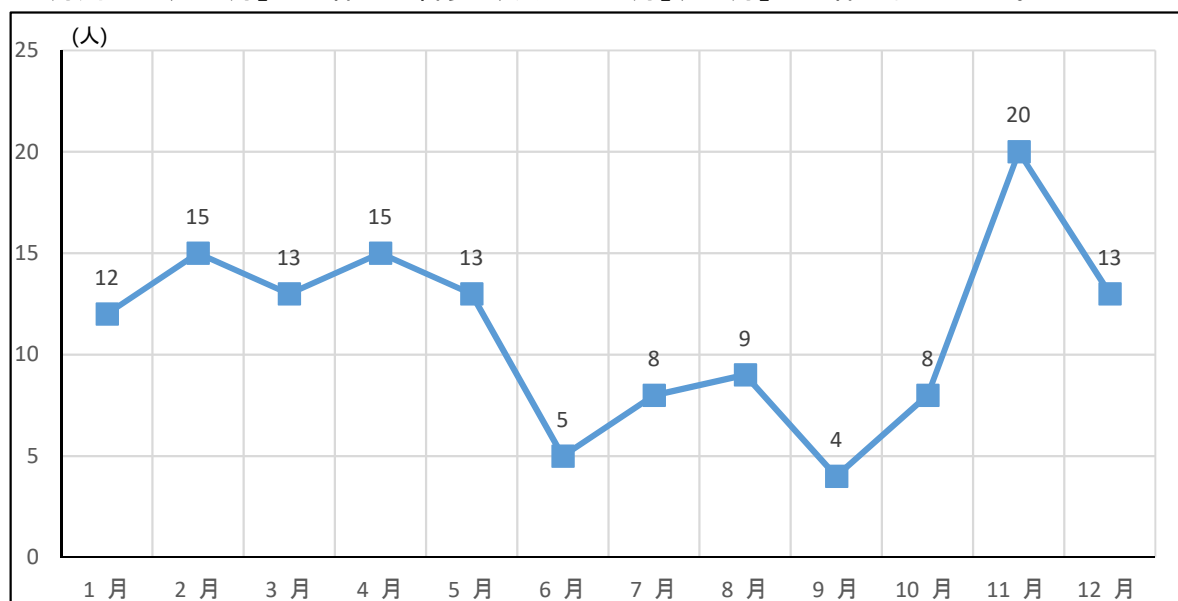


郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

(7) 火災による時間・曜日・月別救急搬送者数(2010〈平成22〉年～2018〈平成30〉年累計)

ウ 月別

月別では、「11月」が20件で一番多く、次いで「2月」、「4月」が15件となっている。

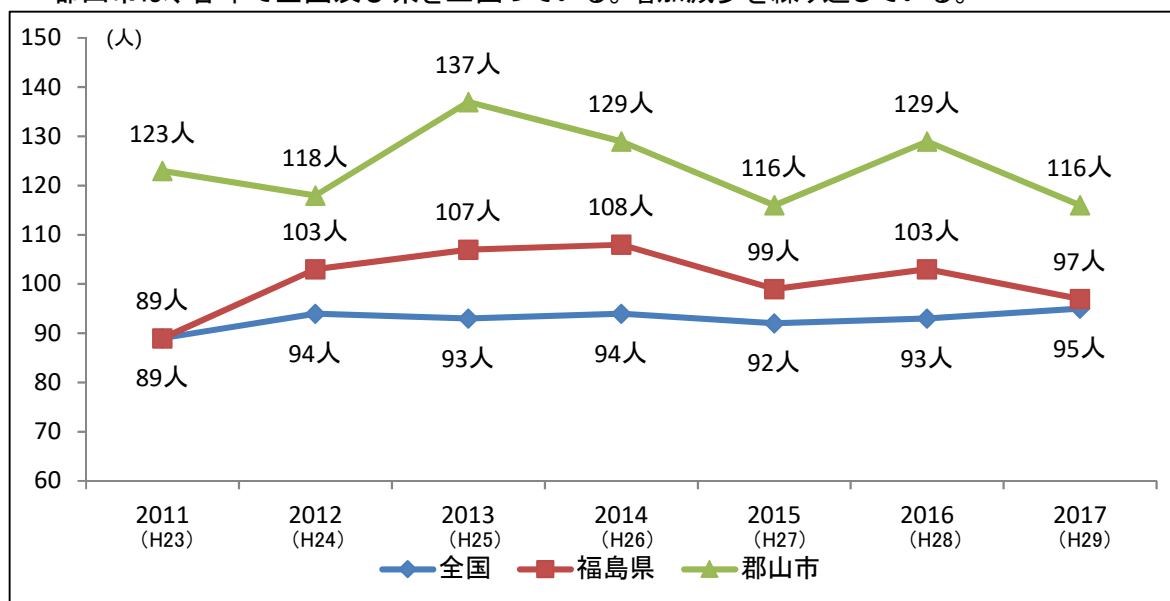


郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

分野6 防災・環境安全

(8) 全国・福島県・郡山市の労働災害による死傷者数推移(10万人あたり)

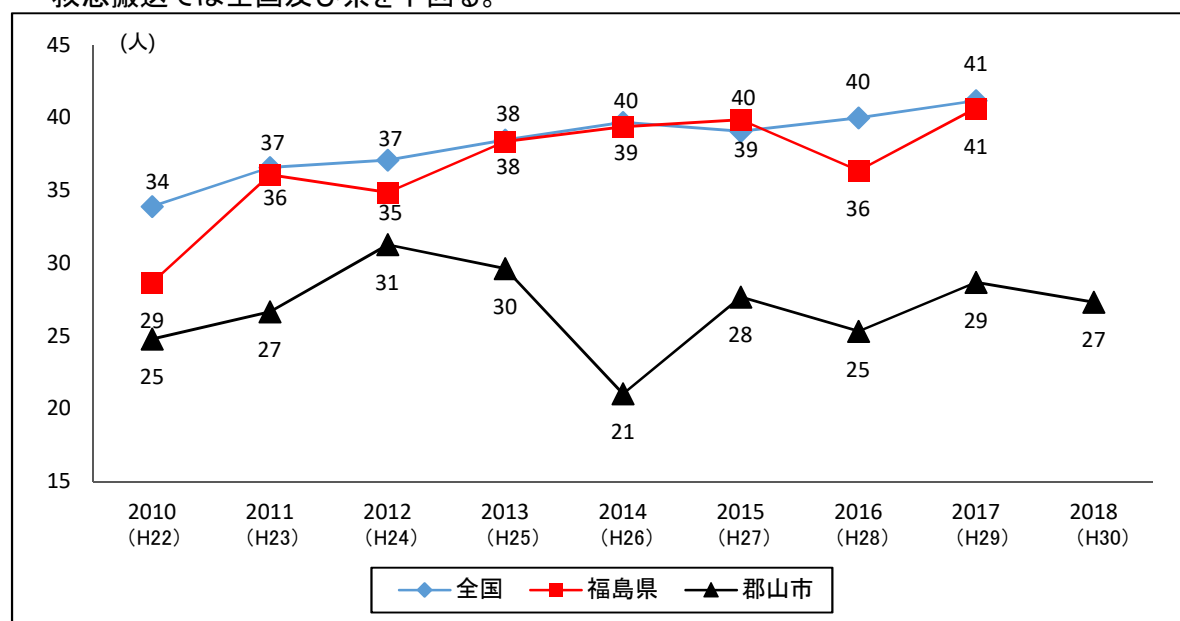
郡山市は、各年で全国及び県を上回っている。増加減少を繰り返している。



厚生労働省労働基準局・福島労働局・郡山労働基準監督署「平成23～29年労働災害発生状況」より

(9) 労働災害を要因とした救急搬送者数推移(2010〈平成22〉年～2018〈平成30〉年累計)

郡山市は、全国及び県を下回っている。また、2014(平成26)年以外はほぼ横ばいで推移している。(8)では、労働災害で死亡または負傷する割合が全国及び県より大きいですが、救急搬送では全国及び県を下回る。



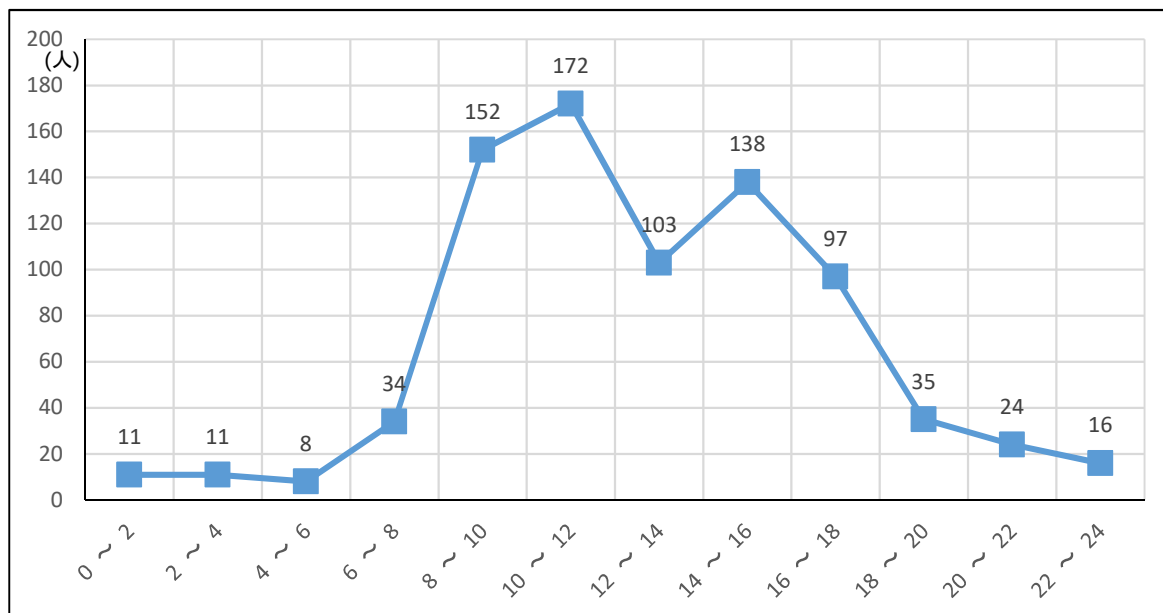
総務省消防庁「平成22～29年 消防白書」、福島県消防保安課「平成22～29年 消防防災年報」、郡山地方広域消防組合「平成22～30年 救急搬送データ(国表)」より

分野6 防災・環境安全

(10) 労働災害による時間・曜日・月別救急搬送者数 (2010〈平成22〉年～2018〈平成30〉年累計救急搬送者)

ア 時間別

「10～12時台」が172人で一番多く、次いで「8～10時台」が152人、「14～16時台」が138人となっている。

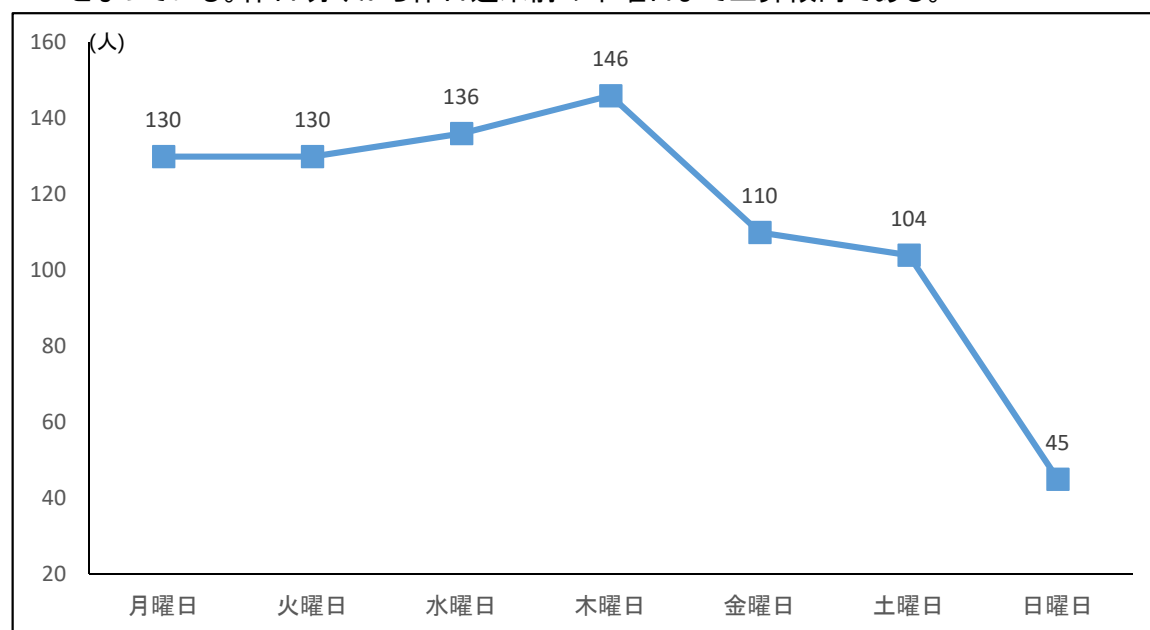


郡山地方広域消防組合「平成22～30年救急搬送データ(国表)」より

(10) 労働災害による時間・曜日・月別救急搬送者数 (2010〈平成22〉年～2018〈平成30〉年累計救急搬送者)

イ 曜日別

「木曜日」が146人で一番多く、次いで「水曜日」が136人、「月曜日」「火曜日」が130人となっている。休日明けから休日週末前の木曜日まで上昇傾向である。



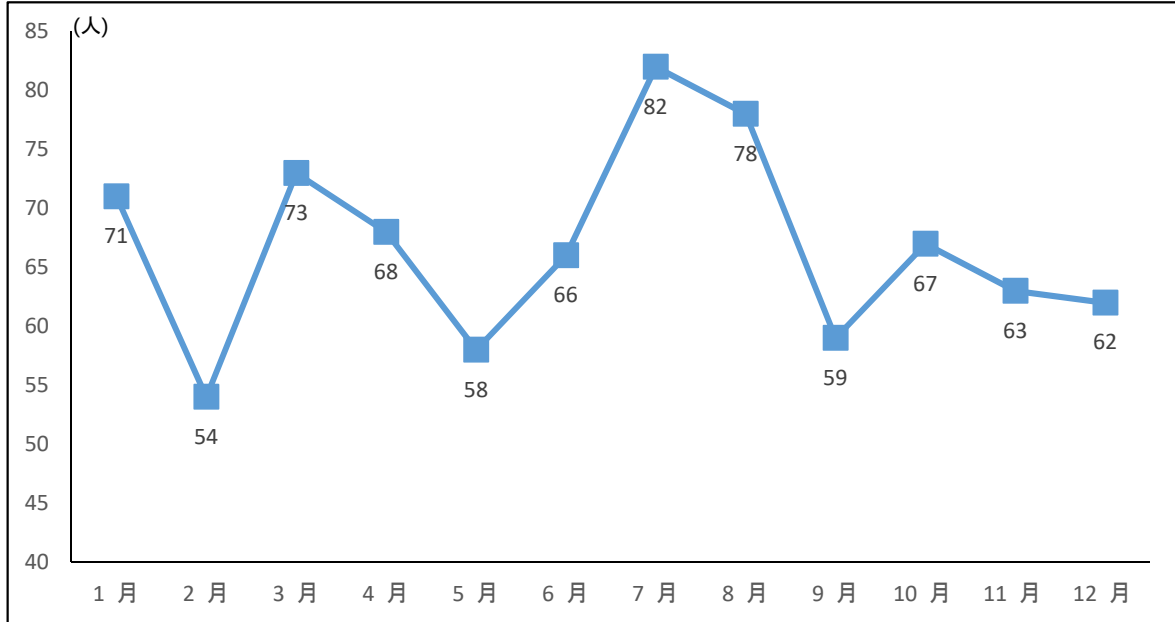
郡山地方広域消防組合「平成22～30年救急搬送データ(国表)」より

分野6 防災・環境安全

(10) 労働災害による時間・曜日・月別救急搬送者数 (2010〈平成22〉年～2018〈平成30〉年累計救急搬送者)

ウ 月別

「7月」が82人で一番多く、次いで「8月」が78人、「3月」が73人となっている。

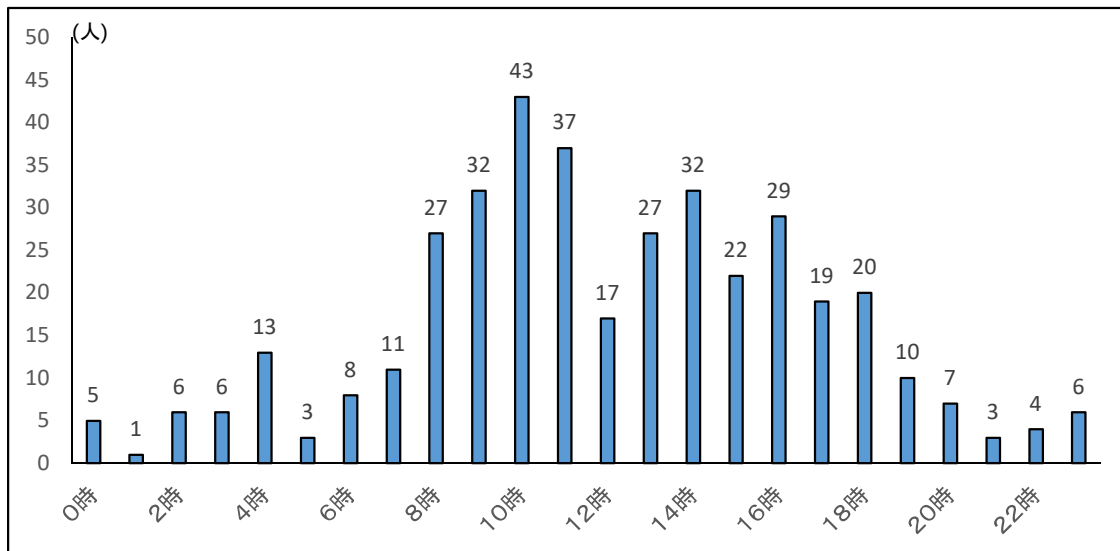


郡山地方広域消防組合「平成22～30年救急搬送データ(国表)」より

(11) 郡山市の時間帯・曜日・月別労働災害による死傷者数

ア 時間帯別

「10時台」が43人で一番多く、次いで「11時台」が37人、「9時台」と「14時台」が32人となっている。



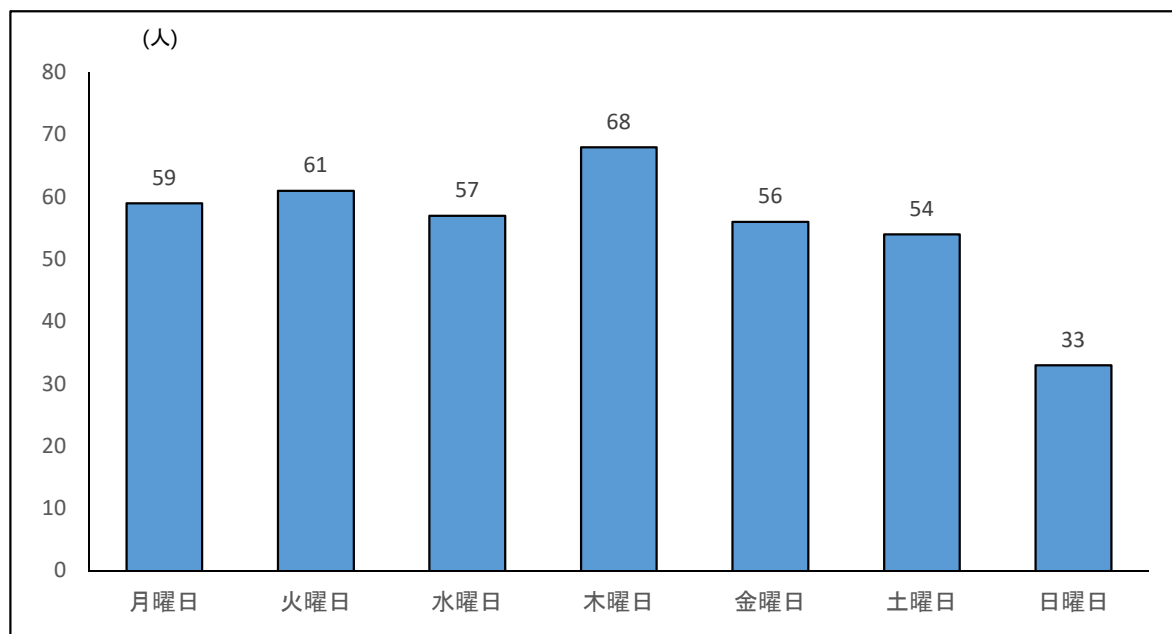
郡山労働基準監督署「平成29年労働災害発生状況」より

分野6 防災・環境安全

(11) 郡山市の時間帯・曜日・月別労働災害による死傷者数

イ 曜日別

月～土曜日までは大きな特徴は見られない。日曜日は、一番少なくなっている。



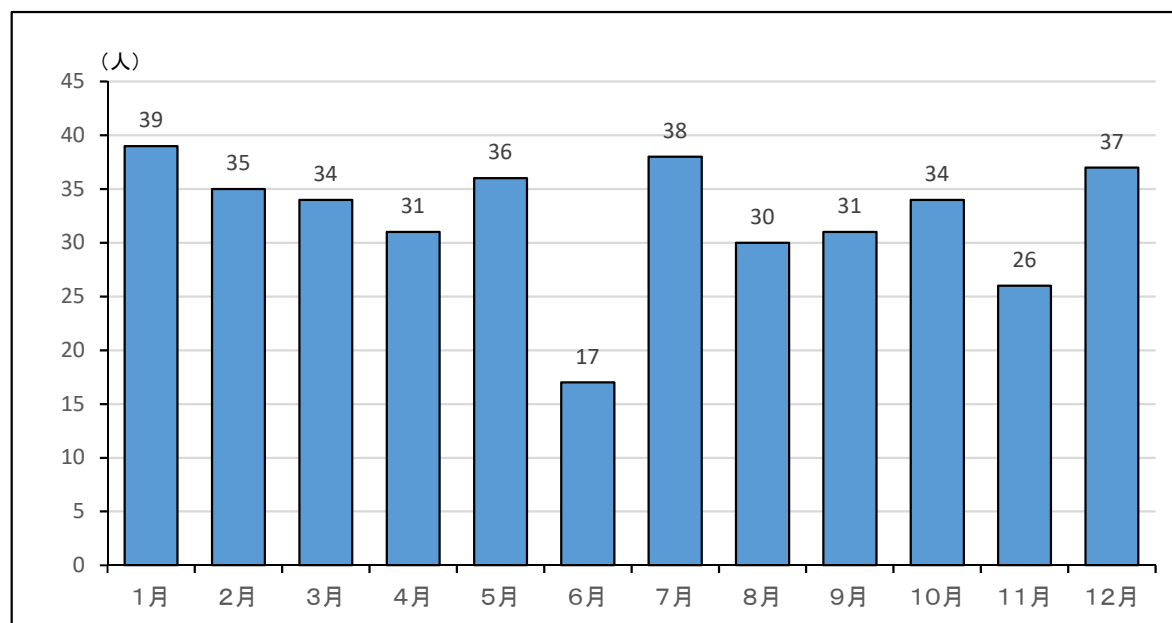
郡山労働基準監督署「平成29年労働災害発生状況」より

(11) 郡山市の時間帯・曜日・月別労働災害による死傷者数

ウ 月別

6月が17人と一番少ない。

また、1月が39人で一番多く、次いで7月が38人、12月が37人となっている。



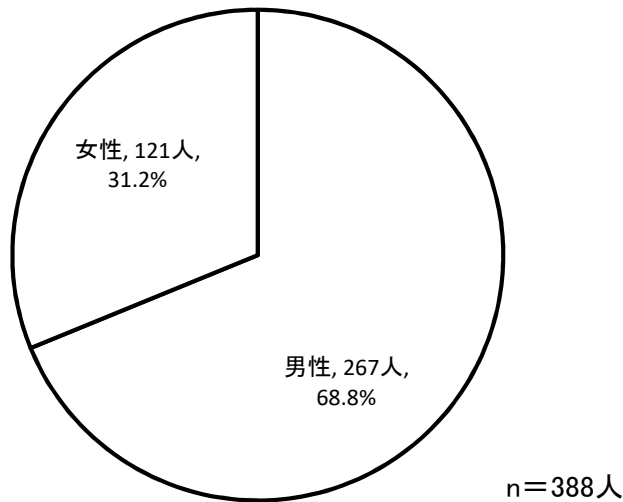
郡山労働基準監督署「平成29年労働災害発生状況」より

分野6 防災・環境安全

(12) 郡山市の男女別労働災害による死傷者数

男性が70.2%、女性が29.8%である。

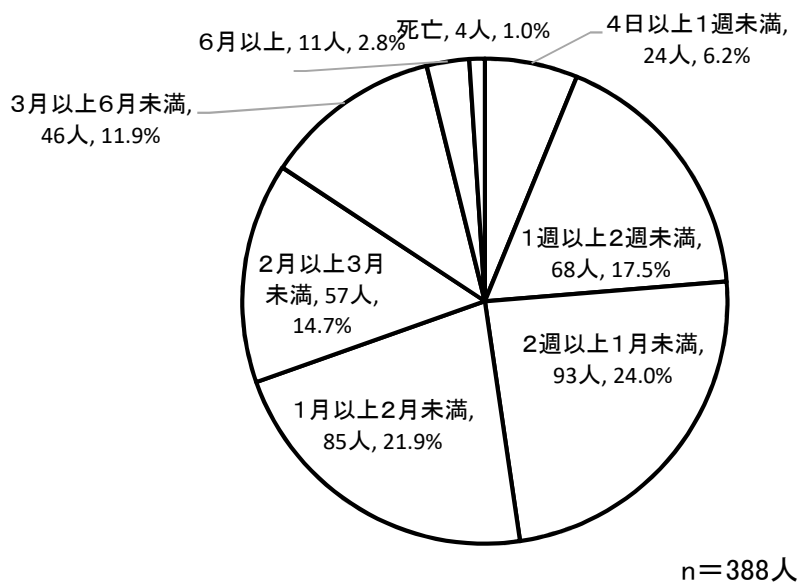
男性の就業割合は48.5%で、就業割合に比べ労働災害が発生しやすい。



郡山労働基準監督署「平成29年労働災害発生状況」より

(13) 郡山市の休業見込み期間別労働災害による死傷者数

「2週以上1月未満」が24.0%で一番多く、次いで「1月以上2月未満」が21.9%、「1週以上2週未満」が17.5%となっている。

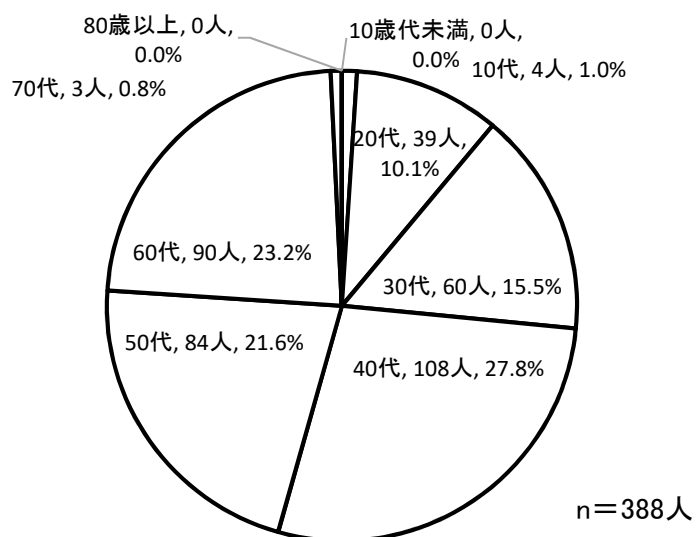


郡山労働基準監督署「平成29年労働災害発生状況」より

分野6 防災・環境安全

(14) 郡山市の年代別労働災害による死傷者数

「40代」が27.8%と一番多く、次いで「60代」が23.2%、「50代」が21.6%となっている。

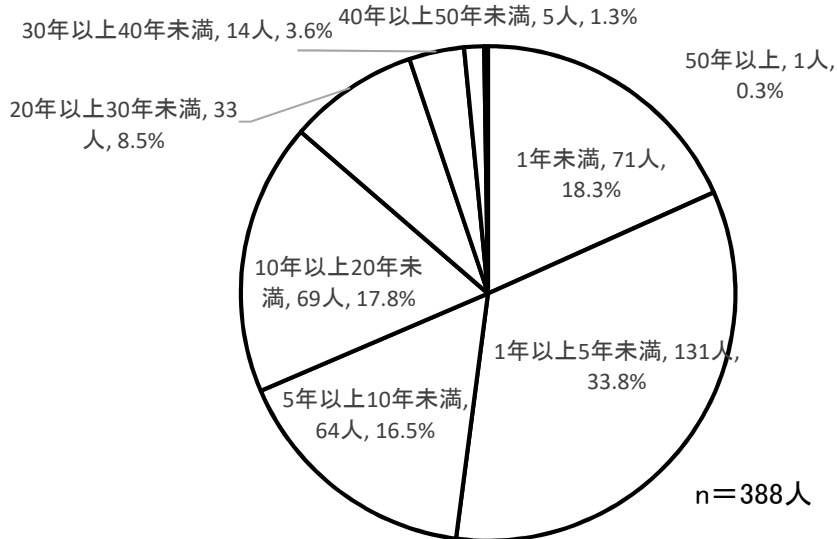


郡山労働基準監督署「平成29年労働災害発生状況」
より

分野6 防災・環境安全

(15) 郡山市の経験年数別労働災害による死傷者数

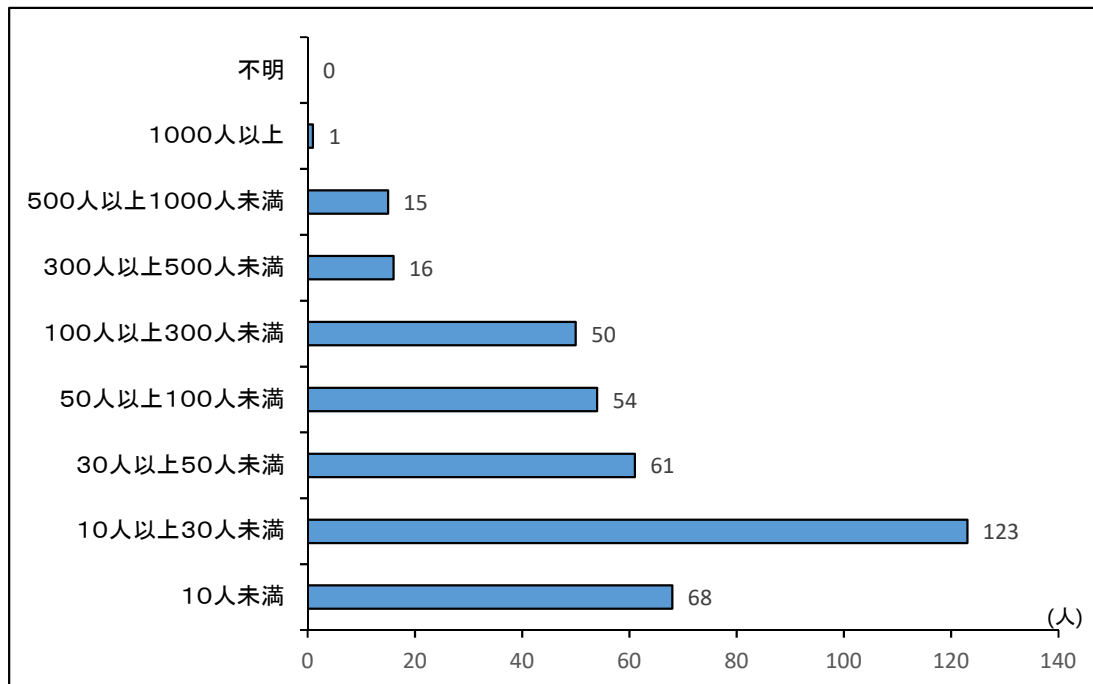
「1年以上5年未満」が33.8%、次いで「1年未満」が18.3%、「10年以上20年未満」が17.8%となっている。



郡山労働基準監督署「平成29年労働災害発生状況」より

(16) 郡山市の労働者数別労働災害による死傷者数

「10人以上30人未満」が123人で一番多く、次いで「10人未満」が68人、「30人以上50人未満」が61人となっている。

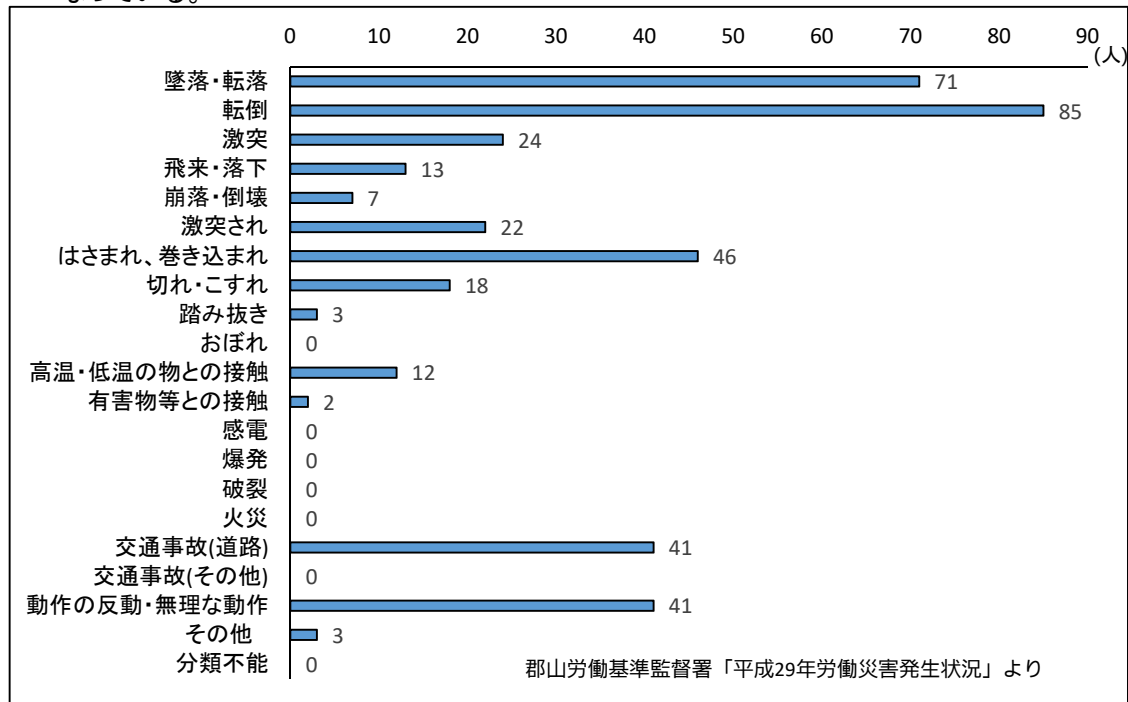


郡山労働基準監督署「平成29年労働災害発生状況」より

分野6 防災・環境安全

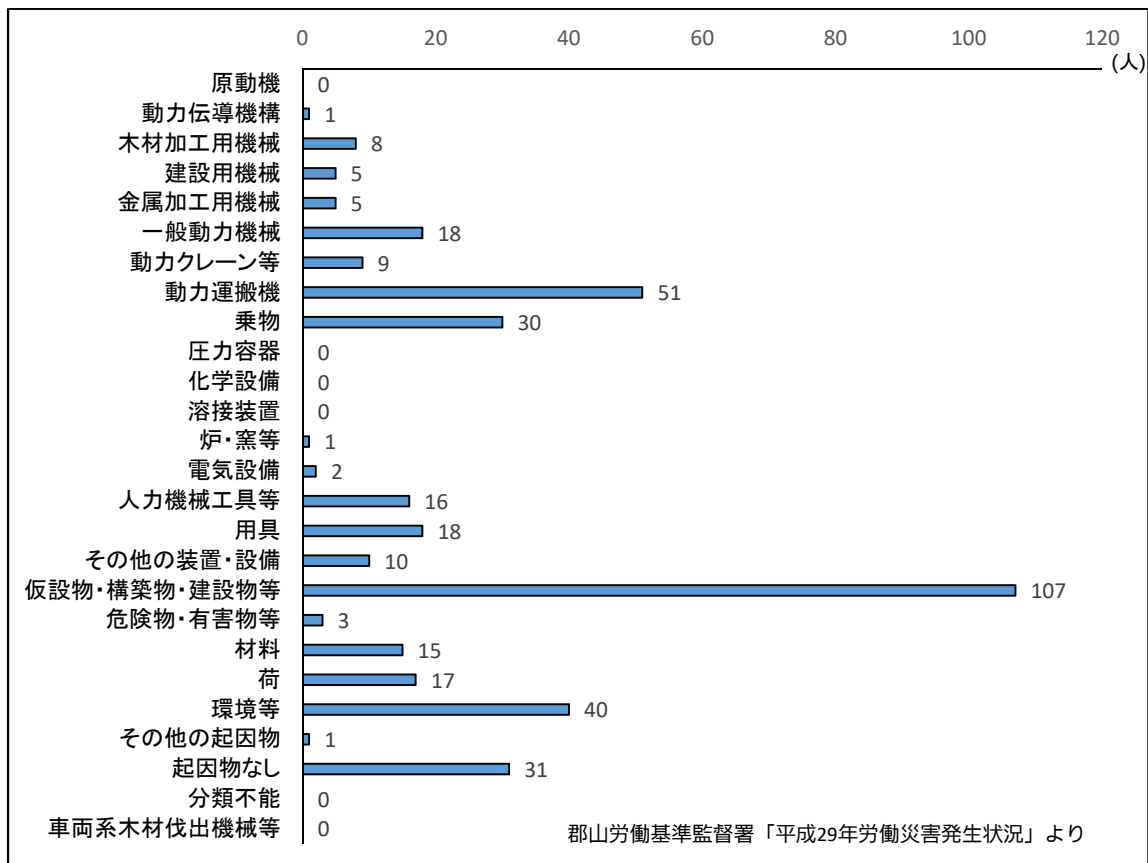
(17) 郡山市の事故の型別労働災害による死傷者数

「転倒」が85人で一番多く、次いで「墜落・転倒」が71人、「はさまれ、巻き込まれ」が46人となっている。



(18) 郡山市の起因物別労働災害による死傷者数

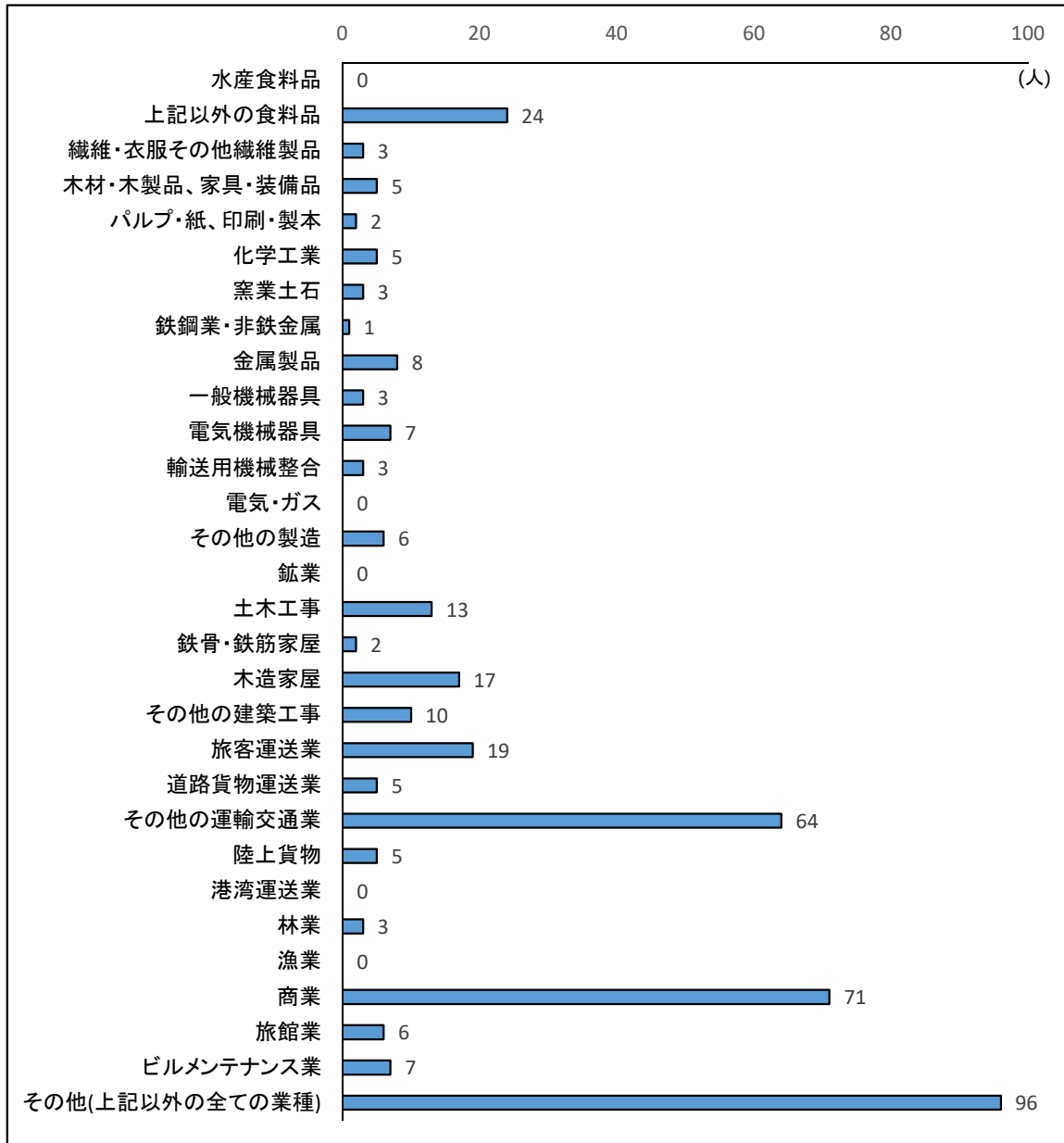
「仮設物・構築物・建設物等」が107人で一番多く、次いで「動力運搬機」が51人、「環境等」が40人となっている。



分野6 防災・環境安全

(19)業種別労働災害発生状況

「その他」が96人で一番多く、「商業」が71人、「その他の運輸交通業」が64人となっている。

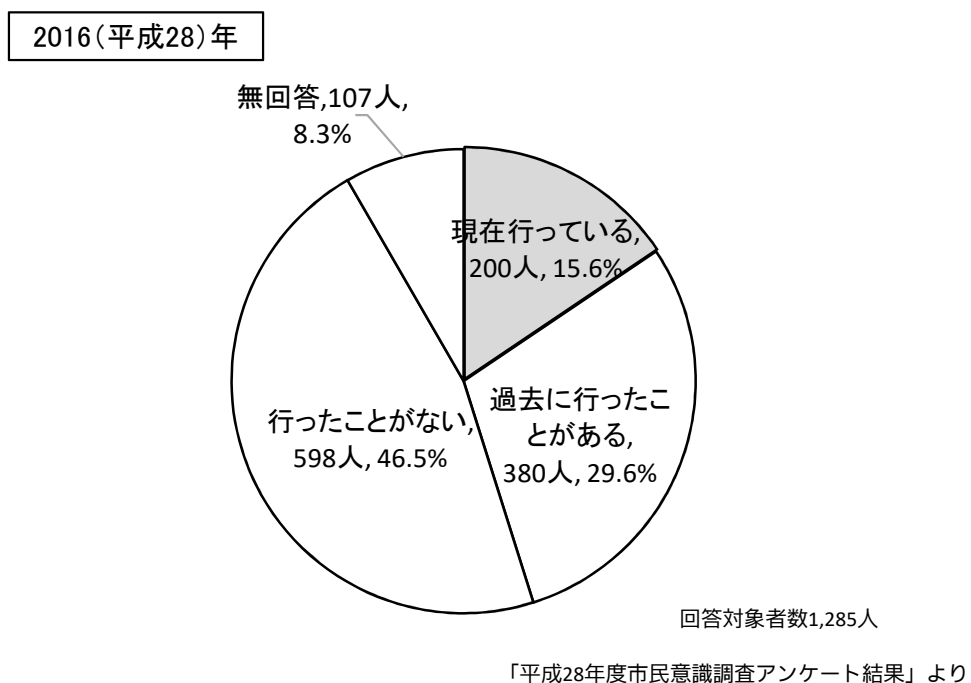
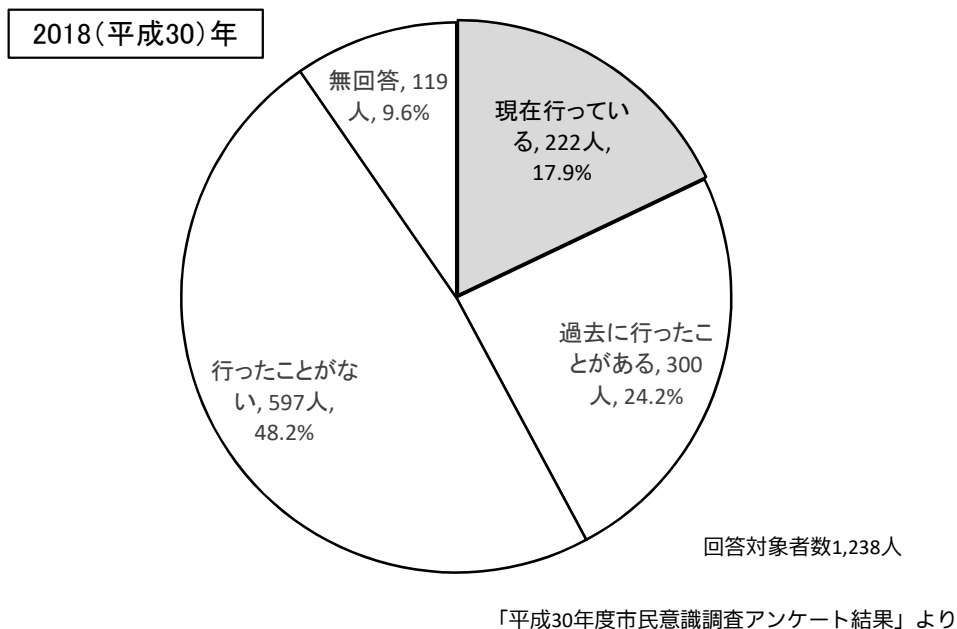


郡山労働基準監督署「平成29年労働災害発生状況」より

分野6 防災・環境安全

(13) 防災活動の取組状況

「現在行っている」を比べてみると、2016(平成28)年が15.6%、2018(平成30)年が17.9%と2016(平成28)年に比べ2.3ポイント上昇した。



参考 地区・地域別の市民意識調査結果

○現在、不安に感じているけがや事故等を選んでください。

特徴

- ・全体を見ると、どの地区も交通事故(69.4%)、地震(63.4%)を不安に感じている方の割合が多い。
- ・「自宅での転倒・転落」、「雪害、大雪」と回答した割合が1番高いのは湖南町である。
- ・「火災」と回答した割合が高い地域は、旧市内、富田町、富久山町、逢瀬町である。

		旧市内	富田町	大槻町	安積町	三穂田町	逢瀬町	片平町	喜久田町	日和田町	富久山町	湖南町	熱海町	田村町	西田町	中田町	合計
		728人	164人	225人	235人	26人	39人	42人	77人	59人	176人	29人	27人	118人	33人	37人	2,054人
自宅での転倒・転落等	人数	154	34	48	50	5	7	12	16	19	43	12	10	22	4	3	439
	割合	21.2%	20.7%	21.3%	21.3%	19.2%	17.9%	28.6%	20.8%	32.2%	24.4%	41.4%	37.0%	18.6%	12.1%	8.1%	21.4%
外出時の転倒・転落等	人数	174	35	46	51	6	3	10	13	21	50	9	8	19	3	5	453
	割合	23.9%	21.3%	20.4%	21.7%	23.1%	7.7%	23.8%	16.9%	35.6%	28.4%	31.0%	29.6%	16.1%	9.1%	13.5%	22.1%
交通事故	人数	509	128	154	170	20	29	25	60	44	125	18	13	80	27	24	1426
	割合	69.9%	78.0%	68.4%	72.3%	76.9%	74.4%	59.5%	77.9%	74.6%	71.0%	62.1%	48.1%	67.8%	81.8%	64.9%	69.4%
学校、幼稚園、保育所でのけが	人数	57	15	15	20	4	2	2	5	5	16	2	2	2	4	2	153
	割合	7.8%	9.1%	6.7%	8.5%	15.4%	5.1%	4.8%	6.5%	8.5%	9.1%	6.9%	7.4%	1.7%	12.1%	5.4%	7.4%
職場での事故・けが	人数	88	25	19	30	1	3	3	13	13	30	3	1	12	5	4	250
	割合	12.1%	15.2%	8.4%	12.8%	3.8%	7.7%	7.1%	16.9%	22.0%	17.0%	10.3%	3.7%	10.2%	15.2%	10.8%	12.2%
余暇・スポーツでの事故・けが	人数	76	22	13	19	2	3	0	8	8	12	4	2	4	5	3	1814
	割合	10.4%	13.4%	5.8%	8.1%	7.7%	7.7%	0.0%	10.4%	13.6%	6.8%	13.8%	7.4%	3.4%	15.2%	8.1%	8.8%
暴力(けんかを含む)	人数	46	7	11	5	1	1	3	9	2	11	3	1	3	3	1	107
	割合	6.3%	4.3%	4.9%	2.1%	3.8%	2.6%	7.1%	11.7%	3.4%	6.3%	10.3%	3.7%	2.5%	9.1%	2.7%	5.2%
いじめや虐待	人数	89	18	20	28	2	7	2	8	7	16	2	3	14	6	5	227
	割合	12.2%	11.0%	8.9%	11.9%	7.7%	17.9%	4.8%	10.4%	11.9%	9.1%	6.9%	11.1%	11.9%	18.2%	13.5%	11.1%
犯罪被害	人数	210	43	59	52	4	8	9	23	15	44	7	5	18	8	8	513
	割合	28.8%	26.2%	26.2%	22.1%	15.4%	20.5%	21.4%	29.9%	25.4%	25.0%	24.1%	18.5%	15.3%	24.2%	21.6%	25.0%
火災	人数	280	66	79	72	9	15	8	29	19	65	8	10	27	11	10	708
	割合	38.5%	40.2%	35.1%	30.6%	34.6%	38.5%	19.0%	37.7%	32.2%	36.9%	27.6%	37.0%	22.9%	33.3%	27.0%	34.5%
地震	人数	480	110	150	160	17	24	25	44	43	122	16	11	68	17	16	1303
	割合	65.9%	67.1%	66.7%	68.1%	65.4%	61.5%	59.5%	57.1%	72.9%	69.3%	55.2%	40.7%	57.6%	51.5%	43.2%	63.4%
風水害	人数	249	47	56	70	10	11	3	26	21	69	11	6	32	8	9	628
	割合	34.2%	28.7%	24.9%	29.8%	38.5%	28.2%	7.1%	33.8%	35.6%	39.2%	37.9%	22.2%	27.1%	24.2%	24.3%	30.6%
土砂災害	人数	47	8	9	16	1	6	1	7	4	21	9	4	7	9	7	156
	割合	6.5%	4.9%	4.0%	6.8%	3.8%	15.4%	2.4%	9.1%	6.8%	11.9%	31.0%	14.8%	5.9%	27.3%	18.9%	7.6%
火山災害	人数	50	11	13	12	2	0	0	8	6	12	1	3	3	1	0	122
	割合	6.9%	6.7%	5.8%	5.1%	7.7%	0.0%	0.0%	10.4%	10.2%	6.8%	3.4%	11.1%	2.5%	3.0%	0.0%	5.9%
雪害、大雪	人数	161	39	54	56	9	14	6	18	13	44	19	13	20	6	13	485
	割合	22.1%	23.8%	24.0%	23.8%	34.6%	35.9%	14.3%	23.4%	22.0%	25.0%	65.5%	48.1%	16.9%	18.2%	35.1%	23.6%
原子力災害	人数	236	44	77	76	8	13	9	23	20	49	5	5	30	11	10	616
	割合	32.4%	26.8%	34.2%	32.3%	30.8%	33.3%	21.4%	29.9%	33.9%	27.8%	17.2%	18.5%	25.4%	33.3%	27.0%	30.0%
身近な人の自殺、自殺未遂	人数	29	7	12	5	0	2	0	4	4	8	1	0	4	2	0	78
	割合	4.0%	4.3%	5.3%	2.1%	0.0%	5.1%	0.0%	5.2%	6.8%	4.5%	3.4%	0.0%	3.4%	6.1%	0.0%	3.8%
その他	人数	14	5	5	6	0	0	1	2	1	3	0	0	2	1	0	40
	割合	1.9%	3.0%	2.2%	2.6%	0.0%	0.0%	2.4%	2.6%	1.7%	1.7%	0.0%	0.0%	1.7%	3.0%	0.0%	1.9%
計	回答数	2949	664	840	898	101	148	119	316	265	740	130	97	367	131	120	7885
	割合	405.1%	404.9%	373.3%	382.1%	388.5%	379.5%	283.3%	410.4%	449.2%	420.5%	448.3%	359.3%	311.0%	397.0%	324.3%	383.9%

「平成30年度市民意識調査アンケート結果」より

参考 地区・地域別の市民意識調査結果

○セーフコミュニティ認知度

特徴

・聞いたことがあるを含めると、42.4%がセーフコミュニティを知っているが、内容を理解しているのは8.8%である。

		旧市内	富田町	大槻町	安積町	三穂田町	逢瀬町	片平町	喜久田町	日和田町	富久山町	湖南町	熱海町	田村町	西田町	中田町	無回答	合計
		728人	164人	225人	235人	26人	39人	42人	77人	59人	176人	29人	27人	118人	33人	37人	39人	2,054人
内容をよく理解している	人数	14	0	5	6	0	0	0	1	1	0	2	1	0	0	1	0	31
	割合	1.9%	0.0%	2.2%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	1.7%	0.0%	6.9%	3.7%	0.0%	0.0%	2.7%	0.0%	1.5%
内容を少し知っている	人数	56	14	23	12	0	6	4	2	4	11	6	2	4	3	3	0	150
	割合	7.7%	8.5%	10.2%	5.1%	0.0%	15.4%	9.5%	2.6%	6.8%	6.3%	20.7%	7.4%	3.4%	9.1%	8.1%	0.0%	7.3%
「セーフコミュニティ」という言葉は聞いたことがあるが、内容はよく知らない	人数	254	42	67	95	13	12	10	22	22	63	7	13	41	12	13	3	689
	割合	34.9%	25.6%	29.8%	40.4%	50.0%	30.8%	23.8%	28.6%	37.3%	35.8%	24.1%	48.1%	34.7%	36.4%	35.1%	7.7%	33.5%
「セーフコミュニティ」という言葉も聞いたことがない	人数	386	105	126	114	13	21	25	51	30	100	12	10	68	16	15	4	1096
	割合	53.0%	64.0%	56.0%	48.5%	50.0%	53.8%	59.5%	66.2%	50.8%	56.8%	41.4%	37.0%	57.6%	48.5%	40.5%	10.3%	53.4%
無回答	人数	18	3	4	8	0	0	3	1	2	2	2	1	5	2	5	32	6
	割合	2.5%	1.8%	1.8%	3.4%	0.0%	0.0%	7.1%	1.3%	3.4%	1.1%	6.9%	3.7%	4.2%	6.1%	13.5%	82.1%	4.3%
【参考】内容を理解している方の地域別割合		旧	富	大	安	三	逢	片	喜	日	富	湖	熱	田	西	中	計8.8%	
		9.6%	8.5%	12.4%	7.7%	0.0%	15.4%	9.5%	3.9%	8.5%	6.3%	27.6%	11.1%	3.4%	9.1%	10.8%		

「平成30年度市民意識調査アンケート結果」より

参考 地区・地域別の市民意識調査結果

○郡山市を他の地域と比べた場合、安全なまちだと感じるか 特徴

・「強く思う」と「そう思う」と回答した方を合わせると、熱海町が77.8%と一番高くなっている。

		旧市内	富田町	大槻町	安積町	三穂田町	逢瀬町	片平町	喜久田町	日和田町	富久山町	湖南町	熱海町	田村町	西田町	中田町	無回答	合計
		728人	164人	225人	235人	26人	39人	42人	77人	59人	176人	29人	27人	118人	33人	37人	39人	2,054人
強く思う	人数	31	6	8	5	3	3	0	3	1	7	4	3	4	1	1	0	80
	割合	4.3%	3.7%	3.6%	2.1%	11.5%	7.7%	0.0%	3.9%	1.7%	4.0%	13.8%	11.1%	3.4%	3.0%	2.7%	0.0%	3.9%
そう思う	人数	324	60	98	113	6	15	16	33	30	79	15	18	59	10	15	3	894
	割合	44.5%	36.6%	43.6%	48.1%	23.1%	38.5%	38.1%	42.9%	50.8%	44.9%	51.7%	66.7%	50.0%	30.3%	40.5%	7.7%	43.5%
どちらともいえない	人数	281	83	100	85	14	17	21	30	20	68	6	3	45	16	17	2	808
	割合	38.6%	50.6%	44.4%	36.2%	53.8%	43.6%	50.0%	39.0%	33.9%	38.6%	20.7%	11.1%	38.1%	48.5%	45.9%	5.1%	39.3%
そう思わない	人数	75	13	14	19	2	3	4	10	4	18	3	1	9	5	1	1	182
	割合	10.3%	7.9%	6.2%	8.1%	7.7%	7.7%	9.5%	13.0%	6.8%	10.2%	10.3%	3.7%	7.6%	15.2%	2.7%	2.6%	8.9%
まったく思わない	人数	13	1	2	7	1	0	1	1	2	3	1	0	1	1	2	0	36
	割合	1.8%	0.6%	0.9%	3.0%	3.8%	0.0%	2.4%	1.3%	3.4%	1.7%	3.4%	0.0%	0.8%	3.0%	5.4%	0.0%	1.8%
無回答	人数	4	1	3	6	0	1	0	0	2	1	0	2	0	0	1	33	54
	割合	0.5%	0.6%	1.3%	2.6%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	3.4%	0.6%	0.0%	7.4%	0.0%	0.0%	2.7%	84.6%	2.6%

「平成30年度市民意識調査アンケート結果」より